
東方、妙なのが幻想入り

BadApple

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方、妙なのが幻想入り

【Nコード】

N2602S

【作者名】

Bad Apple

【あらすじ】

最近東方にハマって書きたくなつたから書いた、後悔はしているだが反省はしてない。

東方Projectに最近手を出した主人公が幻想入りする話です
ある小説の主人公さんと能力が被ってますが一応許可はもらってます

* 要注意 *

主人公は女で変態です、

強さはチートですが作者の腕が三流以下なため発揮する場が少ないです、

原作キャラ達が毒されていきます、

自重なんてあまりしてません、

駄文＋ぐだぐだです、

独自解釈、独自設定等があります

これ等の内一つでも受け付けない、または嫌な予感が出た方は今すぐバックして下さい

「良いぜ、来いよ」って方はそのままお進み下さい

いきなり幻想入り（前書き）

いきなりです、超説明不足、以上

いきなり幻想入り

いきなり過ぎて訳がわからない、というかなんか最近聞いた覚えのある場所と名前を言われた
どこで聞いたんだっけ、確かあれは休日の昼間だったような気がする
まずは記憶を掘り起こそう

「あー、幻想郷いきてーそして霊夢とフラグ立ててー」

「はいはい、さっさと宿題終わらせ」

あー、思い出した確か俺の限りなく少ない友達の一人在んな事言つてたっけ

んでなんか熱弁されて無理矢理知識を叩き込まれて追い出したな

つてまで、幻想郷行き？博麗神社？スキマ妖怪？

さようなら私の日常、初めまして私の非日常

「整理はついたかしら？」

「ついた、つきたくないのについた」

「そう、それじゃ行つてらっしゃい。まずは博麗神社を目指すのよ」とかいいながら人を落とすなよ、というか何故俺が幻想入りしなくちゃなんのだ

後で聞くか、まあこうして何故か幻想入りしてしまった俺であつた

うん、予想はしてたさ

でもまさか魔法の森の真上なんて誰が予想したよ

「ぬえぬりゃー！！！！！！」

ドン、木に引つ掛かつたりしなくて良かったけどお尻が痛い
取り敢えず、博麗神社目指すか

厄介事に捲き込まれる前にと言いたい、けど思いつきりなんかふよふよ浮いてるのが何かを飛ばし……って標的は俺！？

「くそー！！！！予想してたけどやっぱり嫌だー！！！！」

そのまま全力疾走、弾幕（多分）を避けながら
そして二十分経過して

ようやく森を抜けた、けど次の難関が登場

「道が分からねえ、取り敢えず誰か探すか」

結果的には迷う訳か

いきなり幻想入り（後書き）

はい、始めました

???「なあ、紫の口調とかあってるのか？そして俺は何者だ」

作者は東方の知識皆無です、ですからもし口調が間違っていたりしたら言って下さい次から直します

???「次からかよ、というかなんで魔法の森？そしてあの人は出ないのか？」

・・・作者はノリと勢いで書いてます、最新は速かったり遅かったりします

???「話を変えるな、質問を答えを要求する」

Q1、何故魔法の森？

A、博麗神社の真上でも良かったけど何となくで魔法の森にした

Q2、白黒の魔法使いは出ますか？

A、分かりません、多分出したら博麗神社へ直行です

???「ノープランすぎる」

ノリと勢いだからね、次からはきちんと長くするから大丈夫だよ
まあ、スペカとか異変の内容とか君の設定とか色々あるけどね

???「おい、やつちゃって良いぞ」

マスタースパーク!!!

ハハ、後書き終わ」

博麗神社に到着しました（前書き）

はい、魔理沙と霊夢が登場します

口調とか違っていたり、ここをこうしたら良いよという指摘やアドバ
イスは受け付けてますので

初心者なんです、？なんです

博麗神社に到着しました

ヤベエ、マジで迷った

弾幕も来なくなつて良かったけど、迷いました

スキマから落とされて一時間ぐらい経つても全く着く気配はない、
それどころか遠退いている気がする

アッハツハ、こんな時は笑おう

なんか目から汗が流れそうだけにするな、気にしたら試合終了
だよ

「マジでどおすんのよ、地図もくそもないのに迷うつてどおよ、し
かも夜になれば成る程死亡フラグだし……魔理沙でもない
かなあ」

いたら博麗神社まで連れてつて貰おう、それが良いよね

あれ？なんだろ、一人は慣れてるのに汗が出てきた

ヤバイ、食われる可能性＋一人だけという状態だけで精神が弱つて
るよ

マジで来て

「ん、こんなところでなにしてんだぜ？」

「実は……………」

～～説明中～～

「成る程な、それなら私が博麗神社まで連れてつてやるぜ」

やったあ、魔理沙ありがとう
そして俺は箒に乗せてもらって博麗神社に向かった

くく一方その頃博麗神社ではくく

「で、あんたが連れて来たっていう外来人はどんなやつなのよ」

「もうすぐ会えるから自分の目で確かめなさい、色々面白い人だから」

全く、いきなり人の家に来て外で外来人が来るのを待ってるだなんて
まずはその外来人に何か払って貰おうかしらね、その後はお賽銭で
も入れて貰うでしょう

「ほら、博麗神社についたぜ」

「ありがとう魔理沙、そしてスキマちよっと面貸せや」

……魔理沙と一緒に来たのが紫が言ってた外来人よね、魔理
沙にお礼言った後笑顔でなんか凄い事言ってる気が

霊夢が驚いてるけどんな事は気にしない、まずはあのスキマに一言
言いてえ

「遅かったわね、迷ったりしてたのかしら？」

「魔理沙が救いの女神に見えるぐらい迷ったわ、誰かさんが魔法の
森の真上に落としてくれたからな」

「あら、それでも生きてるから良いじゃない」

「一歩間違えば死んでたからな、もう夕方だからな？夜は妖怪が活
発になるって話しじゃねえか・・・」

「そんなに怒ってばっかりだと可愛い顔が台無しよ？」

怒りが静まりました、初対面でわかってくれたのは紫が初めてだ
まさかとは思いつけど覗いてたりしてないよな

「紫、どういう事が説明しなさいよ」

「そうだぜ、そいつが何者か教えて欲しいぜ」

霊夢、多分あんたは何故可愛いと言ったかが気になるんじゃないの

か？

「彼女から聞きなさい、質問があるならね」

「丸投げかい」

質問の内容は省く、というより簡単に纏めたらこうなる

Q、それであんたは女の子なの？

A、口調と服装からは予想つかないだろうけど女です、証拠は・・・
・・・（良い子は見ちゃ駄目な行動中）

Q、名前を教えてください

A、虎狼熊狸ころう ゆうりです

Q、能力とかは聞かされてるの？

A、全く

以上がまともな質問、他はキャラが被ってない？とかだぜ
・・・自分で思ったけど。。。だぜは魔理沙だから似合うんだ
な、うん

「じゃあ能力をみるからこっちに来なさい」

「へいよ」

紫の指示に従いながら五分後、能力が分かった

感情を操る程度の能力だそうだ、喜怒哀楽だけでなく殺意や恐怖と
かも操れるらしい

まあ、コントロール出来るまでは基本的な感情しか操る事は出来な
いらしいけどな

「感情を操る能力か、ある意味恐ろしいぜ」

「そうね、味方なら心強いけど敵だと厄介ね」

「……ヤベ、霊夢は手元に俺を置いておくつもりだ

魔理沙は、なんとなく「本を借りに紅魔館まで行くからついて来て欲しいんだぜ」とかいそうだなあ

言われたら全力で逃げるけど

「それじゃ後は頼んだわよ霊夢、じゃあね」

「それじゃあ私は帰るぜ、じゃあな霊夢」

二人共帰ってつたな、残された腋巫女と妙な奴
これからどうしようかね、とりあえず話をしない事には始まらないな

「あの、霊夢さん？俺はどうしたら」

「お賽銭入れてくれるなら泊めてあげても良いわよ」

すぐ賽銭箱に三百円入れて来ました、寝床が手に入るなら安い
という事で今日は博麗神社に止まります

博麗神社に到着しました（後書き）

主人公・虎狼熊狸

性別・女

性格・男っぽい・男口調

身長・147?

容姿・黒いシャツ、黒い片翼のネックレス、そしてダメージジーンズ
学力・上の中ぐらい

軽い補足・微乳+サラシ〃ナイチチ

→を指摘されると苛つく

という事で主人公の熊狸です、どうぞ

熊狸「名前が全て動物って、虎に狼に熊に狸って」

なんとなくで決めた、そして前話で私って言ってたけどあれは諦めモードに入るか公式の場でしか使いません

熊狸「後、スカートは一度も穿いた事はない」

男の娘だよね、女装少年ならぬ男装少女

熊狸「こういうキャラにしたのは誰だ、で能力の説明しとけよ」

感情を操る程度の能力

喜怒哀楽以外にも殺意や恐怖といった一時的な感情も操れる、相手を使い手の好きなように出来たり、好意的に相手を惚れさせる事も出来る

後、感情に似たやる気や気合いも操れる

だがコントロールが大変、なにかを下げる代わりに上げる必要がある例えば殺意を下げる代わりに恐怖を上げる、こんな感じです

熊狸「半チート？」

でもこの能力、案外一部でしかフル活用しなかったり

熊狸「作者が気に入ってるアイツか」

うん、でもやっぱり霊夢が一番だよ

好きなカップリングはレイマリ

霊夢「変態ね」

熊狸「変態だな」

・・・熊狸、君は性別が女であると証明するため何をした？

熊狸「俺の胸とバキューンを触らした後少し百合展開を」

（。Д）は？

熊狸「作者が固まったな、俺は積極的だぞ・・・面倒事以外は」

（。Д）

熊狸「駄目だこりゃ、感想やアドバイスやこんなのやったらどう？的なのも受け付けているからな、それじゃこれで今回の後書きは終

わりだ
「

俺のふざけた幻想はぶち壊される(前書き)

希望は儚く簡単にぶち壊される、皆の者覚悟しろ
自分は普通だと思うな

b y 虎狼熊狸

俺のふざけた幻想はぶち壊される

1日霊夢と1つ屋根の下で暮らした熊狸です、寝顔を拝見出来て良かったと思ってます

さつきからなぜ敬語？と思ってる貴方方、理由を教えましょうそれは今俺が霊夢から説教食らってるからです、何故かって？それはズバリ、霊夢の上に寝ぼけて乗っちゃいました誰だ「変態」って言った奴は、言ってない？なら良いや

「あの、いい加減足が痺れて来たんですが」

「私にあんな事しといてよく言えるわねえ、後三時間ぐらい正座しときなさい」

鬼だ、笑顔なのに冷たく感じるのは何故だろう

っていうかこのままじゃマジで三時間正座させられそだな、仕方ない最終手段だ

伝われ、俺の思い！！寶錢箱へ

チャリン、よし入ったこれで霊夢も機嫌を直すだろ

「……………正座解いて良いわよ」

「あゝ、足が痺れきた」

マジで痺れきた、まともに歩けないじゃないか

さてとりあえずは、幻想郷で生きる為にいるものだよね

いるものと言えは……………弾幕だよな、スペカより弾幕が先だよ

「霊夢、弹幕の撃ち方教えてくれ」

「紫か魔理沙に教えてもらいなさい、私はお茶飲むのに忙しいんだから」

「お茶飲むのに忙しいもないだろ」

魔理沙とハモった、そして教える気0%の腋巫女は置いていて魔理沙に弹幕を教えてもらいます

「……弹幕はパワーだぜ、魔理沙がそれだけ言ってよしやれと仰りやがります」

まあ良いや、パワーだな？パワーで良いんだな？

「っ、出来たよ……確かにパワーだぜ」

「だろ？だから言っただじゃないか、弹幕はパワーだぜってな」

魔理沙？多分力量の問題もあるからね？意味不明なまま幻想入りしちゃってる変な奴だから出来たという可能性もあるからね？

まあ、あるわけないか。だって種族人間、今まで能力もない世界で平々凡々に生きてたやつだし……多分

「ふん、力のコントロールが上手いのかも知れないわね。このまま能力も少し使ってみたら？」

「何時から見てたかは聞かない、能力が確かに少し使ってはみたいが……」

実験台……じゃなくて試させてくれる人物がな、というかまずは自分に使えるかだよな

「魔理沙、悪いけどなんかイラッとする事言ってくれないか」

「ナイチチ、男女、ニート」

落ち着け、怒りよ静まれ

冷静になれ、クールになるんだ虎狼熊狸

……怒りが際頂点に達しそうだ、怒りを静める代わりに何時もの能天気さを上げよう

怒りよ下がれ、そして何時もの調子になれ

「スッゴい笑顔になってるわよ、魔理沙？」

「そうだな、私もうすぐ終わるのかもな」

「大丈夫だ、何時もの調子に戻った」

そう言った瞬間魔理沙が緊張を解いたな、そこまでヤバい笑顔だったのか

普段笑わない奴が笑うと怖いというからな、まあ一応能力についてわかったのは

何かを下げる代わりに何かを上げなくてはならない、という事が万能じゃないか流石に、万能だったら少し欲望の為に使おうかと思っただけに

決してピーな事ではないぞ、ただみただけだ
何がは……わかるよな？

「変態思考になってるわよ」

「人の思考を読むな」

「顔に出てただけよ」

「・・・・・・・・・・霊夢にバレてないよな？」

「次会った時に顔の形が変わって無いことを祈ってるわね」

ヤベ、紫が逃げたって事は霊夢にバレてる可能性がある

振り向きたくないな、肩に置かれてる手に力が入ってきてるよ
A級危険生物（変態的な意味で）確定だな、現実逃避しても現実は
変わらないよね

初日にいきなり変なところ触らせられて、翌日の朝には馬乗りにな
られて更には妙な妄想の題材にされたら怒りますよね

「これで許して下さい」

「殴らせなさい」

諭吉を人の手から受け取った後に言うセリフではない、そして言っ
た直後に殴らないで下さいマジで痛かった

「霊夢を金でどうにかしようなんて間違った考えだぜ、それとさっ
きから文屋が何か書いてたぜ霊夢？」

「魔理沙、今すぐ捕まえて来なさい」

「多分そこら辺にまだいるんじゃないか？」

射命丸、多分外来人の噂を嗅ぎ付けてきたな
あ、霊夢に見付かった

「あやや、見付かつちやいましたか」

「今日は何を書こうとしてたの、もし変な事を書いてたらぶっ飛ばすわよ」

「今日は博麗神社で世話になってるという外来人を取材しに」

「その変態（外来人）ならそこにいるわよ、取材したいならしなさい」

霊夢、ルビがおかしいとは思わないのか？普通は外来人（変態）だろ？なのに何故逆なんだ

俺をそこまで変態と思ってるのか、そうとしか言えないわな

人が気落ちしてる横で取材の準備が出来ている射命丸、一応取材を受けるか

「取材するならどうぞ」

「では、まず名前から……………」

名前から始まって色々聞かれた、一応少しわかってほしいところはあげとこう

Q1 家族構成を

A 父親、自分、組のメンバー大多数

Q2 組のメンバーとは？

A ヤクザです

Q3 ……失礼ですが証拠は

A 短刀ならここに

という質問がありました、野郎の中で育てば男っぽくなるわな喧嘩はしてないよ、脅すぐらいはしたけどね

ヤクザで男の娘って誰得だろうか、というより得する奴はいないな
んでまあ、色々驚いてる射命丸は「あやや、これは良い記事が書け
そうです」とか言って飛んでった
そして霊夢と魔理沙はというと

「あの笑顔はヤクザ仕込みか・・・」

「カツアゲとかやらせようかしら・・・」

という風な事を言っている、てか霊夢お前は巫女だろうが。いくら
賽銭箱に金が入らないからってそれはやらすな、博麗の巫女は金の
ためなら手段を選ばないって言われるぞ

「幻想郷にはヤクザより恐ろしいのが大量にいるだろ、魔理沙」

「それでもあの笑顔は怖いぜ、霊夢が笑顔で異変の首謀者に会いに
行くぐらい怖かったぜ」

確かに恐ろしいなそれは、何時も面倒くさそうに出発する人間が笑
顔で異変を解決しに行くなんてそんな事が起こったら首謀者はガク
ブル状態だよな、てかやつば霊夢って最強？だよな
特に機嫌が悪かったりすると余計に

「あんたヤクザなのよね？ならなんでそんなお茶らけてんの」

いきなりな質問だな、まあ一応質問に答えるか

「ヤクザ全てが漫画とかに書いてるような奴等だと思つなよ、って言っても俺はちょっとお茶づけすぎだけどな」

「ヤクザっていうより遊び人みたいだぜ」

ヒデエ、酷すぎるぜ魔理沙

霊夢も隣で頷いているし、そんなに俺って見えない？
ちよつとした変態なだけよ俺

「まあ良いわ、それよりあんたにまたお客さんよ」

「お帰り下さい紫様」

「藍やどこかの半人半霊みたいな事言わないでよ、ただ貴方に言い忘れた事があつたから伝えにきただけよ」

藍に言われたら終わりだと思つぞ、一応藍はあんたの従者なんだから言われないようにしとけよ

「で、何を言い忘れたんだ？まさか「貴方、人間ではなくなってるから」とか言わないよな？」

「妙な勘だけは鋭いわね、その通りよ」

よし、今夜が俺の最後だ
博麗神社に死体が出るぞ、という事で

「ストップ！！なにやろうとしてんだよ！！短刀抜いて自分の腹に突き付けるな！！」

「放せ魔理沙！！流石に限界だ！！人間やめたなんて言われたら死ぬしかない！！」

「どおすんのよアレ、あんたがいきなり物凄い事言うから混乱してるじゃない」

「あら、私は事実を伝えにきただけよ」

「その事実が嫌なんじゃ！！」

とりあえず短刀は納めた、だけど嫌な事実を教えられたな
まだ魔法使いとかならマシだよ、近くにいるからさ
でも悪魔とか言われたら地獄です、運命通りって言いそうなの人のところに行けとか言われそうだし

「落ち着いたわね、それじゃ貴方の種族を言うわよ」

「いや、それよりなんで人間じゃないか教えるよ」

「それは・・・・・・えっと・・・・・・」

「お・し・え・ろ」

「そのお、2ヶ月ぐらい前に熱が出たりした事ない？」

2ヶ月前？熱？・・・・・・確か高熱が出た時があったな、医者にも原因がわからなかったな
つてちよつと待て俺の思考、原因の分からない高熱にさっきの紫の言葉

つまり・・・・・・

「あれはお前の仕業か!!」

「違うのよ、ちょっと寝ぼけちゃって・・・ね」

この野郎一体何をした、寝ぼけてスキマを開いたなんて言ったら・
・フッフ

「ほら紫、何をしたか白状した方が身のためよ」

「でも霊夢？熊狸が短刀を磨いているのよ？へたな事言ったら殺されそうじゃない」

「素直に話せば大丈夫だぜ・・・・・・・・多分」

短刀磨いてるだけで怯えられるって、もしかして満面の笑みになってる俺

というか笑顔になれば成る程怖がられるって、人に笑うなって言うてんのかそれは

確かにあまり笑ったりしないけどさ、安っぽい笑顔ならしょっちゅうしてるけど

感情を殺してるんじゃないよ、生まれつきこんななのさだから大変なのよ

愛想笑いや安っぽい笑顔は得意でも心からってのは無理、そんなにした事ない

「ねえ、怒ったりしない？短刀で襲いかかったりしないわよね？」

「大丈夫です、霊夢が半裸で寝てたら襲いますが事実なら一応多分受けとけます」

「それは私も見てみたいわね、じゃ言うわよ貴方の種族は」

「……長い、溜めが長い

早く言ってくれ、出ないと眠気に襲われそうだ

「悪魔よ」

「……悪魔で執事ですから？」

「外の世界のネタは置いて、確かにその人と同じような悪魔よ」

セバス化しました、多分味覚は普通でも寿命とかは変わってるな

だってあの執事ですから、変態悪魔執事の完成です

正直喜べない

「つまり、ナイフとか銃の傷では死なないって事か？」

「まあそうね、軽く説明すると普通の貴方は身体能力とかは普通の人間よ、悪魔化すれば並大抵の攻撃では怯まないし身体能力も大幅に上がるわ。ただし貴方の寿命はこの幻想郷に来た時点で永遠に近い命になってしまってるわ」

簡単に略すと、虎狼熊狸は普段は普通の人間、だが種族は悪魔、寿命は永遠に近い

とりあえず一番聞きたい事を二三聞か

「幾つか質問がある、一つはどうして俺を幻想郷に連れてきた、二つ目は何故最初の時に言わなかった」

「一つ目の答えは簡単、既に貴方は能力を使つてたのよ無意識にね。今まで安っぽい笑顔しか振り撒いてなかったのは貴方が無意識の内に人を避けてたからよ。次に二つ目ね、最初会った時に言わなかったのは命の危機感を知つて欲しかったからよ、幾ら弾幕と言えども普通の人間が何回も当たつてたら何時かは死ぬわ、それとも一つは貴方の精神が不安定の状態で伝えれば暴走する危険性があつたらよ、能力をコントロール出来てない状態で暴走されたら私でも手に終えなくなる可能性があるから」

「それと霊夢達に会わせて暴走した時には止めてもらうつもりだったのか？それとも、止めるのではなく始末させるとかな」

「妙に冷静ね、能力で落ち着かせてるのかしら？」

「ああそうだ、誰かさんが悪魔だとか永遠に近い命だとか言つた辺りからな」

「そうでもしなきゃマジで自分を殺してたわ、でも理由もハッキリしてるしな」

「能力もない世界で能力を使つてたからこっちに連れてきた、能力をコントロール出来てない人間にそんな事を伝えればどうなるか分かんかった」

「こう考えると見事に妙な人間だな」

「ちょっと待ちなさい、紫貴方は熊狸が何者で何の能力を持つてるのかも知つてたつて訳よね？ならなんで能力だけでも教えなかったのよ」

「ただの気紛れよ、それじゃ私は用も済んだし帰るわね」

「あ、コラ待ちなさい紫!!」

行っちゃったな、物凄い事実を突き付けられたな

悪魔で変態ですからを口癖にするか、いややめておこう

絶対怒られる、紅魔館あたりからグングニルが飛んできそうだし

「熊狸、あんたには明後日ぐらいに紅魔館に行ってもらわね」

「厄介払いだろ」

「そうよ」

否定してくれ、マジで悲しいよ

紅魔館に吸血鬼と小悪魔が居るって事ぐらい俺にもわかんぞ

「熊狸頑張れよ、そして霊夢は風呂上がりは気を付けるんだぜ」

「その時はぶっ飛ばすから大丈夫よ」

魔理沙、心配してくれてありがとう

霊夢、あの発言はおふざけだからな？真に受けるな

さて俺に色んなフラグが経ったな、出来れば明後日が来ない事を祈りたい

俺のふざけた幻想はぶち壊される（後書き）

熊狸が悪魔になった原因は紫が寝ぼけて繋げたスキマから落ちた薬です

ユウリ「薬なんて飲んだ覚えはないぞ」

味噌汁に入っちゃったのよ、量は少量だし君のだけに入ってしまったてね

ユウリ「でも幻想郷行くまでは何もなかったけど？」

幻想郷の住人用の薬、幻想入りしなけりやただの高熱を出す薬

紫「悪魔化する薬なんて作らせてないわよ」

妖怪用の特効薬だからね、人間にはどんな効果があるか分かんなかったやつだし、大体が動物になっちゃった程度だから

でもユウリだけ何故か悪魔に

紫「さつきから気になってたけど、熊狸の名前がカタカナ表記よね？」

作者と一部の幻想郷住人はそうします、後ユウリだからユーリじゃないよ

ユウリ「後ユウリイでもないからな」

霊夢「VとWA4だっけ？確か」

なんで知ってんの、舞台裏だからか

三人「舞台裏？」

簡単に言つとこの後書きは裏話やメタ発言、軽い説明や雑談とかをする場所

霊夢「メタ発言は本編でも少しやってるでしょ？黒い執事とかそういうネタも入れながら」

川「ー、ー」なに、気にすることはない

ユウリ「さて、今回は多分俺の詳しい設定だな」

霊夢「変態に男の娘にヤクザ生まれに悪魔、属性の塊ねある意味」

魔理沙「ホントだぜ、後半から紫の説明とかばっかりだから空気に

なつてたぜ」

紫「というより私は説明とアドバイスを与える役割なのね、ネタにされるよりかはマシだけど」

霊夢が怒るやめてくれ、只でさえ貧乏巫女ネタを出してるのに

霊夢「楽屋裏に來なさい」

怖いよ、さつさと終わらそうかな

ユウリ「いやいやお前が霊夢を弄りすぎなだけだろ、この小説の霊夢は怖いって言われるぞ」

魔理沙「夢想封印二連発は覚悟しといた方が良いぜ」

紫「忙しい人のシリーズと幻想入りシリーズとかわかしく観てないからそうなるのね」

YouTubeとWikipediaと他の作者様の小説しか情報源がないのよね、それと出そうか出さまいか迷ってる人がいるんだけどさ

四人「だれ？」

魅魔様です、博麗神社に祟り神として住んでるって前にWikipediaで見たんだよね

でも口調とか性格が分からないからどうしようかなと

霊夢「忘れてたわね」

魔理沙「私は魅魔様か魅魔、どっちで呼ぶんだろうな」

紫「様でしょ？作者的に考えて」

で結果的にどうしようか？

ユウリ「読者様に聞け、アンケートとかやれば良いだろ」

まだ時間はあるから良いよ多分十話前後でやるから

魔理沙「まだ先じゃないか、片寄った知識しか持たずにもう少し幅を広げるべきだぜ」

だよな、それじゃ

ユウリ「質問や感想、アドバイス待ってます。後。出してというのも待ってます、作者は紅魔館メンバーと永遠亭メンバーと白玉楼

ぐらいしか出さなかったりします・・・まあネタを作りやすいからな」

霊夢「それとこんなのですか？っていうあやふやなリクエスト待ってます、例はこんなのです」

。。。がどうなるっていうやつです、作者はちゃんとした物だと出来ませんすみません」

霊夢の言ってる事は事実です、悔しいですが事実です

では皆さんまた次回で

虎狼熊狸の設定

名前―虎狼熊狸

性別―女

性格―男っぽい上に男口調

年齢―15

身長―147?

容姿―黒いシャツ、黒い片翼のネックレス、そしてダメージジーンズ
学力―上の中ぐらい

身体能力―中の上ぐらい

ヤクザ一家の生まれで男の娘、普通に学校へは通ってる

人と深く関わったりしなかったが限られた少数の人とは深く関わってる、といっても家に遊びに行く程度だが

一応目上の人間には敬語を使い一人称も私になる

諦めていたりしても敬語になる時がある

微乳でサラシを巻いてる為無いに等しい、指摘されると短刀を抜く事もある

心からの笑顔は二三回しかした事なく、他は全部安っぽかったり怒りでなったりとか

無意識の内に能力を使って楽しいという感情を下げどうでも良いという感情に似た物を上げていた

幻想郷での虎狼熊狸

お茶らけた奴、普段から嘘がよく分からない適当な事を言っていたりしてる適当な人間(?)

態度は目上と思ってなかったり常に敬語を使う相手ではないと思ってる人達の前では普段と変わらず

時に妙な事を口走る事も？

種族―悪魔（普段は人間と変わらない）

普段は身体能力とかは普通の人間、悪魔化すると並大抵の攻撃では怯まず身体能力も大幅に上がる

熊狸の寿命は幻想郷に來た時点で永遠に近い命になってしまっている
ナイフや銃で心臓を刺されたり撃たれたりしても死なない、ほぼ不老不死である

違うのは永遠の命ではなく永遠に近い命だということだけ

悪魔になってしまった原因は紫が寝ぼけて、作らせておいた薬をスキマに落とし熊狸の味噌汁に落としたのが原因、なんともマヌケ理由である

能力―感情を操る程度の能力

喜怒哀楽以外にも殺意や恐怖といった一時的な感情も操れる、やろうと思えば相手を使い手の好きなように出来たり、好意的に相手を惚れさせる事も出来るがやろうとはしない
後、感情に似たやる気や気合いも操れる

だがコントロールが大変でなにかを下げる代わりに上げる必要がある

スペルカード

魔符「現れし悪魔」

悪魔化するのに必要なスペルカード

悪魔化した時の様子―背中黒い半透明の羽が表れる

（ティルズオブシンフォニアの天使化みたいな感じです）

口調が常に敬語、武器が短刀から刀になる

どうでもいい補足

着替えやお金等は博麗神社に泊まった夜に紫が熊狸の部屋から持ってきて渡した、後霊夢から何も書かれてないスペルカードをもらっている

作者の一言

能力と種族を足したらチートの的な強さになってしまった、スペカはとりあえず今のところは悪魔化用だけ

虎狼熊狸の設定（後書き）

悪魔化なのに元ネタは天使化、性格がアイツそっくりだから良いかな
それに戦闘は多分そこまでやらないと思うし、多分

紅魔館へ、一歩間違えば死亡フラグ（前書き）

内容の薄い戦闘あり、やっぱり戦闘は難しいよ

紅魔館へ、一步間違えば死亡フラグ

「行つてらっしゃい」

畜生、結果的に紅魔館行きは変えられなかったぜ

昨日新しく身に付けた物は飛ぶ事です、もう驚かないさ俺は

あの執事の人も飛んで戦つてたしね、んで現在俺は弾幕勝負する気ないんで適当に避けて進んでます

一応妖精とかばかりだから大丈夫、運が味方してか簡単にドラキユラ城へ着きました

間違つてはない筈だ、ここの主は吸血鬼だから

「おい、紅白の協巫女に言われて来たんですけど」

門番ただいま熟睡中、短刀刺すか眉間ぐらいに

咲夜にナイフで刺されるよりマシだろ、多分
という事でえい

「イタア！！！！咲夜さん、今日は何時よりも深く刺さつて・・・」

「誰がメイド長だ、博麗の巫女に行けと言われて来ました」

「え、人間？えっと、ちょっと待つて下さい」

待たされた、眉間に刺した短刀を抜いて中に入つてった中国・・・
じゃなくて美鈴

それから十分ぐらいしてメイド長をパーティに加えてやって来た

「お嬢様から連れてこいと言われました、着いてきて下さい」

「はいよ、と」

言われるがままついて行くのは良いけど、途中でズバッなんて事はないよな流石に

妙な行動起こさないように注意しよ、紫からほぼ不老不死とは言われたけど痛いのは嫌です

「お嬢様、連れてきました」

「ご苦労様、後は私が一对一で話すから席を外して良いわよ」

咲夜がパーティから抜けました、レミリアが現れた

咲夜がいなくなって緊張が解けた、やっぱり怖いよ咲夜さん

「ようこそ紅魔館へ、虎狼熊狸。私はこの主、レミリア・スカーレットよ」

「どうも、虎狼熊狸だ」

以上会話終了、黙るのは得意だから良いな
多分レミリアが先に折れるな

「うー、あなた何か話さないよ。会話が続かないでしょ」

「特に喋る必要ないし、語っても無駄なだけ」

「私を前にその態度、今なら許してあげるわよ」

態度が気に入らない御様子で、でも残念ながら変える気はない
そもそも敬語を常に使うような相手ではないと思う

「変える気がないっていう私にも考えがあるわ、フ란の世話人に
任命してあげる」

「ペツ、自分じゃ何も出来ないと思い込んで人に押し付けるとは良
い御身分だ事で」

「いい加減にしないと本気で怒るわよ」

素直に思った事を口にしたら怒らせちゃったな、色々やったとは言
え最終的に地下に閉じ込めるという考えに至って今は人に押し付け
ている

「んじゃそのフ란に会わせてもらいましょうか？レミリアお嬢様」

「こつちよ」

途中咲夜も加わり地下へ向かう、そして鉄臭い匂いがする地下に着
いた

何人分の血だか分からないな、更に進んだ先には遊び終わったフラ
ンがいた

「フ란、あなたに世話係をつけるわ」

「今は玩具にしか見えてないだろうな、既にスタンバイ出来てるし」

「そつだよお姉様、その人のいう通りあたしは遊びたいの……
だからすぐに壊れないでね」

っ、いきなり破壊かよ

場所は左肩の骨か、能力で冷静さを上げ恐怖を下げといて正解だな

「ヤクザ舐めんなよ、お嬢ちゃん」

「歌が聞こえないよ？今までの人間は何処かを壊したら歌が聞こえてたのに、だから聞かせて？あんなだけの歌を」

遊びは殺して歌は悲鳴、狂気つてのは怖いな

だけどそう簡単には聞かせてやれないな、自動で左肩の骨が修復されてるな

なら暴れるか、動きを止めたところで狂った喜びを最小まで下げ他の普通の喜びを上げる

「当たって頂戴」

「当たらないよ、弾幕はこうやって撃つんだよ」

おいおい回避ルートが限られてやがるじゃないか、流石に全部は無理か

数回カスッたな、まあそれより向こうだ

「次はどうか、禁弾「スターボウブレイク」」

七色の弾幕が雨あられのように降って来やがる、しかも身体はもうそろそろヤバイな

「面倒臭いな、壊符「消え行く果てに」」

「弾幕が消え」

そこで言葉が途絶えた、何故ならさっきまでフランが出してた弾幕は後ろから自分目掛けて降って来たからだ
いきなりだった為に対処出来ずに殆ど食らった、今のうちに狂気を下げさせてもらいますか

「姉みたいな性格にはならなくてくれ」

「まだ終わってないよ」

四方から刺された、血が物凄い勢いで流れてやがる
フォーオブアカインドにレーヴァテイン、最悪じゃないか

「これからが本番だよ!!」

「ちったあ痛い目見てもらうぞ若造、魔符「現れし悪魔」」

レミリア said o

「なに、アレ」

フラン相手あそこまでやるとは正直思ってた、だけど四人のフランに刺された時点終わった

私はそう確信した、だが彼は生きている
しかも二枚目のスペカ宣言した瞬間彼から感じなかった物を感じた、人間からはそんなに感じれる筈がない物
それは冷徹な殺意、ただ邪魔な相手を蹴散らすだけ

「お嬢様、少しだけ姿も変わってます」

「え、本当ね。黒い半透明の羽が出てるわね」

一体彼は何者なのかしら、それよりなぜ霊夢はあんなのを寄越したワケ

「では、ラストと行きましょうか」

「少し変わっただけで勝てると思わないでよ」

「一度見たものをもう一度受ける気はありません、では分身の方々にはご退場願います」

「一撃で、でもまだ終わって」

いや、フランの負けよ

どう考えても勝算がない

運命を見なくてもそれぐらい簡単に分かる

「大人しくしてもらいますよ、抵抗すれば命を奪います」

「・・・・・・・・」

「良い子です、誰のとも一人だけとも言ってませんからね」

フランを大人しくさせて何をする気、彼からさっきまで感じた物はなくなっただけ油断は禁物ね

「さて、狂気を1か2まで下げて普通の喜びとかを上げて狂気が出てこないようにしますか」

「え、あたしの狂気がなくなるの？もう怖がらなくて済むの？」

「そうだ、だから暴れるな」

能力フル活用、そして五分後
意識を失いました

「目が覚めたら幼女が目の前に」

「頭大丈夫？」

さっきまで戦ってた二人の会話には聞こえないな、さて俺はどれだけ気を失ってたんだろい

「お姉様が呼んでるから行こ」

「ハイハイ、で狂気は感じたりするか？」

「ううん全然ないよ」

成功か、失敗したら逃げてたな
さてレミリアのところに向かうか、絶対種族とか訊かれるな

「来たわね、まずはフランから狂気を取り除いてくれてありがとう」

「で、次は？」

「あなたは何者？」

やっぱり、素直に話すかな
能力と種族とかで良いな、外人人っていうのは文文。新聞に書いてあるし

少女説明中

「成る程、悪魔では不老不死で能力は感情を操る能力ね……
・・だからフランの狂気を取り除く事も」

「ところで俺はどれだけ寝てたんだ？」

「丸三日よ」

やっぱり悪魔化そんなにするもんじゃないな、三日も寝てたなんてな

「人間にはキツイな」

「悪魔でしょ、普段は人間同様でもね」

「もう少し寝てくるわ、まだ疲れが残ってるんでな」

寝てた部屋に戻り意識を落とす、最近と同じ夢ばかりだからたまには違う物が見たいな

暗い空間に一人で座ってるだけっての勘弁だ、誰か近くに居て欲しいもんだね

紅魔館へ、一步間違えば死亡フラグ（後書き）

（スぺルカード説明）

壊符「消え行く果てに」

目標をターゲットの死角に送るスぺルカード

弾幕や武器だと消されたように見えるためこの名前に

疲れた、戦闘は色々省いてます

撃つては避けられの繰り返しですから

フランの狂気ですが取り除いた訳ではありません

能力をフル活用して少し思考まで弄って人を殺す遊びから得る喜び等を下げ、人と一緒に居ながら得る喜び等を上げただけです

その為もしも身近の誰かが殺されたりしたら狂います

本来熊狸の能力は感情とそれに似た物しか操れない為思考までいくと精神を物凄く消費します、起きた時に物凄い疲れを感じます

咲夜さんやレミリアの口調違ってたら言ってお下さい、直します

紅魔館は広すぎる（前書き）

状況説明が少ないところ指摘を頂きました、これからは精進します

紅魔館は広すぎる

朝の九時、目覚まし時計ではなく悲鳴で目が覚める
多分美鈴が寝てたところをお仕置きしたんだろうな、咲夜も暇なん
だなあ

という訳で暇潰しに門に向かった、けど門に着いていきなりだけど
部屋に帰りたくなった

幾ら妖怪でもナイフは刺さると痛い、レーヴァテイン痛かったもんな

「居眠りしてたらまた刺すからね」

「はい・・・」

咲夜、少しは優しくしてあげような？

お前は時止めて休んでもかも知れないけど、美鈴はずっと立ってん
だからさ

魔理沙や霊夢が侵入した時ぐらいは優しくお仕置きしてやれ、勝て
ないからさ

「物凄く失礼な事を考えてませんか？」

「いやいや、ただ霊夢や魔理沙が侵入した時ぐらいは優しくお仕置
きしてやれって思ってただけです」

「充分失礼です、っていうか昨日の方ですよ？なぜ紅魔館に」

「少女説明中」

「大体わかりました、で一体何をするつもりですか？紅魔館の掃除

とかは咲夜さんが大方やつてるからやることなさそうだし」

「さあ？わかんね、まあ適当にしてりやその内何か言われるだろ。それじゃ次は図書館にでも行きますかね」

「自分勝手というか、何を考えてるか良く分からない人だなあ。それに同じ女性には見えませんね」

俺が離れた後美鈴が何か言ってたが知らん、それより図書館って何処だ

図書館までの道がわからず迷ってたら咲夜に保護されて図書館まで連れて行ってもらいました

そしたら咲夜から一言「後で簡単な地図あげるわね」って言われた
広いと迷いやすいんです

そして数分後図書館に着きました

「邪魔しますゝ、新人悪魔ですゝ」

「小悪魔と同じって事なの？」

「普段は人間ですよゝ、でも一応種族は悪魔ですゝ」

「そのウザイ口調どうにかならない？」

ウザイ口調って言われた、ふざけすぎたか

というかパチュリー、まず本から手を放そうよ

人と会話してんだからさ、もしかして興味ない？

「なるけど」

「ならそうしといて、それと初めて見る顔ね」

「虎狼熊狸だ、一応性別は女だからな」

「パチュリー・ノーレッジよ、よろしく」

「はいよ、んじゃ適当に本を探しますか」

パチュリーと会話して思ったが、本の虫って言う呼び名は伊達じゃないな

本から目を放さなかったよ

さて俺が読めそうな本はありますか〜っと、目につく本を手にとってパラパラっとページを捲ってみるが読めない

一部知らない字のハズなのに読める物はあるけど、取り敢えず日本語で書かれている本を探そう

でないと今度来た時にまた探す羽目になる

「あの、何かお探ですか？」

「日本語で書かれている本をね」

「貴方の後ろにある棚にありますよ」

「え……本当だ、何で気付かなかったんだろ」

マジで気付かなかった、てかさっき教えてくれたのはどなた？
初対面ですよ

「えと、どなたで？」

「私はこの図書館で司書をやっている小悪魔です、貴方は……」

「博麗の脇巫女に厄介払いされた可哀想な悪魔です、名前は虎狼熊狸です」

「冗談が上手ですね、妖気も感じないのに悪魔だなんて」

冗談って言われた、スペカで悪魔化して信じさせるか？

いややめておこう、また面倒事に巻き込まれそうだ

ただでさえカリスマ吸血鬼？の妹に何故か好かれてるような感じなのに

「それは違うぜ、熊狸はマジで悪魔だぜ」

「何時からいた、そして口を挟むな本を盗むな」

「窓が開いてたからそこからコツソリ侵入したら丁度悪魔同士が挨拶してたから暇潰しに盗み聞きをしてたら冗談とか言われてたからそれを訂正しに来たんだぜ、それと死ぬまで借りてただけだぜ」

不法侵入に窃盗、犯罪者予備軍だな

そしてお前がやってるのは面倒事が俺に来るようなフラグだ、あの自称新聞記者に悪魔だつてバレたら色々面倒臭い事になるだろってかこれもフラグじゃね？

「それじゃ熊狸さんは本物の悪魔って事ですか？こんな何を考えるか分からない人が」

「そうだぜ、レミリアがまともになったっていうぐらい信じられないかも知れないけど熊狸はマジで悪魔だぜ」

「壊符「消え行く果てに」」

目標は魔理沙、ターゲットは霊夢
よし、これで五月蠅いのは消えた
小悪魔がポカーンとしてるが知らん、まあいきなり魔理沙が消えた
らびっくりするわな

「今のは何ですか？」

「スペカです、目標をターゲットの死角に送る物です」

「便利なスペルカードですね、弾幕や武器が飛んできてもそれを使
えば良いだけですから」

「そこまで便利じゃないと思うがね」

一対一なら良いけど一対多数だとキツイ、それに目標は目に見えて
ないと相手の死角に送れないしな
ターゲットは位置さえ分かれば良いから楽なんだけどな

「そうなんですか、で本当に悪魔なんですか？」

「レミリアに聞けば分かります、または咲夜に」

「後で聞いて見ますね、それでは私はこれで」

普通図書館ってパチュリーとフラグが建ったりするもんだと思うけ
ど、なんか小悪魔と建ちそう

まあ好かれたら部屋に連れ込んで押し倒した後は……………フッフ

「涎垂れてるわよ」

ヤバ、妄想し過ぎた

てか咲夜は何時の間に現れた、取り敢えず涎拭いてなんか用でもあるのか聞こう

「ふう、でなんか用でもあるのか？」

「お嬢様が呼んでます、それと地図です」

「どうもすみません・・・」

見た目以上に広くされてるから余計だよ、嫌な野郎が来たら迷わす事出来るだろうな

ってかもしかしてそれが俺？んな訳ないか、てかあるわけない

メイドの咲夜が俺を嫌うわけがない、はいすみませんふざけすぎました

では地図を頼りにレミリアの部屋に向かいます

↓十分後↓

地図だと近いのに実際はむっさ遠い、畜生レミリアお嬢様の元にたどり着くのに十分掛かったよ

「で用件は？ないなら帰る」

「待ちなさい、用件だけ伝えるわ。二三ヵ月フ란の側にいて欲しいの、返答は明日で良いわ」

用件だけ聞いて部屋に戻ってきた、フ란の側にね

なついているのがわかってんのかね、
というより帰らす気ないだろ
まあ良いや、少しだけ寝るか

紅魔館は広すぎる（後書き）

カップリングは決めてません

フラン「妹担当フランちゃんだよ、作者の中じゃあたしはこんなキャラらしいよ」

ユウリ「出番が少なかったのはパチュリーか」

こあ「白黒はカウントしないんですね」

図書館と言えば魔理沙だから、まあもう出てこないと思うk
マスタースパーク！！

三人「作者がマスパされたので終わります」

俺のフランがこんなに甘えたなワケがある！！（前書き）

前回の続きの内容です

俺のフランがこんなに甘えたなワケがある！！

「起きて下さい、もう夕方です」

PAD長・・・・じゃなくてメイド長の言葉で目が覚めた、というよりすぐ起きなきゃ永遠に眠らされそうで怖い
傷回復するし死なないだろと言われても痛みは感じます、ナイフが全身にグツサリと刺さってる自分を想像すると身震いが

「全身にナイフをグツサリと刺されたくなければお嬢様の部屋に早く来て下さい、ね」

咲夜さん、本気ですね

本気でやろうとしてるだろ、ナイフをチラツと見せながら言ってたぞ
取り敢えず怖いんでカリスマ溢れないお嬢様のところに行きましようか

流石にもう迷わないからな、地図があるから

「で、なんで遅かったの教えなさい」

「フランに捕まりました、今は頭の上に」

迷いはしなかった、だけどフランに見つかって強制的追いかけてこさせられたのよ

一応フランは捕まったけど二十分掛かった、そして今は人の頭の上に乗ってます

「そう、迷ったと言ったら咲夜に貴方の全身にナイフをグツサリと刺せて命令する気だったけど他の理由があるなら仕方ないわね」

「全身グッサリと刺されたまま近寄るぞ、下手なホラー映画より怖いと思うぞ」

想像して一瞬気分が悪くなった、リアルな死体は馴れない傷なら大丈夫でも死体とゾンビは無理、リアルに似せてあるものだけだけど

「確かに、血を垂れ流しながら来られると怖いわね。で本題に入るけど、貴方にお客さんが来てるのよ」

「お引き取り願おう、俺は用はない」

「誰だか予想ついてるようね、なら私達は一旦部屋を出るから二人で話して頂戴」

そついうや否やさつさとフランと咲夜を連れて出ていった、で毎回コイツと会つと嫌な事しか言われないからマジで帰って欲しかった

「用件はなんだ？八雲紫さん」

「貴方についてよ」

やっぱり、最初は何も伝えず落とし翌日には悪魔とか言い出しやがったスキマ妖怪
次はどんな事を言うつもりだ、まさかまた言い忘れたとか言わないよな

「貴方は少し普通の人間より感情が少ないわ、貴方が寝てる間に少し見させてもらったから分かるのよ」

「感情がね、てか勝手に人の境界を覗くな」

今度は無断で境界を覗いた挙げ句感情が少ないとか言いやがる、もうプライバシーとか関係ないだろうな

さてどういう意味か教えてもらいましうかね

「普通の人間の感情は喜怒哀楽が平等に分けられているの、それぞれ25%ずつね。ところが貴方は違うのよ、喜怒哀楽が15%ずつしかないの」

100%として考えてるのか、だとしたら俺は喜怒哀楽全て合わせて60しかないのか
なら残り40はなんだ？

「多分残りは何なのか分からないだろうから教えといてあげるわね、喜怒哀楽どれにも当てはまらず常に冷静でいられる感情、それは無
よ」

「喜びも怒りも哀しみも楽しみも感じない感情か？というかそれは感情に入るのか？」

「入らないわね、でも貴方はこの幻想郷や外の世界で怒り以外表した事あるかしら？」

怒り以外ね、あんまり表してないな
人に好かれようとしなかったし、好かれても家を紹介すりゃ冷めるし

まあそんな事が合ったから深く関わろうとしなかったんだよな、一部はずっとくつついてただ

「ないでしょ？ここから先は私の勝手な考えだけど、多分外の世界で能力を自分で作ってしまっただけでその対価として感情の40%を消し何も無い空間が出来た、何色にも染まらない空間がね」

「ハイ？感情を犠牲にして能力を手に入れたワケ？」

「まあそうなるわね」

母さん、俺自分で非日常な世界に片足突っ込んでたよ

人間何時の間にか泥沼に片足突っ込んでるってよく言われてたけど、俺は泥沼以上のところに片足突っ込んでました

「前に一回でもこんなケースあったワケ？」

「あるわけないじゃない、貴方が初めてよ」

自分から人外になろうなんて奴はいないもんな、悪魔は目の前にいる紫の責任だとしても能力は自分の責任だもんな
なんか色々一気に面倒臭い事になった気がする、文屋関連で

「伝える事は伝えたから帰るわね、また何かあったり分かったりしたら伝えに来るから」

「二度とくるな」

伝える事伝えて帰るなら紙にでも書いて寄越せってんだ、流石にもう伝えられるような事はないだろ

あったらレミリアに頼んでグングニルでも刺してもらって現実逃避しよ

「スキマはいなくなったから入って来て良いぞ………ドアに耳引っ付けて盗み聞きですか」

「いや、これは違うのよ」

「そうです、私は上司にやれと言われて仕方なくやってたんです。やらないと明日のオヤツにするって言われて」

「咲夜！？私はそんな事一度も言った覚えはないんですけど！！」

咲夜がボケでレミリアがツツコミ、何時打ち合わせしたか気になるなそれでフランはっと………背中によじ登ってました

カリスマはブレイクされたお嬢様にそれを見て余計弄り倒すメイドメイドと吸血鬼が漫才してるのをボーッと見てる吸血鬼の妹と妙な悪魔、個性的すぎるな

まあでも、こんな日常が続くなら良いかね

「あそこで終わらしとけば良かった」

「1人で何言ってるの？」

「なんでもない、ただの一人言」

「ふーん」

現在時刻は夜の二時、フランが眠気が出ないから出るまで一緒にいてと言って来たのでそれを承知した

そして今は紅魔館の庭で寝転がってます、星空が綺麗だねえ

「何時までこうしてるの？」

「流れる時に流され老いて消え行くのなら、それまでに見たものは自分だけの物」

「なにそれ」

「ん？寿命が切れた時までに見た景色や風景は自分だけのものって意味」

どれだけ永く生きようと死はやってくる、その時笑って死ねるか泣いて死ぬかで変わってくる

変わらない物は自分だけが見ていた世界、こういう言い方はどうか分かんないけど世界は生物の数だけ存在し生物は世界の数だけ存在する

神を信じる者が多ければ神は存在し、天使や悪魔を信じる者が多ければそれも存在する

幻想郷だって何時かは変わって行く、ずっと永く遠い先まで見ないや分かんないけどな

「月に照らされ紅く輝く館からは何が響く、ある者は悲鳴を、ある

者は幼き少女の声を聴いた・・・・・・フラン？」

「スपीZZZZ」

寝ちまったか、フランを抱いて部屋に連れて行くかな
俺ももう眠いし

俺のフランがこんなに甘えたなワケがある！！（後書き）

熊狸が妙な事言ってたね

ユウリ「意味もない言葉をそれっぽく言ってるだけだろ」

フラン「え・・・あれ意味なかったの？あるように思ってたのに」
まあ、前からふと思いついたりしてただけなんだけどねリアルに

二人「あ、お医者さん患者はこっちです」

ちよい待て！！確かに患っているかも知れないけど！！それがなきやこの小説も無いぞ！！

ユウリ「黒歴史、それは作者が書いた小説だ」

フラン「リアルだねえ、あたしがユウリの背中によじ登ってた理由も知りたいけどね」

あゝ、ただ乗り心地が良かったただだよ

熊狸は感情は少ないけど愛情は人並みだから

（でない和小悪魔や誰かとフラグなんて・・・）

ユウリ「美鈴、あれを全力で殴ってくれ。気を最大まで溜めてからな」

美鈴「いや、流石の作者でも死にますから」

咲夜「後で私に媚薬を渡すのなら私がやってあげるわよ？」

ユウめい「よろしく」

あれ？なんかナイフがたk

（その後、作者の行方を知る者は誰もいなかった）

霊夢「久々に来たら凄い仏像があるわね」

魔理沙「こんな仏像はマスパだぜ」

ユウリ「作者が全身ナイフでグッサリと刺された後マスパされた為今回は終わります、後後書きでやって欲しいネタ、本編でやって欲

しいネタがあれば感想に書いて下さい」

フラン「駄文になる可能性があるから気を付けてね、作者がいきなりネタ切れになりそうだからよろしくね。お兄ちゃんにお姉ちゃん
♪」

咲夜「フランお嬢様にお姉ちゃんって……はう」

VSルーミア……（前書き）

（注意）

最初の方は飛ばして構いません、作者の妄想です
戦闘は薄い短い駄文の三拍子です

最後にルーミアですが、二次設定で出来たルーミアです
口調はよく分からないので妄想です

V S ルーミア・・・

私は美鈴を部屋に呼び出した、理由は一つだけ

私の気持ちをあのこに知って欲しいから、そして五分ぐらいして部屋に入ってきた

何時ものようにその場で伝えずに部屋に呼び出したせいか、少し真剣な顔付きになっている

少しの沈黙がありながらも、私は彼女に自分の気持ちを伝えようとした

「美鈴、私貴女が・・・」

「口に出さなくても良いですよ、咲夜さんの体に直接聞きますから」

美鈴の手が私の服の中に忍び込んできた、そのまま長い口付けをされ服を脱がされた後ベッドに押し倒され・・・

「あ、めい・・・りん・・・ん、ああ」

「可愛い声も出せるんですね・・・でも、こんなのはまだ序の口ですよ・・・」

私が声を出せば出すほど美鈴は激しく私を淫らにさせていく、そしてあの医者に作らせた薬を美鈴は飲んで男の人になって私を・・・

「美鈴、そこは俺のポジションだ！！！！！！」

「いきなり何を叫んでいるの、ていうかどんな夢を」

「美鈴が咲夜を淫らにしていく夢を見ました」

その直後頭が剣山になりました、いや痛いなんのって

昼まで寝てたから起こしに来たら、いきなり叫ばれて夢の中とは言え自分が使われた事に腹を起てて帰って行った咲夜

だが見てみたい、リアルめーさくを

まあ見たら速攻消されるけど、百合がドストライクな人間だったら見てみたい！！

てか女の子ばかりの場所でどうやって三大欲求の一つを解消する、答えは一つだけだ！！！！

霊夢なら魔理沙を、パチュリーなら小悪魔を相手に欲求を解消しているのだ！！！！」

「途中から妄想になってるわよ」

「咲夜、何時の間に帰ってきた」

「てか女の子ばかり、のところからずっと」

わお、咲夜に俺の妄想聞かれちゃったよ

性欲を趣味で解消したりするらしいけど俺にはむりです、だって普通の女性より少しだけ多いし

「取り敢えず、お嬢様がまた呼んでいるので来てください……
……私は美鈴よりお嬢様の方が……」

なんか帰り際にぶつぶつ言ってたな、多分美鈴よりレミリアが良かったんだな

「さて、これ以上妄想したら18禁になりかねないからさっさとレミリアのところに行くか」

際どい理由だが実際夢はあの後も見続け終わった頃に起きた、だから今の俺はテンションが変に高い
只でさえ胡散臭いのが余計胡散臭くなりそうだ、いや俺は胡散臭いというよりただ変なだけか

「で、なにようで御座いましょうか？レミリアお嬢様」

「貴女にお嬢様って呼ばれると寒気を感じるからやめなさい」

なんでえ、せつかく人が立場をわきまえたのに

絶対レミリアの事は目上の人物と見なくて良いな、幼子を扱うような感じにするか

「さっさと言え、頭を剣山にするぞ」

「こわっ……貴女に少し頼みたい事があるのよ」

「咲夜、後は頼んだぞ。俺はフランを愛でてくる」

「待ちなさい、聞くだけ聞いて帰って下さい」

咲夜も意外と酷い事言ってるな、まあレミリアの話を聞くだけ聞いてやるか

正直フランは姉に似て欲しくない、我が儘で一度言い出したら諦めない性格のフランなんてフランじゃない

「黒い球体が最近霧の湖に現れたって話を聞いたのよ、だから貴女にそれを退治して欲しいってわけ」

「ルーミアなら咲夜を行かせりや早いだろ」

「目撃情報によると、スタイルが良くて片手に十字架形の剣を持ってる背中翼があるらしいから多分違うわね」

確かそれってリボンをどうこうしたらなるっていうEXルーミアじゃないのか？

まさかそれを倒せとは、死亡フラグすぎる

「行ってきた頂戴ね、でないと毎日私の退屈に付き合ってもらっわ」

脅迫に近い、行くか逝くかの選択じゃないかよ

咲夜は止める気無し、行けて事か

嗚呼、私の休息は何処へ行ってしまったのだろうか

紅魔館を追い出され湖に向かっている途中に一部だけ暗い場所を発見、多分ルーミアだとは思っけど行きたくない

強化版ルーミアの強さなんて分からないからなあ、でも行かなきゃ多分フランと毎日弾幕ごっこだしな

此処は腹をくくって行きますか

そのまま暗い空間に向かった、肌が何かを感じるが多分妖気だと思う
でも中はそれ以上に強い妖気を感じる、幾ら悪魔とはいえ初めて感
じる物には少し怯む

「あなたは私を封じる？」

「苛つくぐらいスタイル良いな、その胸分けてくれよ」

「ダメ、あなたが私に分けて・・・・・・・・あなたの血肉を」

ちよつと待て！！ルーミアってこんなだったか！？

もう少し能天気だと思ってたんですけど！！人に血肉を寄越せと言
った瞬間剣を降り下ろしてきた、一応避けれたけどやはり確実に殺
す気だったぞ

「あれ、避けずにちゃんと殺られてよ。でないともっと痛い目に合
つちゃうよ？」

「魔符「現れし悪魔」・・・・・・・・痛い目に合うのは貴女の方です」

刀と剣が交差する、金属音が鳴り響き互いに黒い弾幕を放つ

弾幕と弾幕が消しあい爆発する、二人とも殺す気で武器を降り下ろ
し傷を作りあう

片方が武器を振り上げれば弾幕を放ち、片方が弾幕を放てばそれを
回避しながら近付こうとする

「同じような武器だから行動は読みやすいですが、これでは何時終
わるかわかりませんね！！」

「ならさつさと殺られてよ!!」

話しながらも戦闘を続ける、幻想郷の決闘ルールは弾幕勝負だが二人がやってるのは決闘ではなく殺るか殺られるかの勝負、自分以外見えない場所で戦い傷付けあう

ルーミアは重傷を負ってなくても身体中に切り傷がある、熊狸は傷の回復が早い為傷はない、だが痛みは残るせいか動きが時折鈍る

「いい加減封じられたらどうですか？遊びあきたでしょう」

「あなたが私に食べられてくれるなら、ね」

「妖怪が悪魔を食べるなんて話しは聞いた事がありませんね、では最後にしますよ」

「立ってた方が勝ち」

熊狸とルーミアは一気に走り互いに刀と剣で切る、そして数秒後ルーミアが倒れた

暗くなつてた一部は明るくなり地面には赤い血が至るところにあつた

「派手にやり過ぎたか、でもまこれで何時ものルーミアに戻せるだろ」

「.....術式と違ってどうやるんだ？フランの時は感情と思考を弄ったから出来たけどルーミアは封じなければならない、つまり俺には無理という事？」

ヤバい、只でさえ殺し合いに近い事をさっきまでやってたのに次は妖怪殺しですか

霊夢に殺される、「幻想郷のルール守れない奴に幻想郷で生きる権

利はないわ」なんて言われたら・・・・・・あわわわ

「そうだ、パチュリーに知識を借りよう」

取り敢えずルーミアを背負って紅魔館に戻ろう、血は止まってるから大丈夫だけどまた暴れられたら嫌だから咲夜に任せよ

という事でルーミアを背負って紅魔館に戻っていく、胸が背中当たってから何度本気でぶっ飛ばそうと思ったか

「という訳だから咲夜頼んだ、俺はパチュリーに知識を借りてくる」

「いきなり言われても意味が、って行ってしまった。取り敢えず暴れたら止めれば良いだけよね」

図書館へもうダッシュ、もうあんなルーミアと戦いたくありません
雰囲気嫌、会ったら速攻食われるとかそういう雰囲気纏ってたもん

「パチュリー、妖怪を封じたりする術式って分かるか？分かるんなら教えてくれ」

「いきなり入ってくるなり術式を教えろって、まあいいかレミィからある程度力になってやれって言われてるし。はいこれ、これに載ってるわ」

「サンキュー、今度なんか作ってやるわ」

パチュリーから本を借りて一気に読む、内容は頭に入ってくるから不思議だ

術式は原理さえ分かれば簡単だった、ただ媒体がいる

普段ルーミアがしてるようなリボンは……ない、確か俺の持ち物の中に黒と白のリボンがあったがそれで良いか
咲夜の元に戻る、幸いルーミアは目が覚めてないようだ

「早かったわね、で術式は？」

「媒体もあるから多分大丈夫だ、悪魔にも神力があれば楽なのに」

あるわけない物をねだつても仕方ない、さつさとルーミアをEXからノーマルに戻すか
まずリボンに封じの術式をかける、そして次にルーミアの髪にくくりつけて最後にまた術式をかければ終了

「あの闇妖怪だったのね……」

「分からない……いwana、あんなスタイル抜群の美人がこんなだとは」

ギャップがありすぎる、身長から全てが変わってたからな
俺は一応知識があったから良いけど、無い者から見れば新しい闇妖怪にしか見えない

「んじゃ少し疲れたから寝るわ、ルーミアの目が覚めたら出してやれよ」

「わかってるわよ」

なんか咲夜が時々素を出してるな、まあんな事俺には関係ないな
部屋に戻って布団に潜り込み意識を落とした

「目玉がある妙な夢だな」

意識がはつきりした夢ってあるもんだ、多分見たことあるだろうけどないな

確かに境界を操れば楽だけどさ、俺に伝えるような事なんて・・・

・・・

ありました、ルーミアとの勝負が理由ですか

「ハロー、誰もいない方が話しやすいでしょ」

「帰りやがって下さい」

「話したい事話したら帰るわ」

話す前に帰ってほしい、お叱りは受けたくありません

だってウチの父親厳しかったし、トラウマものだよ

霊夢の罰の方が優しくかった気がする、父親と組み手なんて娘にやらせる事じゃないだろ

「いい加減話して良いかしら？」

「好きにしてちょ」

「ルーミアとの戦闘だけど、あれは弾幕じゃないわね。一步間違えれば貴女は殺しの罪を被ってたわ、向こうも殺す気だったから貴女を責めたりしないけど・・・」

「次からは注意しろってか」

やり過ぎた感はある、というかなんだ奥歯に何か挟まったような言い方だな

まるでまた何か厄介事を持って来そうな、いやそれはないという事で聞いてみるか

「他に言いたい事ないのか？ないなら眠らしてくれ、まともに」

「貴女に行ってほしい場所があるのよ、明日ぐらいにね」

「今日はEXルーミア倒して明日は巫女を倒せとな、あんたは死亡フラグをどれだけ渡す気だ」

「違うわよ、香霧堂に行ってほしいのよ。そこで珍しい物があるから買って来てほしいワケ」

こーりんのところにねえ、てかまた迷うフラグか
地図がなけりや行けない、だって確実に迷うから
という事で残念ながら無理、自分で行けスキマ

「地図は明日あげるからよろしく、んじゃ」

ヒデエ、人がフラグをへし折ろうとしたら速攻立てやがった
回収しなくてはフラグじゃない、自分で言った言葉が仇になったな

取り敢えず意識を落として寝よう、多分すぐ寝れるわ
そしてすぐに意識を遠いどこかに落とした

V S ルーミア・・・（後書き）

これが僕の全力です、これより上は期待しないで下さい

頭がオーバーヒートします、そしてすみませんでした！！orz
寝起きで書いた文なんで最初のあれは許して下さい

ユウリ「いやそれよりルーミアだろ、リボンの色が変わったぞ」

るみぁ「そーなのかー？あたしは気にしてないぞー」

良かった、本人は気にしてないらしい

だけどやっぱ日常が書きやすいね、主人公組が空気っぽいけど気にしなく

霊マリ「夢想スパーク！！！」

（作者蘇生中）

いきなり何をするんだ、てか夢想封印とマスパを混ぜるな危ない

ユウリ「同時竜破斬と夢想スパークだどっちがマシ？」

あのさ、魔王が危ないと言ってるような物と最強の人間と普通の魔法使いとの融合技を天秤にかけてどうする

霊夢「でもこれは東方なんだから私や魔利沙を出さない、それと異変はどうす・・・」

・・・（；^ー^）実はそれが一番問題なのよ

紅魔郷は確実に終わってるでしょ、他がちよつとね

熊涅と妹紅を会わせてみたいけど、輝夜とも会わせてみたい

早苗は一応外の人間だから熊涅と顔見知り程度の会話は・・・
るみぁ「つまりノープランって事なのかー？」

三人「バカすぎる」

だからいつそのことオリジナル異変だけにしようかと、それなら多少楽だから

（できると思うか？）

（無理ね、多分途中で挫折するわ）

（作者も努力してんだからちよつとは期待してみたらどうだ？私は少し期待してるぜ）

・・・・魔利沙以外出番削ぎ落とすぞ、いざとなれば魅魔と魔利沙だけの話を作ったりすからな

三人「脅迫だな／ね／だぜ」

るせえ、百合と脇に言われたくｎ（ピチューン

るみあ「少し質問するぞー、１つこの後書き必要かー？２つEXネタはもうやらない方がいいかー？」

ユウリ「これは答えなくても良いぞ、作者によれば頭の中でキャラが勝手に動いてるからそれをそのまま文章にしてるだけらしい」

霊夢「ネタは大募集よ、ある程度まで再現してくれるらしいわ」

魔利沙「クオリティは低いから気を付けてくれよな、それじゃさよならだぜ」

熊涇についてですが、一定話数を越えたら追加されたスペカや設定

をまとめた物を投稿します

フラグというか選ぶ選択肢が悪いんだな、面倒事しかないのは（前書き）

色々飛ばしてるような気が・・・

フラグというか選ぶ選択肢が悪いんだな、面倒事しかないのは

「んじゃ香霖堂まで行ってくるわ」

「なぜそれを咲夜さんではなく私に言うんですか」

「門番だから、それじゃ」

昨日誰かさんが人の夢にまで現れて伝えに来た下らない用事を済ませに香霖堂まで行ってさっさと珍しい物を買って来ますか、取り敢えず美鈴に出掛け先を伝えてから出ていく

途中妖精に会いながらも地図に書いてる通りに進んで行く、がとある場所で足が止まった

普通の人間には有害な孢子を出しているキノコがある森、魔法の森です

隣を歩こう、魔法の森にわざわざ入らなくても良いんだ

香霖堂は境目にあるんだから、それから妖怪に会ったりしたが皆逃げて行く

動物的本能ってヤツか？ちよっくら取っ捕まえて聞いてみるか

「おいその逃げて行く妖怪、ちよつと面貸せや。悪い事にはしないからよ、抵抗しなかったらな……」

「イエス！！なんでございましょうか！！」

あれ、さっきまで生に満ちてた目が死を覚悟してるや

取っ捕まえただけなのに、背筋も伸びてなんか汗が大量に出てるしまあ良いか、逃げてく理由を聞くだけだしな

「なんで俺を見掛けたらすぐ逃げて行くんだ？」

「だって、悪魔でしょ？紅魔館の吸血鬼のところで働いてるんですよ？更に博麗の巫女に認められたんでしょ？」

整理しようか

Q1、貴女は悪魔ですか？

A1、悪魔だけど普段は普通の人間並しか力はありません

Q2、紅魔館の吸血鬼のところで働いていますか？

A2、我が儘を聞いてやってるだけです、ソイツより妹を可愛いがつてます

Q3 博麗の巫女に認められていますか？

A3 何を馬鹿な事を、霊夢が俺を認める訳がない

彼女はただの寶銭をくれる変態とは思ってません
情報源は一体何処だよ、人のプライバシーを無視する奴なんて一人しか思い浮かばないけど

「誰に聞いた、またはどこで聞いた」

「これで知りました」

「よし、もう好きにして良いぞ」

と言った瞬間妖怪は一目散へ逃げてった、そんなに怖かったのか
さて情報源はデマと真実と盗撮で埋め尽くされた文文。新聞、見付
けたら焼き鳥にでもするか

そんな物騒な事を考えながらまた香霖堂を目指す、途中触手的な物
が見えたけど無視

俺は見る方専門だからな、それにんな事になったら消される

んな事考えてたら着いた、さて入りますか

「八雲のスキマにお使いを頼まれた者ですけど」

「ああ、お客さんかい。何を探しているんだい」

こーりん登場、禪ネタで変態にされる事があるけど自分がリアル変態だから気にしない

さて、珍しい物が入ってるか聞くか

「珍しい物が入ったって聞かされたんですけど、ありますか？」

「このことかい？」

「ルービックキューブだな、確かに最近持つて人間見たことなかったわ」

「後は珍しい物と言ったら、アレぐらいだな」

こーりんが指差した先にはちよつと前のチャリ、これ貰おうかな運動になるし、よし交渉しよう

「それとアレ、あわせて幾らぐらい？」

「値打ちが分からないから言い値で良いよ」

「マジで！？んじゃ千円で」

一応千円出したけど、使えるのか？

先ずはそれが心配だ、無理なら外の歴史書を渡そう

「残念だけど外のお金は・・・」

「なら歴史書で」

「これなら良いよ」

つしゃ、歴史書がチャリとルービックキューブに化けた

さて少しだけなんかないか探すかな、一応店だし見るぐらい良いだろ
まずは本がごちゃごちゃ入ってる棚には・・・・・・・・見なかった事
にしよう、18禁本が見えた

こーりんも男なのね、さて次はビデオテープがある棚を物色しますか
名前が書かれてあるな、ビーファイターカブト・・・・・・・・ってふる
っ！！！作者が未だに覚えてるのが可笑いぞ！！

まあ流れ着いてもおかしくはないな、今の世代知らないからな
次は何があるかな・・・・・・・・スレイヤーズ、無印か

まだ幻想入りは早いな、んで他は真仮面ライダーにぬぐべー一話
作者・・・・・・・・実は妖怪だろ、平成生まれが知ってるネタじゃない
ぞこれ

「なんか面白い物でもあった？」

「色々とおかしいのがあった、紫にはまだ幻想郷には早い物を教え
て返してもらっておこう」

こーりんがなんか言いたそうな顔してるけど無視、こんなでも忙しい
身なんです

妄想したりフランを何時襲おうか考えたり色々だね、変態とか言わ
れても俺にとっては誉め言葉です

香霖堂を出て紅魔館に帰るハズだったんだけど、途中何故か薬が入ってたであろう箱を頭に乗つけてた鈴仙を見付けた

うん、誰でも声かけたくなるよね

でもそれが間違いだった、素直に無視したら良かった

そしたらあんな面倒臭い事にはならなかったのに……………

「で、何してんの？ 兎さんはお家に帰った方が」

「こつちですよ、なんでリアル兎に話し掛けてるんですか」

「同じ兎だったから間違えた、で何してんの？」

「森の近くを歩いてたら触手的な物に捕まって薬が……………」

ヤベエフラグだ、多分強制的に探させられる

それだけは阻止せねばならん、只でさえ紫という面倒なフラグ製造マシーンが常に覗いてんのにまた面倒事なんて御免被る

いや、霊夢とのアツいフラグなら大歓迎か

魔理沙でもフランでも小悪魔でも大歓迎、誰か「私を汚して」的な事言わないかなあ

「あの、良かったら薬を探してほし「断る」……………せめて最後まで聞いて下さい」

「それじゃ俺は忙しいから」

チャリを全速力で走らせる、なんであんなところに居たかは知らんが今はフラグをへし折るのが先だ

百合的なフラグは立たない癖に面倒なフラグは沢山立つ、幻想郷は理不尽の塊だ

いや、現実も同じようなもんか
んでんな事考えてたら破壊されました、チャリが……

「逃げないで下さい、ちょっと手伝って欲しいだ「チャリがあああ
！！せつかく徒歩と飛ぶ以外の移動手段を見付けたのに、懐かしさ
で買ったから大事にしよう……ああ」えっと、もし
かして私大切な物に弾幕撃っちゃいました？」

「アッハッハッハ、ったりめえだろ弱小鬼。どうしてくれんだ、こ
んな餓鬼のオモチャ一個に歴史書買ったって思うとお姉さん悲しく
て涙出ちゃうよ……」

「すみませんでした！！！！買い直すのでそれで許して下さい！！
！お金は私が払いますので！！」

「なら行ってこいや」

香霖堂へ走ってく鈴仙、涙目だったな
でも俺は悪くない、だってチャリ破壊されたし
ヤクザ化しても仕方ないよね、皆だって買ったばかりの物を破壊さ
れたら怒るもんね
「買ってきました」

「それじゃ、アディオス」

買った自転車に乗って紅魔館まで帰ろうとするが、後ろで小動物
みたいなオーラを出してる鈴仙
いや確かに常識人なら待つかも知れないけど、残念ながら俺常識人
じゃないから
という事で去らば

「待つて下さいよ！！少しぐらい手伝ってくれたって・・・」

「・・・お願いだから涙声にならないで、なんか俺が泣かしたみたいじゃん」

「じゃ手伝って下さい」

女つてズルい、自分も女だけどさ

涙に弱い奴つてどうなのよって考えてたけどアレだね、精神的に男みたいな人間には効果抜群だね
で、結局断ることも出来ずに

「手伝っちゃってるワケなんだよな、あゝあやっぱなんか憑いてんのかね」

「後一つ見付かりませんね、何処にあるんでしょうか」

「知るか、ブレザーとかスカートの中にはないのか」

「あつたら奇跡だと思います」

「なら信じて脱げ」

問題発言だろうが気にしない、絶対脱がないと思うから
純粋な人間でも人前で脱がないんだから脱ぐはずないだろ

「流石にその奇跡は信じれません、てかある確率0です」

「だろうな、とりあえず疲れたから休憩」

「はあ、師匠になんて言おう」

売れたとでも言えば良いんじゃない？って思ったけど鈴仙の師匠って永琳だったわ、あの人に嘘なんかついたら一発でバレそうだもんな
というかなんで俺まで鈴仙と一緒に永遠亭に行くような雰囲気にな
ってきてんの、マジでやだよ行きたくない

っうワケでここらでお別れしようか、充分探してあげたし

「んじゃ、後は一人で頑張れよ」

「はい、腹をくくります」

ようやく紅魔館に帰れる、昼前に出たのにもう夕方だよ
今日は散々な1日だったぜ、もう帰って寝ようかな

「という事を考えてた時期が自分にもありました」

「帰ってきていきなり妙な事を言わないで下さい」

「咲夜が厳しい、やっぱ黙って行っただのが不味かったか」

「妹様の相手を出来る人間が貴女しかいないから大変だったのよ」

フランの相手ねえ、確かに普通の遊びをやっても最終的に弾幕こ
っこになるから意味ないしな

しかも美鈴が真白に燃え尽きてたよ、なんていうか……うん、
フランの凄さを改めて知ったわ

「それはお疲れ様で、んじゃ部屋に戻るわ」

「荷物を置いたらまた例のアレが来てるから相手しといて下さいね」
うげ、紫きてんのかよ

一々紅魔館まで来なくても良いじゃねえかよ、面倒臭い
取り敢えず荷物を部屋に置いて客間、という名の余り部屋に向かう

「珍しい物を受け取りに来たわよ」

「はい・・・よ！！！」

「あぶつ！投げないでよ、当たったら痛いじゃない」

「どうやって渡せとは言われてないから」

屁理屈だとか言ってるけど無視、大体コイツのお陰で最近ゆっくり
出来てないんだよ
ストレスは今日少し解消したから良いけどさ、この調子で行くとそ
の内キれるぞ

「取り敢えずありがとう、渡し方は気に入らないけど」

「短刀投げられるのと霊夢に有ること無いこと吹き込まれるの、ど
つちがお望みで？」

「どつちも嫌よ、全く私をこんな扱いする人物は藍を除いて霊夢と
あんたぐらいよ」

そりゃ面倒事を運び込まれてたら扱いも悪くなるだろ
藍も大変だよな、直接会って話した事ないけどさ

こんな性格の主を持ってたら苦勞が増える一方だつて事はわかる、
さて今度はこつちが伝える番だな

「後幻想郷に早い物がちらほらあつたぞ、デッキがないのにテープ
が沢山あつたり初期のDSがあつたり色々」と

「良いのよ、どうせ新しい物に手を出して前のバージョンは忘れ去
られるのだから」

「あらそう、んじゃお互い言いたい事は言つたからとつとスキマ
に帰れ」

「酷い言い方ね、そんな言い方する奴にはえい」

ん、身体が軽くなつたような

浮遊は違ふよな、絶対下にスキマ開いてるな

下を見たら落ちるっていう漫画みたいなパターンだよな、嫌だなあ
見たくないなあ

でも目の前にハンマーを片手に持った紫ババアがいるし……………
つてヤバ、振り上げやがつた

という事はそのまま俺の頭目掛けて降り下ろす!!

「つて実況してる場合かああああ」

紫ババアって思ったのが悪かったか、ネタだつただけどな
まあ良いや、このまま流れてたら何処かに落ちるだろ

フラグというか選ぶ選択肢が悪いんだな、面倒事しかないのは（後書き）

熊狸の血が騒ぎました、そしていつたい熊狸は何処に飛ばされたのでしょうか

鈴仙「あれは怖かった・・・」

ユウリ「まともに出た紅魔館メンバーが咲夜とスカーレット姉妹という罫、美鈴に新しい技を覚えさせるか」

君が言うとまともな技を覚えさせないような気がしてならないんだけど

まあ良いや、香霖堂にあった物を挙げてみようか

スレイヤーズと書かれたビデオテープ×2

奇面組と（以下略）×2

ビーファイターカブトと（以下略）×1

魔方陣グルグルと（以下略）×2

PS本体×2機

ソフト×大量

DS×2

以上です、実際自分が持ってたビデオテープを挙げてます

ビーファイター♪、ビーファイターカブト♪

二人「ふるっ！！奇面組とかつて時代違いすぎるだろ／でしょ！！」

親に産まれる時代間違えたなって言われてる奴に言うな、平成生まれなのにブリーチやナルト知らないんだよ

ユウリ「それから生まれた訳だから当然俺も知らない訳だ」

鈴仙「なんていうか、時代に取り残されてますね」

泣いていい？目に汗が溜まってくるんだけど

ユウリ「終わってからな」

はい、未だにキタキタ踊りを脳内再生できる作者は強い子なんで裏で泣いてきます

「作者が悲しみに溺れてる為休憩中」

さて、鈴仙や霖之助が名前を名乗るシーンがなかったけどあれは先に文文。新聞で自分達の事を知っている外来人がある理由で悪魔になっちゃったから幻想郷に住んでるって知ってたからです

決して面倒臭いとか忘れてたとか鈴仙の名前長いから書きたくないとか、そんな理由じゃありません

ユウリ「もうツツコミはしないからな」

鈴仙「それで私が魔法の森近くに居た理由は？」

あゝ、それは簡単に言うとね

魔理沙が風邪をひいたって霊夢から聞いたから人里で薬を売り終わった次いでに風邪薬を渡しに行った帰りに触手的な物に捕まって色々された挙げ句捨てられた

というわけ

ユウリ「魔法使いって風邪ひくんだな」

一応人間だからね、君も病気にはなるよ

どんな病気にかかるか知らないけど

鈴仙「色々ツツコミどころが・・・」

熊狸は何処に飛ばされたのか、ヒントは熊狸の武器

ではまた

ユウリ「幼夢だろ、漢字が違うのはわざとだ。ってか漢字ってなんだ」

鈴仙「内容も後書きもぐだぐだですね」

白玉楼へ（前書き）

長い、何時もより長いから余計ぐだぐだだよ
畜生、オラに文才を分けてくれ

白玉楼へ

畜生、落とすならもう少しまともな場所に落とせよ

落ちた先が尖った木の枝つて有り得るか普通、しかも長いし丈夫そうなやつだし

見事に刺さってるよ、最近身体に何か刺さっても慌てなくなってきたぞ

咲夜に1日五回はナイフで刺されてるからだな、能力が作用してるのかも知れないけどどんな事気にしてたら人間生きていけないわな
まあ、人間じゃないけどさ

……妖夢発見、遠くだからよくわかんないけど多分そうだとりあえず助けてもらおう

「おい、その侍ガール。助けてくれ」

うん、なんて能天気な言い方だろうか

幻想郷じゃなかったら狂ってるバカにしか見えないな、でも近づいてるよね

やっぱり妖夢だ、という事は白玉楼に来たわけだ

「あの、いったい何を」

「スキマに落とされた先が尖った木の枝で避ける事も出来ず刺さった、抜こうにもグツサリいつてるから自力じゃ抜けないワケよ」

「はあ、それじゃ……ふん!!」

おお、見事に木の枝を切り取ったよ

これなら妖夢に抜いてもらう事も出来る

「後はこれを抜いてちょ」

「・・・・・・・・」

無言で抜いてもらいました、物凄い勢いで血が流れたよ
まあすぐ自動で治るからいいけどさ、だけどやっぱり痛い

「で、いったいあなたは何者ですか」

「虎狼熊狸、人間で悪魔」

「紫様が言ってたのはあなたですか、私は魂魄妖夢です」

こんなところにまで俺の事話してたのかよ、文文。新聞よりかは信用出来るとは思っけどさ少しは疑ったらどうだ？

もしかしたらこのまま短刀でザクツとやる可能性だって・・・・・・・・
ないわな、紫から聞いたなら確実に俺が女好きだって言ってるハズだから

待てよ、逆に考えれば妖夢は自分の身体の危機を感じながら俺と話してるワケだから・・・・・・・・食べてもOKだよな

「紫様から聞いた通り変な方ですね、いきなり真剣な顔でなんか考えるなんて」

「人にとってはくだらない、だが俺にとっては大切な事を考えてました」

「食べるなら博麗の巫女にして下さい、それと中に入るなら私に着いてきて下さい」

わお、自分を守る為に霊夢を売り飛ばしたよ

本人に聞かれたら殴られるぞ、っと先先行ってる妖夢を追いかけないと

それにしても桜が綺麗だねえ、でも赤い桜も見てみた・・・駄目だ、思考が一瞬本家モードにいきそうになった

彼処ずっと内乱やら殴り合いやらしてるから俺まで毒されてんだよな、孫娘が来た時ぐらいいは止めてほしいよ

ってそうじゃないそうじゃない、とりあえずそいった感情減らした何時もの状態にしとかなきゃ

・・・・・・よし、もう大丈夫だ

「幽々子様、紫様が言ってた方が居たのでお連れしました」

「時間ぴったりね」

「ふん!!!!」

幽々子さんより先に紫が現れたから短刀を投げた、人をあんな場所に落として「時間ぴったりね」なんて言われたら苛つくわな

「人様の家でそんな事しないで下さい」

「すまん、あのスキマを見たら殺意が出てつい」

「ついで短刀を投げないでちょうだい」

るせえよ、短刀をスキマで俺の前に刺しながら言っな

というか幽々子さんはどこだよ、白玉楼の主が不在で客と庭師のみってのは勘弁してくれ

「ところで幽々子様は？」

「幽々子なら庭にいたわよ」

「そうですか、では熊狸様少し待つ……ていない」

「初めまして虎狼熊狸です、以後お見知りおきを」

「私は西行寺幽々子よ、紫からあなたの話しは聞いてるわ」

見かけたから来てみたが、空気が周りと違うな

幽々子さんの影響か、はたまた異質な悪魔と亡霊がいるからか

まあ多分互いに真剣だからだろうな、こっちは死を操られる可能性があるし向こうは感情を操られて自らの手で妖夢を殺してしまう可能性がある

厄介な能力を持つて二人だからこそ互いの腹を探るような会話にもなる

「それはどうも、で先程から私の寿命が徐々に減らされている感じがするのですが？」

「私もさつきから楽観的なものを下げられながら殺意を上げられるような感じがするのだけれど？」

ゆつくりと相手に能力を使って死に追いやる二人、顔は笑顔でも目は鋭く光らせている

そして多分、この後言う言葉は同じだろう

「これは殺してくれっていう事？/ですか？」

ほらな、カリスマ性のあるないに関係なく相手がどういった人物か調べるにはこれが手っ取り早い

考えが読めない相手なら尚更だ、考えは読めないが根元に何があるかはわかる

今の状況から考えるとしたら俺と似たような考えだろ

殺し合いに発展させれば大切な何かを消すぞ、口に出してもそれはただの軽い脅しだ

だが能力で実際にそれを実行させようとするれば効果は絶大になる、俺は命で幽々子さんは妖夢だ

互いに恐れている可能性のあるものを選んでいる、だからこそ取る手段は1つだけ

「ここまでにしましょうか、互いに大切な何かを消されたくないですから」

「そうね、私も自分の手で妖夢を殺したくはないものね」

「そういえばスキマが来てましたけど？」

「紫が？何かしら、新しい外の食べ物でも持って来てくれたのかし

らねえ」

とか言いながら家の中に戻ってった幽々子さん、さっきまでの雰囲気は何処に行ったやら。のほほんとした空気が白玉楼全体にある気がするよ

能力で元に戻したから妖夢を襲う事はないだろ、殺意的な意味ではな
さて、俺も戻りますかね

「幽々子様？なぜ私に抱き着いているのですか？そしてなぜ離さない
的な事を言っているのですか！？」

うん、写真が欲しくなってきた

そして少し後悔した、俺が上げた殺意は存在を消すという感情だったからあのままだと妖夢の存在が殺されてたんだよな

死は肉体と存在がある、肉体ならば妖夢も残るだろうが存在だと残らないからな

「貴女、何したのよ」

「互いに消し合いを・・・」

「何を消そうとしたのよ」

紫さん、目が怖いです

スペカルールあるのに全然してないから？いや違う、幽々子さんを傷付けるような事したからだ

「絶対に怒るなよ・・・幽々子さんは俺の寿命を、俺は妖夢の存在を」

「え・・・・・・・・・・という事は熊狸は幽々子に妖夢を殺させるような真似をしたの？」

「殴りたいなら殴れ、後悔はしている」

こんぐらい予想はしてたさ、紫と幽々子は旧くからの友人
その友人が悲しむような事をやらされたら怒るのは当然、とまあ力
ツコつけても実際は自分を落ち着かせる為なんだけどな
能力使っても赤い桜を見たいという感情がなかなか消えないからな

「わか「分かりました、では覚悟して下さい」」

「・・・・・・・・紫じゃなくて妖夢が返事するとは、んじゃ庭に行く
うか」

そういつて庭に出る俺と妖夢、紫と幽々子は縁側で観戦か

「幽々子様がさっき言った言葉の意味が今なら分かります」

「だったら、どうする？半人前の剣士さん」

「本気であなたをこの剣で切ります」

頭に来てるようだな、だけどそっちが本気ならこっちも本気でいくぞ

幽々子・紫sldo

「・・・妖夢」

結構頭に来てるようね、でも熊狸は並の人間じゃないわ

悪魔で人間、純粋な悪魔だけれどスペルカードを使わなかったら人間並の力しかない

だけど感情に関しては人間にも悪魔にもなる、相手を容赦なく叩きのめすか気絶で済ませるか

どちらにせよ、彼女は私の目の届く範囲に置いて置かないとね

「私から行きます!!」

「・・・」

無言ね、ただただ無言で妖夢の剣を受け流しているわね
短刀と剣だと部が悪いと思ったけれど、何故か余裕そうね

「妖夢の動きが雑になってるわ」

「ええ、このままだと負けるわね」

「何故貴女は余裕そうに出来るのですか、私は貴女殺そうとしているのですよ」

確かにそうね、幾らあの子が半人前でも自分の命を狙われていたら普通は何か対策をとるわ

でも彼女は能力を使わずにただ受け流しているだけ、スペカも使っていないから悪魔化なんてしてないしまさか死ぬつもりなのかしら

「殺そうとねえ……なら情を捨てて狙いな、こういう風にさー！」

「短刀を投げただけで私に刺さるとでも思っているのですか？」

「ああ、刺さるさ壊符「消え行く果てに」」

確かにそれだと確実に刺さるわね、短刀を消し妖夢の死角へ送り尚且つ心臓がある位置へ刃を向ける
そうすれば確實、妖怪や幽霊だからこそ出来る芸当ね

「っ、何故消えた短刀が私に刺さって」

「物体を相手の死角へ送るスペルカード、送る物は弾幕でも短刀でも何でも良い。これがさっき使ったスペルカードの効果だ」

「反則的なスペルカードですね、でも私はまだ……」

「残念ながら紫に短刀を返された時に刃に眠り薬を塗ったから終了です」

何時の間に塗ったのよ、鞘に仕込んであったのかしら
でも一応これで終わりね、短刀も深く刺してなかったみたいだし
だけど1つだけ腑に落ちないわね、熊狸がなんで常に平常心でいられるのか

これが不思議で仕方ないわね

s i d o E N D

最初に妖夢に命を狙われたら流石に焦ってたけど先に幽々子さんに死へ近付けられたら冷静に対処出来たけど、やっぱ人間から離れて来てるよな

「ちょっと熊狸、少し話があるのだけけど。良いかしら？」

「命狙われてなんで冷静にいられたかってか？先に幽々子さんの能力で寿命が消えかけたからだ、後俺は殆ど不老不死みたいなもんだ。だから冷静に対処出来た」

「人間という軸から離れて来てるわね、とりあえず私の目の届く範囲にいてくれればあまりとやかく言わないから」

「監視か？式が泣くぞ、「紫様も地に落ちたな」って泣かれるぞ」

「それもう馬鹿にされてるじゃない！！藍は私にそんな事言わないわよ……………多分」

多分かよ、さつさと中に入って幽々子さんと色々話す事にしましょ

うかね

客室に戻ったら妖夢に睨まれました、可愛い顔が台無しですよ

「睨まないで頂戴、もう幽々子さん苛めないからさ」

「今度はちゃんとした剣での勝負をして下されば考えます」

待て、短刀使いに何を申し込んでいるんだコイツは

絶対に受けないぞ、俺は面倒事が大嫌いだからな

「んじゃこれ着て」

「「熊狸グッド!!!!」」

「嫌です、幽々子様と紫様も何がグッドですか」

スク水良いじゃないか、他にもメイド服や猫耳等多数がありますよ
まあ妖夢にはスク水を着てもらいますが、際どいビキニなんて着せ
たら……ラーラー」

「妖夢にスク水着せるZE」

「ちょっと、待ってくだって幽々子様も私を捕らえないでくだ……
・・ああん」

三人して妖夢を着せ替える、他者が見たら変態にしか見えないな
でも自重なんてしない、何故ならそれは

「この小説は作者の妄想でお送りしています」

この言葉で殆ど片付く、っと無駄な話しは置いて妖夢に着せる
のに集中するか

「よし、抵抗されたが何とか着せれたな」

「可愛いわね〜」

「本当ね、でももう一人誰かに他の服を着せたいわね」

寒気が、まさかもう一人つてのは俺か！俺なのか？

よし逃げよう、全力で逃げよう

「待ちなさい熊狸、逃げても無駄よ」

「嫌だ、絶対に着ないからな！！俺は男物で充分だ！！」

学校は仕方ないとしてもプライベートでなんて嫌だ、弄るのは楽しいが弄られるのはいやだ

畜生、妖夢は既に着替えて「次はあなたですよ・・・」なんて言うてやがるし

どうしたら、一体どうしたら良いんだ選択肢は

1 逃げても捕まる

2 どうせスキマで捕獲される

あれ？どっちにしる捕まるじゃん、でも諦めない

諦めたらそこでGAMEオベラだ、だから絶対に諦めない

「捕獲成功、それじゃこれを着て貰いましょうかしら」

あるえー、庭にダッシュで逃げた筈なのに縄で捕まえられてるよ
おかしいなあ、体力には少し自信があるのに

「庭全体にスキマを開いていたから逃げても無駄な足掻きだったのよ」

「見ている側からしたらとても面白かったですよ」

泣いていい？幽々子さんなんて扇子で口元隠して笑ってるよ、絶望した理不尽な世の中に絶望した

某先生風に言ってみただけで自分で納得しちゃってるから意味なかった

「さあさあ、早くこれを着なさい」

「やだ、絶対に着ない」

「？口調が変わりましたね」

「そうね、少し女の子らしくなったわね」

やべ、一部の奴らに使ってる口調が・・

でも今はんな事より服だ、このままじゃ確実にセーラー確定だよ畜生

「妖夢、準備OKよ」

「分かりました、では・・・」

「あれ、何時の間にか服を・・・・・・つてはあああ！！！！」

いやいやいや、妖夢何やってくれてんだよ！！仕返しか！！無理矢理スク水を着せた仕返しにセーラー服着せたのか！？

最悪だ、もう死にたい

「なんか・・・妖夢以上にダメージ受けてるわね」

「私も相当ダメージ負いましたよ」

「おあいこで良いわね」

着替えよ、一応隣に置いてくれてるからすぐに着替えろって事だと思っし

・ ・ ・ 着替え終了、紫達が「良く人前で着替えれるわね」とか言っただけど野郎共の中でさえ普通に着替えれる人間に何を今さらって感じがしました

「で、夕方まで馬鹿な事してたけど俺今日白玉楼に泊まるワケ？」

「ええそつよ、明日になったら紅魔館へ帰してあげるから我慢してね」

「OK、今度こんなマネしたら式への殺意を底上げしてやるから覚悟しとけ」

「目が本気ね、これからは気を付けるわ」

そう言っただけ帰って行きやがった、因みに俺は本気だからなほんの少し殺意に繋がるものがあればそれを操作して相手に仲間を殺させる、外道っぽいけど自分の手は汚れないから楽な方法だといってもそんな事に使うつもりはない・ ・ ・ ・ ・ 多分

「さて、俺はちよっくら一眠りしようかね」

「夕御飯はどうするんですか？」

「いらね、その代わり酒用意しといてくれや」

「はあ、分かりました」

幽々子さんに使って良い部屋を教えてもらったからさっさと布団敷いて寝よ、という事でドリームワールドへゴー

「ん・・・あゝ、今何時だ？二時か・・・枕元に酒が置いてあるし、夜桜でも見ながら飲むか」

法律なんて知らね、それに飲むのは月に一度か二度ぐらいだから大丈夫だろ、つとこらが一番見易いからね
とりあえず猪口に酒を注いで飲む

「人の世も桜と同じく散り行き美しくある、一瞬美しくありそれ以降は散り行くのみ・・・ってね」

「人の生を桜に例えるなんてうまいわねえ」

「そうですか？私は適当に言ってるだけですよ・・・・・・紅の桜は黒墨の桜に惹かれ何を見る」

「紅の桜はあなたで黒墨の桜は私かしら？私に惹かれて何を見たの

か気になるわね」

「残念ながら教える気はありませんよ」

「それは残念ね」

この後も長い間二人で話してた、久しぶりにゆっくりとした時間を堪能出来た気分だよ

話し終わった後も俺は縁側で舞い散る桜と夜空に浮かぶ月を見ながらボケーとしてた

白玉楼へ（後書き）

本家モードや家庭については次話に書きます

ユウリ「それは良いけど、なんか幽々子さんとの初対面シーン・・・」

僕がやりたかっただけって言うね、僕の中では幽々子さんってあんな感じなのよ

次いでに最後に君が言ったあれは全て自己解釈だから

妖夢「それより問題はスペカ勝負を殆どやってないっていう方が問題なのでは？後私のスク水や戦闘とか色々」

スペカは・・・弾幕まで詳しく書かれてるサイトなかなかなくて、ねスク水はただ萌え要素が欲しかっただけ、つまり作者の妄想と暴走戦闘については・・・長くなればなるほど意味不になってくから・・・orz

ユウリ「つまり生徒会室で駄弁ってるだけのラノベみたいになるとネタに困るし、炎髪灼眼の少女みたいになると短く纏めようとしてしまうワケか」

その通りだけど例に挙げたのがその2つってちよつと・・・もう良いや、今回の内容だって最初は幽々子さんに会って仲良くなった後紅魔館へ戻るって話だったのが何時の間にかあんな内容になつてたし・・・

ユウリ「ああ・・・作者がネガティブ生きそうだから締めろ、幼夢」

幼夢「次回は虎狼熊狸の追加要素と家庭状況です」

文文。新聞特大号（前書き）

協力者は幻想郷の方々、特に八雲紫さんには大変感謝しています

文文。新聞特大号

「容姿」

髪↓ショート

髪色↓黒に薄い赤が混じった感じ

性格↓変態、おちゃらけ、時に真面目

「能力関係」

：外の世界で能力を自分で作ってしまいその対価として感情の40%を消し何色にも染まらない空間が出来た

相手の下げた能力はその40%に一時的に保存されるが2日経てば消えてしまう

能力の応用で思考も弄ろうと思えば弄れるがそれを行った場合、凄まじい疲れと眠気が襲う為使用は殆どしない

「能力外の力」

：制御や封じ系の術式を使う、自分には使えない為あまり役に立たない

自分に使うと術式が拒否反応を起こし壊れる

パチュリー曰く「あなたの術式は自分以外を守ったり封じたりするタイプ」

「家庭状況」

：家では大抵の家事をこなし下の人達に簡単な気絶のさせ方を教えている、たまに殺し方も

叔父の家では毎回色んな人達が殴りあい等をやっている、それに巻き込まれたりするが何時も相手の心に刺さる事を言って終わらす

例1「30過ぎて童貞って・・・」

例2「15の女性に絡むって恥ずかしくない？来年で三十路なのにさ」

→のような事を言っても相手が引かない場合は血を見てもらっ平均成人男性並の体力や腕力はあるため、痛い目に合わせた事も何度か

桜の木が家にある、だが4月には見事に赤い

「本家モード」

簡単に言えば暴走、誰構わず殴り倒したり短刀で傷をつけたりする能力を作った原因の1つ

「学校関係」

授業の大半は屋上でサボってるが教科書の必要な部分だけノートに写したり歴史書を読んだりしてる分賢い

一部の教師には家の事でとやかく言われてるが無視している

喧嘩等は売らないが売られた場合スタンガンを見せて帰らせる、因みにもう壊れてるため完全に脅し用として使っている

友達是最初の方にちよろつと現れた彼とその姉ぐらい、他は話した

りする程度

「幻想郷の方からの反応」

・とある巫女さん

「紫以上に訳が分からない奴ね」

・普通の魔法使いさん

「霊夢と同じだぜ」

・紅魔館の主さん

「彼女は私の妹を救ってくれた恩人ね、だけど私達以上に血を求めているかも知れないわね・・・」

・瀟洒なメイドさん

「フランお嬢様を地下に閉じ込める事がなくなって私は大変感謝してるわ」

・主の妹さん

「あたしの狂気を減らしてくれたから大好きだよ、でも時々怖いって思ってしまうの何でだろ？」

・妖怪の賢者さん

「彼女はレミリアの妹以上に危険よ、ほんの少し殺意に近い何かがあればそれを操って殺させる事だって出来るのだから」

・白玉楼の庭師さん

「あの人は・・・そうですね、冷静すぎて少し恐ろしいですね」

・白玉楼の主さん

「彼女は怖いわよ、自分を紅の桜って例えるんだから。それに、私みたいな能力を持ってないと彼女を殺そうとしても殺されるわよ」

・・・・あややや、噂の外来人虎狼熊狸さんを独自に調査したところ色々な事が分かり私は少し怖いです

皆さん、決して彼女を本気で怒らせないで下さい

最悪消されます

文文。新聞特大号（後書き）

文屋の本気です、家庭状況等外の世界関係は紫さんです
ユウリの事が気になりスキマを開いて色々見てきたようですね、さ
て自分がいかに患ってるかわかったが変える気はありません
それに誰も殺させはしませんよ、弾幕勝負もまともに……………
グス

悪魔で人間、てかもう悪魔です（前書き）

毎度ながらグダグダです

悪魔で人間、てかもう悪魔です

頭痛い、昨日飲み過ぎたな

二本目突入したのが不味かったか、取り敢えず顔洗ってこよ

「あれ、熊狸さ．．．．．ってなんですかその格好は」

「Ｙシャツに下着って普通じゃなかったのか？寝るときは殆どこの格好だけだ」

「寝巻きぐらい普通持つてるもんですよ」

「そ．．．．．っはあ、目が覚める」

やっぱり冷たい水は目が覚めるね、朝から庭に出されて短刀を振らされたりしてたけど絶対に水で顔を洗う方が楽だよ

．．．．．今の妖夢の服装は寝巻き、見た目は同じだけど実際はどっちが．．．

「よし、調べよう」

「ちょっと、いきなりどこを触って．．．／／」

「．．．．．orz」

サラシ巻いてないから勝つてると思ってた、なのになぜ．．．なぜ妖夢の方が少し大きいんだ！！！

やっぱあれか、胸から痩せるからか

同年代と比べて良く動いてたからか、畜生別に羨ましくなんてないからな妖夢

「・・・・・・・・グッ」

「ふん！ー！」

小さくガッツポーズしやがったから肘と膝の同時打ちを食らわせてやりました、物凄く痛いんですよ
妖夢なんか頭を押さえて小さくなってるよ

「今のはマジで危ない・・・・・・・・みょん」

「気絶するなら朝飯作ってからにしろよ、でないと性的な意味で食べるぞ」

「サッ」

はやっ！！速攻起き上がって台所に向かったよ、そこまで嫌か
お姉さんは悲しいぞ、悲しすぎて眠りそうだ
・・・・・・・・さて、着替えて飯食お

「で、今日帰るのですよね？」

「そうだけど」

「なら少しだけ手合わせを」

「却下」

面倒臭いし朝からなんて嫌だね、かつたるいし

それに昨日やったじゃん、卑怯だけど手合わせしたじゃん、それで勘弁して下さい

正直言うとやる気の問題なのよね

「問答無用です、庭で待ってますから」

「幽々子さ〜ん、助けてくださ〜い」

「私は見てみたいわ〜、妖夢と熊狸の手合わせ」

畜生！！結局妖夢と切りあうのかよ、誰だ俺の運命を操作したのはそれとも最初っからこんな運命だったのか？認めないぞ、俺はこんな運命認めないからな！！！！

って愚痴っても仕方ないから庭に出るか

「出て来ましたね、それでは・・・いきます！！」

「いきなりだけど動き止めさせて貰うわ・・・反結界」

「なっ・・・身体が」

反結界、簡単に言えば相手を攻撃不可能な結界に閉じ込める術式だ
魔術書に書かれてる魔法を逆算すれば対処出来るように術式も逆算
すれば相手に使う事も出来る

ただ精密な操作と細かく術式を操らなければならないから物凄く疲
れる

「私に切れるものなどあまりない！！！！」

「おお、意外に脆いな。改良する点はまだ沢山あるな」

「はあ、はあ・・・本気を出して漸く切れた、なんで最近術式を覚えた人がこんな強力な結界を作れるんですか」

「そりゃ、初めてが最悪だったからね」

いや、簡単そうに作者が描写してるけどあの後大変だったから

魔理沙は追い返せないし、結界は割れるし

パチュリーには図書館で爆音だして怒られるし、レミリアには運命通りなら絶対術式を操れないと言われるし

「とりあえず、物凄く努力した結果です！！」

「守矢の巫女みたいな口調で言わないで下さい！！」

「あぶつ、アイツは正式には巫女じゃないだろ！！確かに霊夢より巫女らしいけど」

会話しながらだと余計力使うな、妖夢は本気で切りかかってくるしさ
そんなに俺の事嫌いか、こんなに女らしさの欠片もないのにとりあえず、弾幕撃つところ

「ほいっと」

「ちょ、殆ど逃げ場がないじゃないですか！！」

「一応通れる場所はあるだろ、てか自機狙いだけ避ければ簡単だろ」

「それもそうですね、では私からも」

さて妖夢が切りかかる前に移動しますか

素早い移動なんて出来やしません、だから死角に移動して逃げます

壊符「消え行く果てに」、これで自分を死角に移動させる事が出来れば終わるんだけど

そう簡単に同じ手を受けてくれないわな、毎回土壇場で新しいスペカ作ってたらアレだし

なんとかさっさと決める方法ないかねえ、向こうは構えたまんま動かないしこっちから動くしかないやな

「っと、殺気まで出し始めますか・・・もう手合わせじゃないじゃん」

「待たせ過ぎです、スペル使用不可のルールを追加しますね。互いの実力のみで戦いましょう（ニコッ）」

「笑顔でどキツイ事言っな！！スペカ使わないと俺に勝ち目ないじゃないか！！」

「問答無用！！！！」

ウハッ、抜刀術の構えだよ

そういや昨日るる剣の単行本見付けたな、まさか妖夢が参考にしようと思ったなんて思ってたよ

まあ、パクするような真似はしないと思うからさっさと仕掛けないとヤバイよな

「はやっ！！今までそんな動きしたことなかったですよね！！」

「るせ、抜刀術使われる前に終わらしたいんだよ」

「だからって地面蹴って素早くこないで下さいよ、しかもギリギリ短刀を抜いてくるなんてそれこそ例の抜刀術を使う人じゃないですか」

「牙突零式が宜しかったか」

「そういう問題ではなくて「妖夢」、お菓子持ってきてくれない？」・・・はい」

ふう、

朝からハードな事やらされたな

幽々子さんが終わらせてくれたから良かったけど、もし幽々子さんが終わらせてくれなかったら俺を倒すまで終わらないとか言いそうだな

取り敢えず紫がくるまでゆっくりしところかな

「って思った矢先に来やがる八雲紫さんでした」

「高速道路の中心に落とすわよ」

「調子こいてました、だからさっさとフ란の元に帰せ」

「全然反省してないわね、まあいいわそれじゃ早速・・・さようなら」

確かにフ란の元に帰せとは言ったけどさ、なんで紅魔館の天井近

くにスキマを開く事はないよな

しかも下でレミリアと咲夜が待ち構えているし、両手を広げてなんて優しい迎え方じゃなくてグングニルとナイフを手に持ってますあれ？私なんかした？何もしてないよね、でもナイフとグングニルが待ってます

諦めましょう、皆さんさようなら

次回からフ란の楽しい解体術をお楽しみに

「ぐふっ！！！」

「「お帰りなさい」」

「ただいま、そしていきなりなにしゃがる」

「「別に」」

冷たい！！二人が冷たすぎる！！なんで！？なんでこんなに冷たく扱われてるの、まだ紅魔館の住人に危害を加えてないよ
なのにこの仕打ち、部屋で寝てくるよ

「一応俺の部屋だよな？なのになんでこんなに真赤なのかな？フランちゃん」

「えーと、ユウリが居なくて寂しくて・・・お姉さまが連れてきた外の人間をこの部屋でキュツとしてドカーンしたら、何時の間にか・・・」

「OHANASSIと四肢を引き裂いた後口に放り込まれるの、どっちがいい？」

「どっちもいや……」

フランの目に涙が溜まってきてます、それと震えてます
多分爽やかな笑顔になってんだろっな、でもだからってやめたりし
ませんよ

これは人の部屋を血で真赤に染めた罰だからね、別に八つ当たりで
はないよ

「どっちが良い？それとも……目玉抉って食べさせてあげよう
か？」

「イヤアアアアアア！！！！！！！！！！」

「フラン！！いったい何が……」

妹の叫び声を聞いて飛んできたレミリア、だが目の前には……

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさい（以下略）」

「なにこれ」

「人の部屋を血で真赤に染めた罰を提案したらこうなった」

「提案した罰は？」

「OHANASIが四肢を引き裂いて口に放り込まれるか目玉を抉
って食べさせられるか、だけど？」

「悪魔だ！！ここに悪魔がいるわ！！咲夜、悪魔狩りよ！！」

酷いなあ、相手が吸血鬼だから言ってるのに

人間だったら・・・精々暗い部屋で血の滴る音と悲鳴を三日間聞かせるぐらいかな

うん、なんか「悪魔でしかないな」って言葉が聞こえた気がするけど気のせいだな

んで呼ばれた咲夜は部屋とフランを見てUターンしました、流石に恐ろしいわな

鉄臭い部屋で謝る吸血鬼と謝れてる悪魔って珍しい上に恐怖しか生まれないな、レミリアはおろおろしてるし

「フラン、もう絶対にしないって言うなら罰は無しにしてあげるけど？」

「魔王へブリゾに誓って、いやロードオブナイトメアに誓って絶対にしません！！！」

「よろしい」

フランが物凄い人物に誓ったからもうしないだろ、てかなぜ知っている

まさか香霖堂に売ってたのを買ったのか！？確かにテレビとビデオデッキがあれば見れるけどさ

「頭痛くなって来たわね、咲夜紅茶」

「部屋に戻ってからにしてください」

咲夜とレミリアが自分の部屋に戻った後、俺は血を落としてましたベッドはどうにもならないから紫に頼みました、代わりに一度自分

の世界に戻って生存報告してこいと

悪魔で人間、てかもう悪魔です（後書き）

妖夢との手合わせは途中で思い浮かばなくなってあんな結果に、やっぱり平和で良いよ

それとフランのお仕置きですが、あれはユウリがマジで考えた事ですユウリ「待て待てまでゐ、まだ説明になつたらんところがあるだろ」咲夜とレミリアのはただの嫉妬です、たった数日でフランをあそこまでさせたユウリが憎いんです

レミリア「大丈夫よ、どうせ熊狸は近い時期に不幸な目に合うのだから」

ネタバレすんな!!!!

読者の皆さんに少し聞きたいのですが、レミリアが言っている不幸な目を本編か特別編、どちらにしたらいいでしょうか？

本編にした場合はユウリが少しの間可愛く(?) なります

特別編にした場合は、レミリアの見た運命の一つだと言う事にします

レミリア「因みに期限は作者の都合で今月中よ、よろしく頼むわね」

少女がみた悪夢（前書き）

今回色々頑張りました、作者の厨二病も少々発揮してます

少女がみた悪夢

久しぶりに帰ってきたよ、我が家に

1週間はこっちに帰っておけとか言ってたから戻って来たけど、なんか見た目変わってない？

余計ボロくなってるし、それに胸騒ぎもするし

まず中に入ってからだな・・・確か外は昼だったよな、なのになんで日の光が入ってないんだ？

縁側も夜みたいに暗いし、不気味すぎる

まるで何か変な生き物に襲われたような・・・

そこで俺は一瞬思考が吹き飛んだ、何故なら目の前に死体があるのだから

一人は腸を抉り出され、もう一人は上半身と下半身と四肢を引き裂かれていた

地獄絵図、それが一番合う言葉だ

まさかとは思い部屋の中を見た

いつもは和風の部屋なのに今は真赤だ、鉄臭さが部屋に充満している中にも死体はあった、四肢がなかったり頭がなかったりとまるで食散らかした後のようだ

それから、全ての部屋を回ったが殆ど赤かった

「あれ？まだ人間が残ってたの？」

「死ね」

急に目の前に現れた異形の、いや妖怪に短刀を刺す
これでは死にはしないが怯ます事ぐらいできる、既に下げようのな

い感情が込み上げてきている

殺意、悲しみ、怒り、他にも沢山込み上げてきている

「人間の癖に私に傷を、絶対許さない」

「なら・・・・・・・・ならどうすル？」

「殺すよ、肉も残さずに」

「そう力、だったら俺は・・・・・・・・イキテイルコトヲコウカイサセテヤル」

今の熊狸には感情を抑える事も出来ない、一番大切な物を失い、多くの親しい者も失った、1人の少女には全て重すぎた

「図に乗るな!!」

「オマエガナ」

妖怪が牙を向け熊狸に食らいつく、だが熊狸はその牙をへし折る
人の力ではあり得ない事をいとも簡単に行う、折った牙を妖怪の口に刺し込む

彼女の背中からは薄く黒い羽が生え、目は血のように赤く染まっている

ただ壊すだけ、自分の帰る居場所を消した者を恐怖に陥れ壊す
ただその思いだけが感情として残っている、消そうにも消せない感情だけが

「マダオワラナイ」

腕を短刀で切り捨てる、相手が叫ぼうが耳に届いていない
そして次に目を抉り潰す、血で真赤になった手を舐め笑う

「アハッ♪ツギハドウヤツテ鳴いてクレル？」

「ひっ……誰か、助けて……お願い」

「コナイ♪キコエナイ♪トドカナイ♪人形ハナニも、喋らナイ」

助けを求めても誰もこない、そんな事はわかってても必死に助けを
求め謝る

だが許す気も見逃す気もない熊狸は更に妖怪を痛めつける、狂った
少女の笑い声と悲鳴と叫び声だけが響く
外には聞こえる訳がない、悪魔と妖怪の声など

くそして数時間が経ち日も落ちた頃にく

「あ………あ………」

「もう壊れちゃえ」

飽きた顔をしながら妖怪の核を踏み潰す

グシャっという音と共に妖怪の息の根は止まり消えた、残ったのは
血の色に染まった家と熊狸だけだった

幻想に生きるか1人で生きるか、残された道は2つだけ

「………雨でも降れば、な」

「誰にも見られたくないなら私のスキマを貸すわよ、その間外に出
ておくわ」

「いつから見えた、それとも最初っからか？」

「ごめんなさいね、貴女には悪いけどこれも一応八雲の勤めだから」

最初っからか、賢者の勤めなら仕方ないな

多分あのキメラっぽい妖怪は偶然だろ、偶然が偶然を呼び必然に変わったってどこか

「紫、スキマ貸して」

「終わったら出て来てね……入ったわね、それにしても改めて見ると凄い事になってるわね。この家の敷地内殆どが血に塗られて……それほど大事だった訳よね、貴女にとってここは一番大切な場所だから」

普段の彼女は何を考えてるか分からないけど、今の彼女はただの少女そのもの

人前で涙を流さないよう強がり傷付いていく、多分私が彼女を見てなければ最悪の道を通る可能性もあった

人は情報に流されそれを信じる、この状況を見た人は多分彼女が家の者を殺したと言うでしょうね

妖怪なんておとぎ話に近い者、幾ら真実を口に出しても誰も信じないかもしれないわね

仮に信じてもらえても、被害がその人にまで行くだけで結果は変わらない

「ならいつそ、お望み通り殺人鬼になってなろうじゃないか……
・ってか？」

「終わったなら終わったって言って欲しいわね、で貴女はこれから幻想郷に“だけ”存在する？それとも幻想郷“にも”存在する？」

「幻想郷に“しか”存在出来ないだろ、残れば大量殺人の犯人、両方にすれば幻想郷の存在がバレる可能性もある、今の世でも陰陽師に近い奴等はいるんだからな」

「そう、それじゃ貴女の事を知っている人間の記憶の境界を操って消すわよ」

「ああ」

種族人間としての虎狼熊狸じゃなくて種族悪魔として一生生きるつもりか、貴女らしいわね

「貴女は先に帰ってなさい、それと今日は私の家に泊まっというてね。藍にはちゃんと伝えておくから」

「うん、それじゃ……………それと……………うん／＼（ボソ）」

スキマに入りながら何か呟いたみたいだけど、ちゃんと聞こえているわよ

顔を赤めながら小さな声で礼を言うなんて可愛いわね、あまり言った事ないから恥ずかしいのかしらね

さて、さつさと終わらして帰ろうかしらね
それにしても熊狸の口調がいつもと違ってたわね、精神的なものかしら

く八雲家く

「風呂は沸かしてあるから入ってきてくれ、話しはそれからだ」

「わかった」

いくら強がっても無駄だよな、いつもみたいにふざけてられる気分にもなれないし

我慢したって、流れる物は流れるよね

人前で泣かずとも、涙が枯れる事はないし

やっぱり自分と親しい人がいっぺんにいなくなると我慢出来ないか

「・・・うう、っ」

「理由は紫様から聞くしかないか、あんな状態の人物から話を聞くんなんて私には出来ない」

早く戻ってきて下さいよ、さすがに私達だけでは無理な気がしますから

そう思った自分を後悔した、彼女が風呂から出た後私が案内した部屋に籠ってしまった

ハッキリ言って身がもたない、部屋からは「かゝごめゝかゝごめゝ、かゝごのなゝかのとゝりゝはゝ．．．．」

ほらまた、さつきからずつと低音で歌っている

このままでは私がどうにかなってしまふ、紫様早く帰ってこーい

「ただいまつと、つて藍なんで目を輝かしているのよ」

「早く帰ってきて欲しかったからです、原因はその部屋に耳を傾ければわかります」

「．．．．．鬱になりそうね」

「ずっとあの調子なんです、どうにかしろ」

（紫sida）

藍がとうとう命令口調になっちゃったわね

それほど参っているのかしら、まあカゴメカゴメを低音で歌われたらさすがに参るか

なんとかして機嫌を直させないと八雲家全員が鬱になりかねないわね

「あの、熊狸さん？少し伝えたい事があるのだけれど．．．」

「なに」

「あなたに関係のある人物から記憶の境界を弄るんじゃない、あなたが住んでた家に人が住んでいたって言う記憶を弄ったから．．」

「でもたくさん死んだのには変わりはない」

いつもの彼女じゃないからやりづらい！！いつもみたいに「んな事
しなくて良かったのによ」とか言ってくれたらどれだけ楽か
とりあえず頑張るのよ私、粘ればどうにかなるわ

「確かにそうだけど、あなたの家族全てが死んだ訳じゃないでしょ
？」

「……うん」

「な少しは元気出さない」

「紫……、藍呼んで部屋に入れて」

何をする気かしらね、まあいいわ

とりあえず藍を呼んで熊狸の部屋に入れたら分かるわよね、多分変
な事はしないだろうから
というより出来ないわよね

「藍、熊狸が呼んでるわよ。橙は私と一緒に少し席を外すわよ」

「紫様、橙に変な事したら許しませんからね」

「しないから早く入ってあげなさい」

彼女が藍を指名したんだから意味があるはずよね、私と橙は遠くか
らスキマで覗こうかしら

「来たはいいが、いったい何で私なんだ？別に紫様でも良かったんじゃない」

「紫だと無理、それよりもうちよつと近付いて」

「？まあいいが、っていきなり抱き着いてどうしたんだ？」

「似てる、母さんに」

そういう事か、確か彼女は既に母親がいなかったな

だから甘える事も少なくなり自分で抑えてた訳か、だけど今回またいな出来事が起こってしまってタガが外れてしまい更に殻を閉じかけてしまっているのか

「胸、貸して」

「ああ、今だけだから」

力強く私の服を握りしめ胸に顔を沈める、小さくだが鳴き声が聞こえる

まだ辛いのだろう、不幸な事故とはいえ人でなくなり、更に親しい者を一気に多く失った

普通の人間ならば精神が崩壊していてもおかしくない状態なのに彼女は平気そうに振る舞い、本当の気持ちを隠し続けてた

誰にも知られたくないがためにずっと涙を流さずに我慢していたのだろう

今の彼女はそれらが一気に降りかかってきた状態、儚く脆い普通の人間の少女だ

藍はいつの間にか彼女を優しく抱いていた、その様子はまるで母親のようだったとか

少女がみた悪夢（後書き）

藍はユウリがお風呂に入っている間に紫から簡単な説明しかされてません

紫「それより熊狸はずっとあのままなのかしら？」

いや、一応元に戻る予定だよ

紫「そう、でキメラ妖怪を殺してる時だけ。スペル使わずに悪魔化してたわよね？」

ユウリは物語に出てくるような悪魔でスペル使って悪魔化した時は敵意を示している相手しか攻撃しないけど、今回みたいに狂気に飲まれて悪魔化した場合は壊す事だけを意識して殺します

紫「……つまりレミリアの妹以上に危険ってわけね」

そう、それに能力では下げきれないほどの殺意と怒りが込み上げてこなければ狂気に飲まれたりはしません

紫「ならいいわ、それともう一つ。熊狸の家の周りだけ暗かったのはいつたい」あのキメラ妖怪は外の世界の人間の欲望から生まれた妖怪だから、それでだよ

紫「そう、わかったわ。で話しは変わるけど」
にや？

紫「藍があの子の母親に似てるって言うのはどういう意味かしら」
性格とかが似てるのよ、ユウリの父親と叔父は甘える事をあまり許さない人だったから

紫「で、藍がああなったと」

うん、ああいうポジションは藍様ぐらいしか思い浮かばなかったのよ
それに八雲家に視点を当ててる時じゃないと出せないし、橙ファンと藍様ファンの方すいません

紫「藍のキャラが違ってたりするかも知れないわね、今更だけど」
んな事言ったら次回のある人出せないよ、キャラが壊れてんのに
紫「久々の出番よね」

そうだね、じゃ締めて

紫「感想やお便りなど待ってるわね、それじゃ」

誰？この可愛い子（前書き）

魔理沙が壊れてます、霊夢の口調がOTL

誰？この可愛い子

紅魔館に行ってみたけどいつもの変態がないのよね、いたら鬱陶しいけどいなければいけないでまたなんか物足りない気分になるし
こいう時にはアイツでも探して居場所を聞き出せば良いよね、答えは聞いてない

前熊狸が使ってたから言ってみたけどこれは私より魔理沙向きね

探して十分で見付けれたわ、私が少しふざけて「ゆかりんゆかりん」
って腕を上下に振ったら現れた

なんて言うか、あんたそれで良いのか？って言いたい気分なんだけど

「で、熊狸の居場所を知りたいから私を呼んだわけね」

「そうよ、結界の一部が十秒くらい壊れたまんまだったから外の世界になんか影響が出てるんじゃないかって思ってたね」

「既に終わったわよ色々、今熊狸は私の家にいるわ。来たいなら来なさい、だけど今は霊夢の知ってる熊狸じゃないかも知れないわよ？」

そう言つてスキマに入つてったけど、紫の家になんてねえ
アイツも物好きね・・・、まあ私も紫のところに行くけど

「あら、やっぱり来たのね」

「悪い？」

「いいや、というより来て欲しかったわよ」

どういう意味よ、アイツの対応にそこまで困るような事はないし
毎回変な事言つて困らせるぐらいしか印象がないんだけど、つてい
うか紅魔館の奴らもそんな印象しかないんじゃないの？

「理由は藍が案内する部屋を覗けばわかるわ」

「あゝこつちだ、着いてこい」

投げやりな感じね、とりあえず着いて行けばある程度わかるか
で、部屋の前に案内された後すぐ帰って行っただけ

そこまで危険なの？確かに性的な意味じゃS級危険生物だけど、今
はそんな雰囲気はないし

開ければ分かるわね……

何あれ、アレが熊狸？いやいや絶対に違つてしょ、だつて

「えゝと、あんた……虎狼熊狸？」

「そう、ただどなに？なんかよう？」

「ようつて訳じゃないけど、紅魔館の……特にフランドールがあん
たに会いたがつてるのよ」

「そう」

（。A）……………はい？

おかしすぎる！！普段の熊狸なら「フランを押し倒す時が来たー！
ー！」とか言つて紅魔館に走つていたりするのに、なにこの冷め
た感想

異変？ある意味異変に近い状態よ、まあとりあえず紫から聞き出すか

ゴスッ！バスッ！ドスッ！ゴスッ！ゴスッ！グフッ！！

「霊夢……私は熊狸がああなった原因じゃ、ない……」

「あつそう、で原因はなに？」

「実は……（前回参照）という事なのよ」

「そのキメラみたいな妖怪が熊狸の家族の大半を食らっていて、それを見た熊狸は狂気に飲まれながらその妖怪を殺したは良いけど、未だに傷は癒えてないって訳？」

「簡単に説明するとそうなるわね、それと今の彼女の状態だけど。少し前、あまり人の暖かさとかに触れてない時代の精神状態よ」

「やっぱり熊狸も普通の人間ね、でも気持ちは分からないでもないわね。私だって親しい人達が一気に沢山いなくなったらああなりそうだし」

「それで私にあの状態の熊狸をどうにかしてくれって訳ね」

「そうなのよ、このままじゃ色んな意味で危ないでしょ？」

「確かに、外の世界でいうクーデレ？っぽい感じだしね」

「……霊夢、あなた熊狸に毒されてない？」

突っ込んで欲しくないところを、時々紅魔館に行ったりした時に熊狸が使うもんだから私も覚えてしまったのよ

そっぴやこの間魔理沙が「アリスはツンデレって熊狸が言ってたけ

どどういう意味だ？」って私に聞いて来たけど、なんで私に聞いたのかしら

そんな事より今は熊狸ね、なんかして元に戻さないといけないんだけどどうやったら戻るのよ

「紫、あんたの能力でどうにか出来ないの？」

「無理よ、昨日やってみただけど妨害されたわ。意識が強すぎる相手には私の能力も無駄って事が分からされたわ」

「こっついう時は・・・」

「それで私っていうのは少しおかしい気がするぜ」

「「頼んだわよ魔理沙」」

はあ全く、紫に無理矢理連れてこられた結界がこれか
少し覗いたけどあれはあれで良いと思うんだけどなあ、でも紫と霊夢は嫌らしい
まあとりあえず頑張るけどさ

「なあ、いつもの調子に戻ってくれないか？」

「今は無理、精神ダメージ大きすぎるもん」

「霊夢！！紫！！連れて帰っていいか？」

物凄く守ってやりたい、というかもう愛でたい

私が抱き寄せたせいで苦しんでるけど関係ないぜ、私の目には熊狸の頭に垂れた犬耳が見える

可愛い、これがギャップ萌えてやつか？熊狸が言ってた事が今ならわかるな

普段強がつてるやつが弱味を見せると物凄く可愛く見えるって言われてたけど、正にこれだぜ

「魔理・・・沙、くる・・・」

「うわ！！すまねえ熊狸」

「魔理沙、紅魔館のメイドみたいになってるわよ」

マジか・・・本当だ

熊狸の服が所々赤黒くなってやがる、そして熊狸がプルプル震えているのはなんでだ？

「今は・・・血は、見たくない」

？なんかトラウマでも・・・いつの間に居間に移動したんだ、って紫か

スキマを使って私を呼び戻したのか、でもなんで

「あんたねえ、精神状態が不安定だって言っただでしょ」

「いや、私はとりあえずなんとかしてくれって言われただけなんだけど・・・」

「つべこべ言わない！！とりあえず今の熊狸がどうなってるか教え

てあげるから有り難く聞きなさい」

少女説明中

「・・・という事よわかった？分からないって言うなら夢想封印よ」

「いや、大方わかったけどさ。それは時間の流れに任せるか、外の世界で家族以外に親しい人物を誰かが誘く・・・じゃなくていつもみたいに連れてくれば良いんじゃないか？」

「それがあつたか！！！」

気付けよ！！熊狸がたまーにバカと呼んでいる人物がいるだろ、いや私もさっきまで忘れてたけどさ

そして紫が「ちよつと熊狸と一番親しそうな人間見付けて連れて来る」って言うてスキマに入ってたな

さて、私は熊狸を少し愛でて帰るか

誰？この可愛い子（後書き）

魔理沙が落ちた、霊夢がネタに染まった

熊狸のギャップが物凄い、そして次回一話の最初の方に出た彼が！？

魔理沙「私が変態みたいだぜ・・・」

咲夜「私はそんなに鼻血を流したりはしません」

おぜう様の寝顔みて鼻にティッシュを詰めてる方が何を言ってるの
だか

霊夢と魔理沙と美鈴とフランが少し染まってます

魔理沙「で熊狸だけど、何時まであの状態なんだ？」

次回の最初の方までだから大丈夫
さて、最近話す事がないんだけど

咲夜「ツツコミもないしね」

魔理沙「作者が暴走した時は何時も熊狸が止めてたな」

後書きは尺稼ぎとメタの倉庫だから暴走したって良いのよ、頭の中
はずっとリリーがいるんだからさ

二人「だからアホなのか」

うるさい、今回は咲夜締めて

咲夜「感想やお便り等、他色々も待ってます。それではまた次回お
会いしましょう」

熊狸復活、そしてバカ登場（前書き）

最近視点変更多いけど。。サイドとか書いた方が良いですか？

それと新キャラの名前、また妙に変な名前になりました

熊狸復活、そしてバカ登場

やあみんな、一話にちよろっとしか出番がなかった熊狸の大親友（自称）だよ

さて素に戻るうか、今俺がどうなってるか簡単に説明しよう
しなくていいとか言わないでくれよ、最近姉が海外へ留学したおかげで1人なのよ

だから寂しいの、話を聞いて欲しいの
話がそれたけど簡単に説明すると

熊狸が消えた↓よし探せ↓赤い家が現れた？↓現在捜索中
以上です、んで疑問に思う事があるんだけど言って良い？
なんで熊狸の家族（893）が極端に少なくなってたんだ？
なんか二十はいたような気がするんだけど、気のせいかな？

「気のせいじゃないわよ」

「・・・ゆかりんがなぜこんなところに？」

「話しは後にして、ちょっと来て頂戴ね」

はい？まさかとは思うけど幻想入りフラグですか、っしや腋巫女や
白黒に会えるぜ！！

そんな事を考えてた時代が俺にもありました、先に熊狸が幻想入り
してたつてどゆことよ！！

色々事情聞いた後幻想入りを決意しますた、理由は簡単

フランちゃんときゃっきゃうふふしたい！！霊夢の腋を拝みたい！

！類は友を呼ぶ！！

欲望に忠実なんだよ、百合と変態は同類なのさ

「妄想してるとこ悪いけど、逝ってらっしゃい」

「やっぱ落とすのかああああ・・・」

ゆかりんって時々過激な事を人間相手にするよね、まあいいけどさ
んで神社で待機してた霊夢に連れられて八雲家に来ました、うん藍
様の尻尾をもふもふしたかった感想はそれだけ
そしてやたら騒がしい部屋が一つ、聞き覚えのある声と誰かの声が
聞こえるんだけど

え？魔理沙と熊狸がユリユリしてる？よっしゃあ！！ちよつくら乱
入してくるわ！！！！

「俺も混ぜろー！！！！」

「誰だ？・・・ああ、紫が連れてきた人間か」

「バカが来た・・・・・・・・・・チツ」

歓迎されてないんだけど、魔理沙が熊狸を膝の上に座らせて頭を撫
でてるんだけど

いったい何事だ？って幻想郷の住人は変態百合女、つまり今の熊狸
しか見てなかったからか

俺はまだ女の子だった頃に知ったから懐かしいなあ、としか感じな
いけど魔理沙からしたら

「なにこの守ってやりたい小動物（？）は」っていうような気持ち
なんだろうな

「魔理沙、いい加減離れなさい。熊狸も目を細めない、あんたの為
にそこの人間呼んだんだから」

「頭痛が・・・」

「わざとらしいからやめい、変態百合女」

「・・・ロリコン趣味の性犯罪者予備軍」

変わってないじゃねえか、まんま虎狼熊狸じゃねえか
人をバカ呼ばわりするところとかぜんっぜん変わってねえな、毎度
お決まりの口喧嘩開始か？ええ

「ロリコンはお前もだろ（笑）」

「シスコンにロリコンを兼ね備えてないから誰かよりマシ」

「サボリ魔」

「バカには分からない事やってるから大丈夫」

「胸なし」

「死ね巨乳派」

こ・い・つ・は、落ち込んでるから慰めてやろうかと思ってたのに
ヤメだ

「なあ霊夢？あの二人の仲はどうなってんだ？」

「私と魔理沙か紫みたいな関係じゃないの？正直興味ないし」

「それより止めたらいい加減？暴言の吐き合いになってるわよ」

「そうね、だんだんウザくなってきたし・・・夢想封印！！」

確かに止めるとは言ったけど夢想封印はどうかと思うわよ？一応私の家なんだから

それであの二人は・・・熊狸は無傷ね、男の方は黒焦げだけどとりあえずこれで熊狸が何時もの調子に戻ってくれば良いのだけれど

「いきなりなにすんだ、自分に結界張れないのによ」

「結界使えるのに自分に使えないとかwww」

「やっぱり死ね」

やっぱりウザイ、まあ無視すりゃ消えるだろうから無視しよ

「元に戻った？」

「バッチリ戻った、だから魔理沙撫でて・・・／／」

「オーケー（なでなで）」

気持ちいいのよ、撫でテクあるんじゃない？

霊夢が「また目を細めて」とか言ってるけど気にしな―い

「なあ、あれ誰だ？俺が知ってる熊狸はツン９９％デレ１％なんだけど」

「私もよ、レミリアの妹とかにはデレたりしてるけどあそこまでののは初めてね」

「熊狸、お前の家に案内してくれ」

はい？レミリアに会わせると？

こいつは死にたいのか、博麗神社に住んでりやいいものを

「それじゃ帰らすわよ、遺言はないわよね？答えは聞いてない」

「ちょｗｗｗリユウタじゃん」

スキマ送り二名様ご案内、もう焦ったりしないぞ

三回目だし、でもまあ初めてだとお約束みたいに叫んだりするんだよな

つまり、バカも例外なく

「またかよおおお・・・」

という風に叫ぶ、んで着いた場所は紅魔館である

うん、いつもと変わらず美鈴は寝てるな

「紅魔館じゃん！！なに？お前ここに住んでんの！！羨ましい！！」

「五月蠅い騒ぐな美鈴の胸に手をやるな」

騒ぐバカを黙らせて進む、館内に入って速攻吸血鬼が飛んできた
フランだよな、これでレミリアだったら鼻血だすぞ

冗談抜きでな、まあそれはなくフランちゃんです

「ユウリお帰りー、で後ろの人間誰？彼氏？」

「脳味噌抜かれない？それとも前に提案したお仕置き実行しようか？」

「すみませんでした！！！貴女にはもっと美しい女性が合います！！！！」

「調教したのか」

失敬な、調教じゃなくて質問しただけだ
フランはなぜか俺に懐いているだけで決して脅したり調教したりはしてないぞ、そんな事するのはスキマか霊夢ぐらいだ

「でそれ誰？」

「変態の巨乳好きなバカ」

「咲夜に刺されない？」

まあ流石に本人目の前にPAD長なんて言わないだろ、てかこいつ

は能力とか持ってたのか？

持ってたなかったら速攻追い出して、博麗神社に連れてこ

「ねえねえ、そのバカと遊んで良い？」

「まずは能力ないかどうかみてからなく、てなわけで覚悟しろよ」

「え、能力あるかみてくれんの？サンキュー」

やっぱりコイツバカだ、目の前に吸血鬼と悪魔いんのに緊張感のくそもない

まあ相手をするだけ無駄だしさっさと見てやるか、神様どうかありませんように

パンー！良い音が響いた、バカの手をしばいた音ですよ
痛がつてるけど無視、さて能力は・・・

「つぎけんな！！！！おい紫！！紫ババア出てこい！！聞きてえ事がある！！」

「なによ・・・なんでしょうか」

「アレの境界弄ったか？またはスキマ送りしている最中に何かしたか？」

「・・・・・・・・・・してないわ（ヒュッ）・・・しました、つい出来心なの！！面白そうだったからやっちゃったの！！」

ふふふ、出来心で人の種族まで変えるなよ

とりあえずキョトンとしてるバカに教えるか、物凄く伝えたくない

けど

紫には帰ってもらいました、さっきのヒュッっていう音だけどあれは短刀を投げた音ですよ

「先に言つとくわ、騒ぐな驚くな舞い上がるな」

「能力あるんだよな？」

「まず一つ、種族が人間から中悪魔ぐらいになった。二つ目、能力はある能力名は透視する程度の能力」

「小悪魔とのフラグk t k r」

ウゼエ、ここいらで下げとくか

コイツのテンションを下げるのに能力なんて使わなくてもいけるだろ、バカだし

「一応俺の事書いてるからこれ読め、それと能力は嘘だ。実際は魔術を扱う程度だ」

「なになに・・・」「紅魔館に住んでいる外来人、虎狼熊狸さんに突撃取材！？種族が人間から悪魔になり能力は感情を操る程度、これでも十分だというのになんと！！彼女は新しい力を使えるようになってました、結界を作れるようになったんです！！」・・・なにこれ」

「そのまま、それじゃレミリアのところに行くぞ。フランも来るか？」

「いくー」

ああ可愛いなあ、バカが絶望してるけどそれを引き摺ってレミリアの部屋に行く

途中咲夜にゴミはゴミ箱に捨てて下さいとか言われたな、言われた本人は涙流しながら人間（？）ですとか言ってたな

まあんな事俺には関係ないからさっさとレミリアのところに向かうけど

「入るぞ、新住人連れてきたぞ」

「そう、それじゃ貴女はフランと遊んでてちょうだい」

という事らしいからフランを連れて地下で運動でもしてくるか、結界以外に術式を作れないか試してみたいしな

熊狸がフランを連れて部屋から出ていった、現在部屋には俺とレミリアだけです

正直怖い、カリスマ出してるお嬢様がこっちを睨んでいるんだぜ？熊狸の家族の皆さんに鍛えられてても怖い

流石吸血鬼、視線を変えたら後ろからザクツてされそうで怖い

「あなた名前は？まさかバカっていう名前じゃないわよね？」

「違うわい！！又薙^{さなぎ}憂^{ゆう}牙^がっちゅう名前がありわい・・・」

「サナギね、覚えておくわ」

サナギじゃなくて又薙です、さーなぎです

熊狸はバカバカ言うし、レミリアにはサナギ呼ばわりされるしもう倒れて良い？

「あなたはここに住みたいのよね？それはなぜなの？」

「幻想入りしたら紅魔館に住むと前から決めてました」

「紫が連れてくる人間は面白いのばかりね、良いわ住みたいなら住みなさい」

あれ？案外すんなりOKもらった、やっぱりお嬢様も退屈なのかね

「という事で同じ部屋だけどよろしく」

「よろしくじゃねえー！！！！男女同じ部屋って色んな意味でヤバいだろ！！特に13と18とかさ！！」

「女にしか興味ない奴が何を・・・だいたい俺だって美鈴とか

咲夜さんの方が良かったのになんで・・・」

という訳で外来組は同じ部屋になってしまいました、異性同士が同じ部屋に毎日寝泊まり

エロゲ的展開はない！！人の風呂上がり見て「ホント胸ないな」しか感想なかった男だからなコイツは！！

「それにしても広い部屋だな」

「咲夜に頼んだ、変な事されないよう広くしてって」

「俺は貧乳に興味はない！！」

頭痛に悩まされそうだ、もう寝よ

ベッドは別になってるからな、期待はするなよ
んじゃお休みなさーいっと

熊狸復活、そしてバカ登場（後書き）

新キャラ登場、又薙憂牙くんです

後書きではユウガと片仮名表記します、それと彼の元も作者です
ユウリより彼の方が作者に近いですから、ユウリはどちらかという
と妄想彼女かも

「仕方ないな、私が手伝ってやるよ」とか言われないですねえ

熊狸「さつさと進めろ、憂牙との関係とか魔理沙との事とか」

ハイハイ、少しはデレたりしてよ・・・

又薙憂牙との関係は幼馴染みみたいな関係に近いです、ある程度互
いの事をわかってるし恋愛感情とかありません

時折憂牙が泊まらされたりしてますが、それに下着姿見られても恥
ずかしがったりしないし

一応裸は恥ずかしいらしいです、まその内書くかも知れませんが
魔理沙「で次に熊狸の頭を撫でてた理由だけど、撫でてる内に熊狸
が可愛くなってくるんだ。こう、懐かなかった猫がだんだん甘えて
くるような感覚が、な」

生存の会長をイメージしたら簡単かも、撫でられてる時だけだけど
さて紅魔館の悪魔が三人に増えた訳だけど、ユウガはそこまで悪魔
化しません

使う魔術も二次元が多いですし、オリジナルは厨二脳全開です

まあ普段はネタキャラなんで見せ場があればカッコよくなると思っ
ますよ？あればですが

熊狸「それじゃ終わるぞ、それと今更だがキャラ崩壊が酷かったり
原作に触れてないのは気にするな。それじゃまた次回」

幼女化、壊れてた二人（前書き）

サブタイに深い意味はありません、それと毎度の事です。がグダグダです

あと魔理沙が大変な事になってます

↓警告↓

とうとう実行されました（↑何が

幼女化、壊れてた二人

はい、皆さんこんばんは

虎狼熊狸です、現在部屋から出れません

何故かって言うと、憂牙のバカの寝相と寝惚け癖を忘れてたからですよ

まず寝惚け癖から説明すると、歩いて近くの人の布団に潜り込むという迷惑としか言えない癖です

次に寝相だけど、抱き枕を抱いて寝てるせいか自分より小さいサイズの何かに抱きついてきます

これだけで分かると思うけど

「思いつきり抱きつかれてます、しかも力入れてるからなかなか抜け出せない」

助けて、咲夜、犯される

まあ来るわけないけどね、だってあれから二三日経ってるしで、忘れてた理由だけど

野郎に抱き付かれて危機感を感じなかったせいだ、我ながら情けないじゃあなんで今感じてんだ？って思った奴に教えとこう、胸触れた後太股触れたんだぜ

これはヤバイ、マジでヤバイ

どれだけヤバいかと言うとレミリアが裸ワイシャツで咲夜と一緒に寝てるぐらいヤバイ、だからマジ助けて

「熊狸さん、お早うございます」

「美鈴助けて、冗談抜きでヤバイ」

「寝相がくそ悪いとはこの事ですな、ハア！！！」

美鈴の蹴りが炸裂した、憂牙は壁にめり込んだ
よし、後は首に短刀刺すか

「なにしようとしてるんですか！？彼は熊狸さんみたいに慣れてないんですよ！！」

「ヒドッ！！美鈴の次にナイフの餌食になってるからってそれはないでしょ！！！」

「それって1日一回は確定ですよな・・・」

「うん」

なんたる、美鈴が同類を見るような目でこっちを見てる
もしかして咲夜に毎日狙われてるからか？

そうだったらかなり失礼だぞ、俺は何故か狙われるんだからな
たまにレミリア参戦で

「あ、そっぴやパチュリー様が呼んでましたよ」

「サンキュー、いてくるわ」

パチュリーがねえ、前に何か作るって言ってたからそれか？

まあ多分違うとは思っけど、もしそうだったら適当にゆっくり饅頭
でも作るか

とかふざけた事考えてたら着きました

「やほー、呼んでたみたいだけどなんだ？」

「あんたの友人の事よ、なんなのあのふざけた魔力量は」

「ああ、俺も最初は驚いたけどさ……俺の大親友名乗ってるんだぜ？」

「……納得してしまったわ」

頭に手を当てながら溜め息をつかないでくれ、こっちだって納得し
たくないさ

でも事実だからさ、魔力だけみたら必殺技が竜破斬の天才美少女魔
道師並みだからね

でも思考が残念すぎる、俺よりも残念すぎる

もう嫌になるよ、あんなのが大親友名乗ってるなんてさ

「神は私を見放したか……」

「まあとりあえず彼には魔法の使い方を教えといてあげるわ、それ
ともう一つあるんだけど」

「まさか実験台になれと？」

「そうよ、だからちよつとこっちに来なさい」

逃げる！！流石に実験台は嫌だ、ナニされるか分からないし！！
んでも逃がさないパチュリー、目のハイライトが消えようが捕まえ
ようと触手で……って逃げられないじゃん！！！！

「捕まえたわ、さあ実験を始めましょう」

パチュリーに捕まってから記憶がありません、意識を取り戻したら咲夜に介護されてました

どゆこと？気になったから咲夜に聞いてその後聞かなきゃ良かったと後悔した

だってパチュリーが「ふふふ」とか良いながら魔方陣に俺を寝かせて呪文を唱えてた、とか言うんだもん

しかもなんとなくだけ身長が低く・・・低く！？ちょっと待て！！パチュリーはいつたいどんな実験を行ったんだ

「咲夜？鏡持ってきて」

「ここにあるわよ」

・・・可愛らしい幼女が鏡に映ってますな、目が赤いのと背中に余計な羽が見えるのは気のせいだとして
まずやることは・・・

「黄昏よりも暗き者血の流れより赤き者偉大なる汝の名において我闇に誓わん・・・」

「ちょっとまってーい！！なに使おうとしとんじゃおんどれは！！」

「竜破斬だけど？てか放せロリコン、俺は今からパチュリーに喘息が酷くなる術式か自分が好いている相手と結ばれない術式をかけて来なくてはいけないんだ」

バカ憂牙が「悪魔だ」とか呟いてるけど無視、悪魔に言っでどうするんだ

とりあえず図書館に突撃だ、人を少女にしゃがって

そういう趣味でもあるのかパチュリーは、それともレミリアに頼まれたか？

どっちでも良いか、本人から聞けば良いだけだし

「で、どういう意味で人を幼女なんかにしたんだ？返答次第ではマジで永遠に結ばれない呪式をかけるぞ」

「ちょっと落ち着きなさい、私はただ普段でも悪魔化した時の何%か使えるようにしただけよ」

「その結果が幼女化、見た目が10才ぐらいになってんだけどこれは？」

「一番適してる姿じゃないの？または一時的な副作用とか」

この姿が一番適してたら死ぬ、精神的に死ねるわ

副作用なら仕方ないけどさ、てか目の色と羽も副作用か？

副作用じゃなかったとしたら・・・

「ずっと出っぱなしか・・・」

「羽の事なら心配いらないわ、自分で消したり出来るから」

「もろ天使化じゃん・・・」

「そっぴやレミィがそんな事言ってたわね」

レミリアがTOSをプレイしてるだと、ルートはどっちか気になるな
ってそうじゃなくて！！完全に悪魔化しなくても少しだけ力が使え

るとはわかったけど、なんで幼女？

いや副作用かも知れないってのは分かるよ？でもさもし幼女の姿が一番適してたらあれだろ

一生このままだろ、それだけは勘弁してくれ

「パチユリー様ー、また例の白黒が来ましたよ」

「熊狸でもけしかけたら良いんじゃない？」

「そうですね、そおい」

(・3・) アルエー、体が飛んでるよ

てか小悪魔に投げ飛ばされた、軽すぎだろ俺

というか前見えないんだけど、なんとか魔理沙が来たから俺をけしかけようってのはわかった

でも投げ飛ばす意味ある？

「うおー！なんだ！？」

「痛い、そして抜け出せない」

本に埋まって顔だけ出してる状態になってます、魔理沙が借りてこ
うとした本ですな

毎回思うけど、家は広いのか？それとも売却・・・はしないだろ、
人の本だってわかってるしさ

「おーい大丈夫か？てか誰だ？」

「熊狸ですよ、そして抜け出せないから引つ張ってくり」

「よいしょっと、ほらこれで大丈夫・・・見事な敗れ具合だな、

エロ的な意味で」

魔理沙が感染した！？とうとう俺と同類に！！

まあそれは置いて、服がどうなっているか見てみ……
下着が見えてるな、完全にじゃなくて所々服が切れて見えてる
後腰とか脚とか、服はＴシャツだけだ

ズボンがぶかぶか過ぎて無理、Ｔシャツ一枚で全部隠れるから良い
んだけどね

「とうかなんで小さくなってんだ？それと羽が出てるぜ」

「パチュリーに実験台にされたらこうなった、羽は出したり消したり出来るらしい」

「へえ、パチュリー？お願いがあるんだけど」

「なによ」

「熊狸貸してくれ、本返すからさ」

魔理沙さ〜ん、あなたなに言ってるんですか〜

幼女誘拐とか洒落になりませんよ、てかパチュリー！！

小悪魔にレミリア呼ばせるな！！そしてゴミリアテメエ笑顔でOK
だすな！！！！

咲夜は……ナイフで主人を脅すな、鼻血を出しながら連れて行
かせるのを拒否るな

拒否るなら鼻血を止めてからにしてくれ

「三対一で連れて行くに決定だな、それじゃアディオス」

「俺の意見は無視かよおおお・・・」

（（そついや聞いてなかったわ））

魔理沙の家に連れてこられた、途中ルーミアに「仲間みたい」って言われた

確かに黒い服着て飛んでたらそう見えるわな
で、連れてこられた俺だけに
今何してるかというと

「魔理沙のお下がり着せられました、黒髪ショートの魔理沙コスです」

「誰に向かって言ってたんだ？」

「なんでもない、ただの一人言」

「そっか」

それにしてもなんでサイズがぴったりなんだ？まさか探したとか・・・
・
ないな、咲夜じゃあるまいし
でも鼻血出してた時あったよな・・・ってよく考えりゃ寝込み

襲えるんじゃ

「寝込み襲ったからこれからずっと私の事を魔理沙お姉ちゃんって呼ばせるからな」

「……処刑に近い、姉さんや姉貴なら言えるけどお姉ちゃんはキツイ

どれぐらいキツイかと言うと夏にレティさんと呼ぶぐらいキツイつまり寝込みを襲うなって事なんだよな、でも理性保てないかも今だって服をくんかくんかしたいのに我慢してるんだからさ

「魔理沙」

「誰だ？人を呼ぶのは……って霊夢か、なんのようだ？」

「熊狸がちつこくなつたって聞いたから飛んで来たのよ」

あれ、魔理沙の次は霊夢のターン？

てか俺の知らないところで着々と好かれて来てないか？いや嬉しいけどさ、でもそれなら家に招待して欲しいよ

毎日紅魔館でフランときゃっきゃうふふして咲夜のナイフの餌食になつての繰り返しだもん、もう少しドキドキするイベントがあってもいいよね

又雑憂牙？見慣れた顔と聞き飽きた声ではドキドキどころかワクワクもありません、誰かに告られたりしたらすっとんきょうな声出すかも知れないけどさ

「熊狸、霊夢がこれ着てくれって」

「腋巫女服かい……」

霊夢も魔理沙もさあ、デレるのがちっこくなつた時だけってのはちよつと悲しいよ

魔理沙は俺を撫でて和んでたりしてるけど、霊夢はツンデ霊夢からなかなかデ霊夢にならないし

とか考えながら巫女服に着替えました、うん実にどうでもいいな

「霊夢、着替えたぞ、つとわぁー！」

何かに躓いて転んだ、しかも顔面強打

痛い、マジで痛い

多分これ少し涙目になってるよ

「痛い」

「「涙目G」！！」

最近主人公sが幻想郷では通じないネタを覚えてきたな、霊夢は（。。。）〇ミ。ゆかりん！ゆかりん！ってやって紫を呼んだらしいな

・・・前に俺が（。。。）〇ミ。魔理沙！魔理沙！ってやってたからかな？・・・ヤバい、永遠亭メンバーにまで広がる
と殺されそうだ

「なに震えてんのよ・・・・テイクアウト出来るかしら（ボソ）」

「霊夢、それは私が許さないぜ」

「なんか言つた？俺は「なに震えてんのよ」しか聞こえなかったけ

ど」

「熊狸は可愛いわね、魔理沙も見習いなさいよ」

「今の状態が、だろ？」

かわっ！可愛い！？男らしいとか頼りになるとか守って欲しくなるとかなら言われた事あるけど可愛い！！？／＼
どうしよ、てかこんな時なんて言ったら良いんだ
肯定か否定かどっちしたら良いんだ、誰か教えてくれ
（少女混乱中）

「「っー、ティッシュティッシュ」」

「ふう、気が動転しすぎた」

「紅魔館のメイドの気持ちが悪くわかったわ」

「だな」

お前ら、レイマリならぬユウマリとユウレイか？
・・・薄い本が出るな、妄想で止めてくれよ
でないと興奮してやりそうだ

「んじゃ私は目の保養になったから帰るわね」

「それじゃな」

「それじゃ、アディオース」

霊夢が……もう戻れない位置にいるよ、まあ魔理沙とフランも
だけど

そんな事より鼻にティッシュ詰めてんのはなんでだ？いやまあ理由は咲夜と同じような事だとは思っよ、でもさ俺は萌えの対象に入らないからね
てか入れないで

「霊夢が居ると聞いて飛んできたわよ」

「「帰れ」」

「ヒドッ！！！」

酷くない、あんたがくると余計面倒な事になりそうだからな

「冗談は置いといて、何しに来たんだ？霊夢ならもう帰ったぜ」

「熊狸が面白い事になってるって聞いたから来たのよ、まさか小さくなってるとは思わなかったけどね」

五月蠅い、これはパチュリーのせいだ

俺は実験台にされた哀れなモルモットだ……
関係ないけど実験動物によくルビふられてるよな、モルモット実験動物ってさ

「ところで、なんで霊夢のお下がり来ているのかしら？」

「強制」

「……スッ」

スキマに手を突っ込んで何か探してんだけど、しかも嫌な予感しかないし

俺の記憶で嫌な思い出って言うたら……霊夢と紫と咲夜とルーマってまさか！？

「紫さん、ルーマの頭の札取らないで下さいよ」

「手遅れよ」

やりやがった！！コイツやりやがったよ！！EX呼びやがったもう知らね、どうにでもなりやがれ

諦めた、私は諦めました

「なあ、ルーマの札取ったらどうなるんだ？さっきから家の中が暗くなってきたるんだけど」

「ルーマではないルーマが見えます」

喧嘩売られないように祈ったとこ、悪魔とか巫女とかに悪魔が悪魔に祈るな、とかのツッコミはなしな

「なんか何も見えないんだけど……」

「大丈夫、俺は見えるから」

「なら前の決着つけましょうか？ねえ」

パチュリーの実験が成功したか調べる為に15%ぐらい出してみた
らルーミアの闇の中でも一応姿が確認出来るようになった、「降臨
せし悪魔」使えば完全に見えるけど

あれって本能に従うんだよね、戦闘欲とか血欲とか色々ね
うん、今も少し血とか欲しい

魔理沙が隣にいるしバレないよね、人間から離れてきたなあ実感
してきたよ

では頂きます、カプ

「イテツ！っくなんだ？なんか痛かったけどって熊狸はなんで私の
腕を甘噛みしてるんだぜ」

「欲に負けた、なんか悪魔より吸血鬼染みてきた」

「…………パチュリーのやつ、余計な事したな」

「無視しないで頂戴、私を呼び出しておいてこんなだと…………切
るわよ？」

EXこええ、闇が晴れてきて姿が見えるようになってきたな
相変わらず羨ましい胸だ、マジで少しくれよ

あ、魔理沙も自分の胸みた後EXの胸見て落ち込んだその後俺の胸
みて…………

「お前もか魔理沙ああ！！！！妖夢に続いてお前までも人の胸み
て安心しやがるのか！？」

「いや、すまねえ。何て言うか、熊狸のみたら自信が……っ
てあ」

「屋敷は紅に染まる、人形達は少女に千切られ紅に染まり餌になれ・
……ふふふ」

やべ、熊狸が黒くなってる
ストレスのせいか、霊夢もストレスが溜まると片っ端から目につい
た妖怪をぶっ飛ばすからな

「……魔理沙、私は帰るわね」

「マスパ三回撃たれた後フランと遊たいなら帰っても良いぜ、嫌な
ら手伝え」

「霊夢も魔理沙も、熊狸に毒されてきたわね……ルーミアが逃
げたわ」

「リボン持って逃げたのは知ってるぜ、だから熊狸をどうにかして
くれ」

「境界を操って戻すわ、それとも二度と熊狸を弄るのは止めましょ」

未だにぶつくさ呟いている熊狸に能力使って元に戻す紫、てか事の根元はコイツだよな？

私じゃないよな、私が胸を比べたからじゃないよな
うん、絶対に私は悪くない私は悪くねえ

「……親善大使乙、それじゃ」

あれ、紫に心読まれた？

というかなんで知ってたんだよ、なんだかんだで紫もノリで生きてんのか

「魔理沙、おい」

考え事してる魔理沙を呼び戻す、ちょっとしたお仕置きです

紫が親善大使乙って言ったって事は悪くねえ発言したんだろ、思いつきり悪いの魔理沙なのにな

貧乳属性の妖夢と魔理沙に勝った！って思われたんだぞ、なに？俺の魔理沙は貧乳じゃない？この小説内では貧乳だ
理由は作者が好きだから、それだけ

（ちょ、人の性癖を勝手に暴露するなw w b y作者）

なんか電波があつたが無視、で魔理沙は

「おい、人を呼んでトリップするなー」

気付いてた、さてお仕置きタイムといこう

「ねえ、ちょっとしゃがんでくれない？」

「こうか？」

「そうそう………てやつ!!」

「うわ／＼やめ、どこ触ってんだぜ／＼」

胸ですが何か?………確かに自分のより少しだけデカイ、羨ましいぜちくせう

「いつまで揉んでんだ!!／＼」

「気がすむまで」

「ちょっと待て!!左手が下のつてそこはやめっ………」

エスカレートして行った為描写出来ません、なので音声だけでも

「ふふふ、だんだん卑猥な音が聞こえてきたね」

「あ・・・ん・やめ、これ以上は・・・あ／／」

「だが・・・身体は喜んでいるぞ、ほれほれ」

「ああああ・・・ゆう、り・・・」冗談抜きで・・・」

後は妄想で、気力が尽きました

「はあはあはあ・・・」

「あゝ、すっきりした」

うん、描写出来なかった部分もしっかりやりました

魔理沙が真っ赤になってるよ、俺は大丈夫
保険体育を個人で勉強しましたから、攻めだけね

「さて、いい加減自分の服に着替えよ」

「冷静ねえ、さっきまであんなことやってたのに」

無視、魔理沙のお下がり脱いで自分の服に着替える
Ｔシャツ一枚着るだけで終わりだから楽だな、身長１３５？に縮んでるけどな

「幻想郷では見た目と年齢は一致しないから大丈夫ふうっ!!!?」

「黙れ、その口塞ぐぞ」

「あの、誰も突っ込んでなかったから言っけど・・・目の色が赤くなってるわよ?」

「知ってる」

「冷たいわね、まあ良いわそれよりレミリアからあなたに伝言よ」

伝言?レミリアから?なんか嫌な予感しかないんだけど、てか今日1日だけで相当疲れたぞ

「えっと・・・パチエがなんか間違えてちょっと吸血鬼っぽくしちゃったらしいわよ、まあ吸血鬼も悪魔に入るから大丈夫よね、だつて」

「・・・ちよつとあのもやし炒めてくるわ」

「「え・・・?」」

魔理沙がいつの間にか正氣に戻ってたけど気にせず紅魔館へ、泣いても許さないよ」

「笑顔で飛んでっただぜ」

「触手の刑にならない事を祈るときましょ」

「紫も随分毒されてきたな」

「「はあ」」

二人して溜め息をつくか普通、意識したくないんだな
幻想郷の主要人物が毒されたらある意味終わりだぜ

「場所は変わって紅魔館」

「レミリア、パチュリー連れてきな」

「分かりました!!」

「一応脅してはないんですよ、ただ頭を掴んで笑顔でお願いしただけ
です」

「そしたら涙目でパチュリーを呼びに行ってくれました、あんた妹ど
ころか妹の従者(?)にまで負けたらヤバイぞ」

「むきゅ、なによいきなり人を呼ばせといて」

「なに失敗してんだ?人を改造しときながらよお」

「ちょっと牙や欲求が出たぐらいでs」

「ほう、頭の中身を引きずり出し更に腸を引きずり出されたいらし
いな?」

「すいませんでした！！私が未熟者でした！！」

「パチエ！？」

うん、どうみても他にも変化してるよ

例えるなら某狐の妖怪さんやルーミアのEX化みたいな、いくらなんでもやり過ぎだろこれは

っと土下座して謝ってるパチユリーを帰らせないと

「で、戻す事はd「去らば」出来ないのかよ！！」

「残念だったな」

「ふん！！少し寝てくる」

いつ来たのかわからないけどバカがいたからとりあえずぶん殴った
後部屋に戻って寝る、今日は疲れた

幼女化、壊れてた二人（後書き）

ユウリ強化回でした、途中作者の趣味がちよろつと出たりしてるけど気になさらずに

咲夜「とうとう描写したわね」

まずそこに触れますか、まあ確かにやつちゃったねでも既に夢でめーさくが展開されてたから

美鈴「ですね、次に熊狸さんの強化ですけど」

うん、少し説明しとかないとね

先ずは悪魔化しなくても最大50%の力を引き出せる事が出来るようになった

次にEX化っぽい状態について、簡単に言つとルーミア同様別人になります

今は不完全なのでありませんがいつか出します、幼女化はただの趣味です

「変態！変態！」

ヒデエ、で他に触れるとこなけりや終わるけどある？

美鈴「ルーミア再登場しましたね、後白黒が熊狸さんにべったりですね」

咲夜「スレ。ヤーズネタが多いわね、後霊夢と八雲紫も脈ありね」

ルーミア再登場の理由は、ただ出したかっただけです

魔理沙が熊狸にべったりなのはギャップにやられたせいです、頭を撫でた時の顔にやられました

スレイ。ーズネタが多いのは作者が好きだからです、未だに姉ちゃんの登場を期待してます

新しいのやらないかな、次はゼロスの上司を倒す的な内容で霊夢は脈あります、てか少しは女の子らしくしたかった

紫はただ周りのノリに乗っかってるだけです、今後どうなるかわからないけど

咲夜「それじゃ終わるわよ、中国締めなさい」

美鈴「中国じゃない美鈴だ、感想等（以下略）待ってますそれではまた次回で会いましょう」

途中略すなよ

又薙憂牙の設定（前書き）

オリキャラの設定その2

又薙憂牙の設定

名前・又薙憂牙

性別・男

年齢・15

容姿・栗色の髪に学生服

性格・バカ、少し熱い、変態、ちょっとシスコン

身長・165?

学力・中の上

熊狸に東方シリーズを教えた張本人、熊狸とは11の時に出会った
実際そこまでバカではない、ただ言動がアレなだけである
常に幻想入りを夢見てたアホ、でも叶った

現在紅魔館で雑用係として扱われている、たまに門番を口説こうと
してる

スペルカード

竜符「竜を討つもの（ドラゴンスレイヤー）」

ドラグ・スレイブの劣化版、又の名細くて赤いマスパ

作者から

ネタキャラ、一応最初は熊狸の初恋相手の立ち位置にしようと思っ
てた

空気になりがちな主人公その2、以上

又薙憂牙の設定（後書き）

はい、という訳で熊狸の大親友（自称）の憂牙です

ユウガ「どうも、いきなりだけどスペカの説明がおかしいとツツコミたい」

お前に黒魔術最強呪文が扱えるとは思えん、だから劣化版でよし

ユウガ「よし、じゃねえ！！ 他にも色々ツツコミたいところあるぞ！！」

熊狸の身長とお前の身長差とか、空気になりやすい主人公とかか？

ユウガ「わかってんじゃねえか！！！！」

質問返答のコーナー

Q 身長差ありすぎ

A 某生徒会の会長とほぼ同じだと最近気付いた、けど変える気はない

Q 俺の扱い悪くね

A ネタキャラだからね

Q 初期設定のまま行けば良かったのに

A 熊狸が女好きになった原因がお前でも良いなら

以上

ユウガ「伏線張るなよ・・・」

無視）さて今日はここまで、感想や質問など待ってます

次回「チートと神社と着せ替えと」 デュエルスタンバイ！！

熊狸「危ないネタを入れるなよ、しかもうる覚え」

チートと神社と着せ替えと（前書き）

チート能力の説明↓神社へ暇を潰しに↓お掃除

遊戯王ネタ入ってます、しかも妄想が

チートと神社と着せ替えと

あれから数日が経ったある日、またもやパチュリーに呼び出された
なんかフランも一緒に行きたがってたから連れてく事にした、まあ
妙な事にならなければ良いけど

「で、用件は？ないんなら寝るぞ、パチュリーの膝で」

「咲夜のも気持ちいいよ」

マジでか！？咲夜の膝枕、なんて羨ましい
俺なんて近付くだけで「妊婦するから近付かないで」って言われる
んだぞ、女同士ならできないのに

「膝枕は置いといて、前に他にも変化あるんじゃないかって言った
わよね」

「そついや言ったな、短刀本に突き付けながら」

「それで調べてみたのよ、結果は当たりだったけど。で状態だけど・
・・」

つまりあったと、多分予想は出来てたんだろな

だって目を反らしてないし、フランは目を輝かしてるよ

俺？俺は今すぐ眠りたい、現在時刻は朝の4時です

後一時間は寝たかった、ひこもり魔女に吸血鬼の妹に起こされて寝
不足です

憂牙のクソツタレは爆睡こいて寝てやがったし、なんで俺は毎回損

な役回りなんだよ

「ってわけよ……て聞いてた？」

「全然サッパリ、一からよろしく」

「もう一度言うわよ、今度は簡単に纏めるからちゃんと聞いてなさいよ。新しく発見された変化はルーミアと同じような物よ、あんたがEX化って言ってる状態よ」

「……はい？ チートにも程があるでしょ、永遠に近い命が尽きない限り死はなくて更にEX化まで出来ると」

「そういう事、ちなみに言っておくけど前にフランにやった能力の応用以上に難しいから」

お前それはつまり使えば副作用がスゴいって意味だよな？

ルーミアみたいに札で制御しようかな、結界なんて自分に使えないしさ

結界じゃなくて結壊だよこれじゃ

「それともう一つ、そのEX化だけど。正直封じた方が身のためよ、フランが狂気に吞まれたのと同じような状態よ」

「つまり狂った時勝手になっちゃってしまっつて訳か」

「今はね、完全にコントロール出来ればEX化も自分の意思で出来るようになるわ」

暴走状態かよ、カイザーじゃないんだから

てかフランが飽きてきて小悪魔にちよつかい出しはじめてるぞ、よしフランそこで小悪魔の服に手を突っ込んで・・・よし！！よくやった！！そのまま胸を・・・

「そっちに集中せずにこっちに集中しなさい、今ビデオカメラと監視カメラと盗撮用カメラで録画してるから」

「いつの間にそんなの取り付けた、てかパチュリーは本格的に仲間入りだな」

「触手って素敵ね、それに裸より着てる方が・・・」

パチュリーファンの方々申し訳ございません、自分が勧めた小説を読んで気に入ってしまったようです

内容は触手物です、所々押し絵が入ったりしててエロスです

って何教えてんだ！！違う違う、今はパチュリーを元の世界に戻さなきゃ小悪魔が危ない

「パチュリー、帰っておいで」。そっちに逝くと二度と帰れなくなるよ。魔理沙に泣かれるよ」

「むきゅ！？今まで私は何を・・・」

「危ない世界に片足突っ込んでました」

パチュリーがむきゅむきゅ言いながらパニックってます、とりあえずもう用がないからフランを呼んで帰る

「小悪魔が淫魔になる前に止めとけよフラン、レミリアに怒られる

ぞ」

「はい」

図書館から出て部屋に戻ってきた、どうでもいいけど眠い欲望に少し素直になっただけで基本的な事は全く変わってない

「つまり全く今までと何ら代わりはないっちゅうこっちゃ」

〓三時間後〓

よく寝たわ、さてレミリアのところにも行ってくるか

「レミリア〓、愛でさせろ〓」

「嫌に決まってるでしょ、ったく人のところに来るなりいきなり愛でさせろって。どういう神経してるのかしら」

「人にグングニル刺しながらそんなセリフ吐ける奴の神経の方がよっぽどわからん」

「私はそのグングニルを抜いて投げ飛ばすあなたの神経がより分らないわね」

無限ループって怖くね、
てかどっちかが軌道変えないと永遠に続くな

「でさ、なんかない？暇なのよ、レミリアがセーラー服着るとか咲夜の性別が変わったとかさ」

「あるわけないでしょ、そんなに暇なら妖怪の山にでも行って来たら？」

（その方が私達の身のためよ）

「よしわかった、いてくるわ」

レミリアに言われた通り妖怪の山近くまで行きますか、っと思って来たけど速攻帰るわけ何故かって？そりゃ

「来たぞ、紅魔館の悪魔熊狸が来たぞ！！」

「殺される！！　目があつたら殺される！！」

といった具合で逃げられてます、前にもあつただろコレなんだ、幻想郷の低級妖怪は俺がそんなに怖い人物に見えるのか？

「妖怪退治は楽園の素敵な巫女にお任せを！！」

「黙れ2P、所詮お前は数多くいる魔法剣士でも全然使われないキヤラだ」

「私は魔法剣士ではなく巫女です、とりあえずあなたがこの騒ぎの原因ですね」

「勝手に騒がれてるだけだ、そして今すぐ文屋呼べ、ちよっくら烏の唐揚げにしてやるから」

「文文。新聞に書いてある通りの人ですね、同じ人間とは思えませんが」

射命丸覚えとけよ、見付けたらお前の胸を揉みまくってやるからな
ついでに椀も一緒に

ってそうじゃないだろ、今はバカ鳥より目の前の現人神だな

「とりあえず神社に案内してくれ、それから話をしよう」

「……わかりました」

考えるなよ！！　まだなんもしてないぞ！！　まあ一応女好きの変
態って事は知ってるだろうな、でも好みはCカップまでだから
それ以上だと泣きたくなる、背も胸もちっこいなんて

「着きましたよ、ってなんで私を睨んでるんですか？！　しかも胸
を見ながら！！」

「重そうだな、三百グラムでいいから分けてくれ」

「無理です、それより神社に着いたのであなたの話を聞かせてもら
いますよ」

という事で取り調べがスタートしました、ここからはQ&Aでお楽
しみ下さい

Q 妖気もくそも感じないですけど、本当に悪魔ですか？

A 悪魔化すればとんでもない妖気だせますが？

Q 紅魔館にいる吸血鬼の妹に好かれてるって本当ですか？

A 怖がる事はないと思うけど、まあ好かれてるのは本当

Q 女性ですよ、男性じゃありませんよね？

A 女だよ！！　付いてないだろ！！　よく見る！！

以上、真面目なものは省きました
途中タンクやカエルが乱入してきたけど早苗さんが追い払った、けれど俺の心が痛い
だって追い払う時のセリフが「あの人は見境なく女性を襲うから外で待機してて下さい」なんだもん、さすがにそこまで腐ってないよまだ

「つまりあなたは普段は人間ですがスペルカードで悪魔化する事で完全な悪魔になるんですね」

「まあそういう事だけど、一応何割か力は悪魔化しなくても使えるし羽は出し入れ自由だから・・・」

「羽だけ出してみて下さい、外で」

言うと思った、大抵の人物は気になるよね
でもさ、漫画みたいにゴツいのじゃないから
普通だからね、言っとくけど

「で外に出て羽を出す訳だけど、なんで二柱まで・・・まあ良いか」

「わくわく、わくわく」

「どんな物が表れるのか楽しみだねえ」

子供二人に大人一人、見た目ではそう判断できるな
さてと、さっさと出しますか
ファー、某攻略王の父親が天使化するときみたいに羽が下から舞い

上がってきた

前はなかったぞ、こんな演出

「正しく悪魔化ですね、羽も黒いし」

「もう終わりだ、見せ物じゃないんだからな」

「綺麗だったねえ、早苗だったら羽より黒い翼の方が似a「諏訪子様？」ナンデモアリマセン」

こええ、ケロちゃんが少し震えてるよ

笑顔が恐ろしい人物だな、早苗って

「とりあえず妖怪ですよね！！ 人に危害加えますよね！！」

「なんでだよ、それに加えるとしても胸の小さい女性限定だ」

「「「変態だった！！」」」

・・・今更何を言っただコイツらは、新聞にも書いてるだろ「女性の方は彼女を見掛けたら逃げて下さい、最悪二度と嫁に行けなくなります」って

てか最近俺の事ばかりじゃん、それほど危険な存在か？

「なに言ってるのよ、あなた以上に危険な存在はいないわよ」

「「「いつの間に現れた！？」」」

「反結界、逃げるなよスキマ」

「あれ、境界が開かない？ちょ、嘘マジで！ 洒落にならないって」

ゆかりんキャラ崩壊、でも知らね

だって厄介事しか持ってこないし、それにさっきスキマから落ちた
ブツから嫌な予感がする

「こうなったら仕方ないわね、熊狸にはこれを着て紅魔館にいても
らうわ」

パンツ（結界が壊れる音

ガツ（紫の頭を掴む

ギギギ（二割だけ悪魔の力解放して力を入れる

「いっただだ、死ぬ！！ マジで死ぬ！！ 霊夢を怒らせた時みたい
になるう！！」

「死なれたら困るな、チツ」

「舌打ちしないでよ、それよりはいい」

誰か妹紅呼んでこい、このスキマごと灰にしてもらおう
それが一番いい判断だ

「あの紫さん、なんでメイド服なんて持ってるんですか？」

早苗聞くな、物凄く吐き気がするぞ

というか聞きたくない、もう知ってる分余計聞きたくない

「熊狸に着せる為よ、たまには女の子らしい服着せないとねえ？」

「……………そうですね、たまには」

「そうね、たまには着せた方が良いわね」

巫女追加、いつからいたのか知らないけど

というか二柱が空気だな、まあ喋らなきゃ消えるのは当たり前か
それよりまたかよ、確か前はセーラー服だったよな

そして今度はメイド服、なんだこれは新手の虐めか？

「レツツ・お着替えタイム」

霊夢が清々しいほど笑顔になってるよ、日頃の恨みを晴らすチャン
スだからか？

ああ、もう逃げないから

てか逃げられないから、だってスキマオープン＋夢想封印の準備完
了してんだぜ

逃げられる訳がない、諦めて着せ替え人形になっとくよ

「……………出来たわ」

「とりあえず、だれ？」

「巫女シスターズ、ぶっ飛ばすぞ」

メイド服姿で怒っても怖くない、二人の目からそう感じ取れる気がする

畜生まさか神社でメイド服着せられるなんて思ってもなかったよ、

しかも三人共ニヤニヤしてるし

「早苗く、なにニヤニヤしてる・・・」

「諏訪子、なに固まつ・・・」

「だれ？って言うのはもうやめろよ、巫女二人がやったから」

「「絶壁ロリメイド」」

この神社にクレーターが出来そうです、貧乳ではなく絶壁って言われたら誰でもキレルよな
世の胸に悩む少女全員を敵に回す発言だからな、特に貧乳とか無乳をな

「二柱、取り敢えず殴らせろ」

「「え！？」」

「「当たり前よね、あんな発言したんだから」」

否定は許さない、取り敢えず殴る

泣くまで殴る、早苗のおっぱい揉ませてくれたら許すがな

さて、紫の頭を掴んだ時並みの力で殴るか

なに、死にはしないさ

少し激痛が半日ぐらい残るだけだから、だから安心して

「見事に拳に妖力が集まって来てるわね、紫が掴まれてた時並みの力かしら」

「ありや相当な痛みが走る事を覚悟した方が良いわね」

「「場にいる神奈子と諏訪子を手札に戻し、早苗を召喚！！ 守矢の巫女よ、今仇なす敵を風呂敷え！！特殊召喚、守矢の巫女 早苗！！」」

「「「遊。王か！！！」」

遊。王か！！、同じツツコミを入れてしまった

何気に召喚条件厳しいな、神奈子と諏訪子を手札に戻す事で特殊召喚出来るって

守矢の巫女 早苗

場にいる八坂神奈子と洩矢諏訪子を手札に戻す事で特殊召喚出来る相手の場に博麗の巫女 霊夢がいた場合のみ攻撃が1000ポイントアップする

また、自分の場に八坂神奈子、洩矢諏訪子がいる事で守備が1500アップする

攻撃1500 守備1000

みたいな感じが、よく考えれたな

「あんたもなに考えてんのよ、早苗でこれなら私なんてどうなるのよ」

博麗の巫女 霊夢

特殊召喚に成功した時相手の場にいるレベル3以下のモンスターを

破壊できる

相手の場に守矢の巫女 早苗がいた場合のみ攻撃が1000ポイントアップする

また、自分の場に妖怪の賢者 紫がいる事で両方の攻撃を500ポイントアップする

攻撃1700 守備2000

「的な感じだと思っけど?」

「作者妄想乙、というか私と早苗強くない? これじゃ他が可哀想よ」

「マジでやるなら紫のレベルは星10ぐらいいくぞ、しかも藍がいる事で攻撃アップとか」

「つまり星4以下は全て雑魚妖怪かバカルテットになるわけね」

まあ多分チルノとルーミアは条件が揃えば変わるだろうな、アドベントとEXに

ってなんでリアルに考えてんだよ、今は早苗が生け贄にされた事の方が重要だろ

そうだ、早苗は生け贄に出されたんだ

つまり、さなパイ揉み放題!?

「さーて、早苗ちゃん? ちょっとおじさんと良い事しようか、大丈夫すぐ気持ち良くなるから」

「霊夢さん今すぐ警察を!!!! 変態がいます!!!!」

「手遅れよ、それに幻想郷にはそんなのいないわよ」

「グヘヘヘ、さあこっちへおいで〜ウヘヘ」

「いや〜〜!!（泣）」

『南無阿弥陀仏』

まあ二時間たつぷり堪能しました、大丈夫さなパイだけだから顔を胸に押し付けたりゆっくり触ったりと色々したけど

「新記録ね、弄んだ時間」

「まだ覗きなんてやってたの、いい加減やめたら」

「あんたも人の家から食料奪うんじ」
「んじゃさいなら〜」
「逃げたわね、それじゃ私もこれにてドロ〜ン」

風呂敷担いで逃げた霊夢とスキマを開いて逃げる紫、俺も飛んで逃げるか

あれ、これ以上飛べね

なんでよ、と思つて下をみたら鉄球と足を紐で縛られてました

「なぜに」

「メイドは」

「ご主人様を」

「ご奉仕するのが役目ですよ」

つまり今夜は守矢家に泊まれという訳か、それはつまり
親子丼OKと解釈して良いわけだな、さなすわをたんまり堪能しま
しょうか

巨乳二人に挟まれたら泣きます、というかオンバシラで押し潰され
たくなります

「ぶるっ、今寒気が・・・」

「変態を入れるという事はプロレスOKのサインだろ？グヘヘヘ、
今夜は寝かさないよ」

「帰れ！！ 帰ってくれ！！」

神奈子さんや、それは酷すぎやしませんか

自分たちが言ったんでしょ、メイドはご主人様をご奉仕するの
が仕事だって

だから夜のご奉仕をしてあげようと息を荒くしてたのに（嘘）
仕方ないから帰るか、という訳で少女移動中

「なんて格好して帰ってきてるのよ・・・」

（これがお嬢様だったらすぐさま部屋に連れ込んでピーするのに）

「サーセン、服はスキマに着替えさせられた後パクられたんです」

「着せ替え人形ね、まあそんな格好してるんだから私の手伝いでも

してもらっわよ」

「答えは？」

「聞いてない、という事で妹様のお部屋を掃除してきなさい」

ホウキと塵取り、バケツと雑巾とモップを渡されました
どれだけ汚いのか気になるわ、まあ任されたし行くか
三分で到着、さて掃除スタートといきますか

「フランごめんね、掃除しに来たからちよいと出ていってくれるかな？」

「いいとも」

笑ってじゃないよ、確かに「くれるかな？」のところはそれっぽく
言っただけ

それにしても酷い散らかりようだな、赤い絵の具とお肉がいろんな
ところに散乱してるよ
それと鉄臭い、この匂い消えんのか心配だ

「まずは肉を処分しよう、マスクとゴム手袋はあるな。よし、作業
スタート」

（BGMクリティウスの牙）

「いや間違ってるよ！！　なんでバーサーカーソウル発動しなきゃ
なんないんだよ！！」

実際のBGMはビフォーアフターで有名なあの曲、小学の掃除の時間
に流れてたらしい

確かに掃除にはピッタリだわな

「というか、もうゴミ袋二つ目が終わるぞ。いったいどんだけ散らかってんだよ、しかも殆どが固くなってるし」

「咲夜さんに言われて手伝いに来たぞーって鉄臭!!」

「とりあえずマスクとゴム手袋してゴミ袋に肉詰める」

雑用係が来てくれたお陰で少しは早く終わるだろ、てか終わらせたい二十分やってまだ十分の一も終わってないからな、多分一人でやってたら四時間近く行くだろうな

「疲れた、休憩しようぜ」まだ時間は大量にあるんだからさ」

「肉の塊と一緒に捨てられるのと休憩無しで掃除手伝うの、どっちが好みだ」

「一生懸命やらせていただきます!!!」

バカのやる気も出たところで少しスピードを早めるか

〽一時間半後〽

「.....ぜえ.....ぜえ.....ようやく片付いた、肉だけ」

〽

次は床と壁にべったりと塗られてる赤い絵の具を落とす作業か、マジで疲れそうだな

「すごいゴミ袋の量ね、6つとも全部人間の肉よね」

「処分するなら、持ってって、殆どが固くなってるから」

「わかったわ」

咲夜が様子を見に来たという事はだいたい終わったのか、流石はメイド長だ

こつちもさつさと終わらすか、憂牙のバカを叩き起こして

「起きろ、ラストやるぞ」

「後五分」

マジで寝てやがる、てか人の部屋で寝るなよ

ここはフランの部屋だぞ

「ナイフと短刀、どっちが好みだ」

「ラストスパート行くぜお前ら！！」

こいつはそんなに痛いのか、身近にほぼ毎日ナイフと時々グングニル食らってるやついるんだぞ

最近痛みを消す術式を作ったから大丈夫だけど、使えないのは境界だけであって術式は使えるからな

例えるなら攻撃魔法は覚えるけど補助防御は覚ええないのと同じだ

「欠陥結界だな、ワロスww」

「スペカー一枚に言われたくない、さつさと終わらすぞ」

俺がモップで大雑把に拭いてそのあと憂牙が雑巾で丁寧拭く、アイコンタクトもしてないからかなのに自分の役割が分かってる、一応俺の性格分かってるからか

「ん、どうした？ 俺に惚れた？」

「それはないから安心しろ、それよりさっさと拭け」

「お前に惚れたら負けだと思ってる」

「安心しろ、俺もだ」

カップル？ いいえバカと変態です

なにやってんだ、馬鹿な事思ってるでさっさとやる

（二時間後）

よし終了、綺麗になったよ

赤くて肉が沢山あった部屋が綺麗な白い部屋になったから、今日はもう完全に疲れた
さてフランを呼ぶか

「フラン、入っていいぞ」

「はい……部屋間違えた？」

「間違えてないから、あんたの部屋だから」

「あり得ない……私の部屋は血で赤く染まっていて更に人間の肉

や頭蓋骨がそこら辺に転がってる狂気染みた部屋のハズだ・・・」

「残念ながらあなたの部屋です、諦めなさい」

フランが崩れ落ちた、自分の中での理想の部屋だったんだな
血の池とか肉の山があったら大喜びしたんだろうな、俺には全く理
解出来んが

「部屋に帰って寝るか、着替えも部屋にならあるし」

「ちょ、待ってくれよ!!」

バカはほつといてさっさと部屋に戻る、そっぴゃこのメイド服どう
すんだ？

回収しに来そうにもないし、一応貰つとくか
絶対に今後着る機会なんてないだろうけど

そして部屋に着いた、さてとTシャツはくと
あったあった、さっさとTシャツに着替えて寝よ
っワケだから、ドリームワールドにダイブするんで本日はこれまで

「誰に向かって行ってるんだろうな、俺は」

チートと神社と着せ替えと（後書き）

早苗はどう足掻いても霊夢には勝てない

霊夢「私の出番少くない？」

ゴメン、次話じゃ沢山出番あるから許して

霊夢「仕方ないわね、野口で許すわ」

俺が欲しい、諭吉どこるか野口までないから

魔理沙「作者の財布の中には年中レティがいるのはわかったから」

リリーを呼んでこい、野口一枚だけでも跳び跳ねて喜ぶぞ

霊夢「金は良いから、それより最近あんたの趣味が多々見えてるんだけど・・・」

首を吊って来ます、探さないで下さい

作者より

「それで許されると思うてか変態」

やっぱダメか、確かに趣味が見えてるのは確かだ

だがしかし、それは仕方のない事なんだ

だって人間は皆変態なんだから

霊夢「作者が最近レンタルビデオ店で借りて全部観たものから一つ
いったい何をする気で??」

霊夢「変身!! トリックベント」

ちよつと待て!! 確かに観てた!! けどカードの名前の時点で

何されるか分かったから!!

霊夢『夢想封印!!!』

ピギヤアアアッ!!!!!!

魔理沙「飛んだ茶番だぜ、それでは今回の後書きはこれにて終わり

だ。感想や質問などを待つてるぜ、後作者の発言は気にしないでくれ。それじゃまた次回の後書きで」

隔離された世界、幻想郷

「大結界が壊れかけてる、いったい何が起こるって言つものよ」
招かれざる客

「もう、ポツクリ逝つてたのかと思つてたわ・・・」

外と繋がりがける幻想、幻想と繋がりがける外

「妖怪を殺せ！！ アイツらは俺らの敵だ！！！」

そして・・・最悪の能力の持ち主

「僕的能力はね、時を操る程度の能力なんだ。どれだけ強力な妖怪だろうと、時を操られたら・・・終わりだろお？」

力を合わせて立ち向かう幻想の民たち

「夢想封印！！！」

「マスター、スパーク！！！」

「心臓を握られても、余裕でいられるかしら？」

「妖夢、これは殺し合いよ。殺すか殺されるか、ただそれだけよ」

「はい、幽々子様」

「咲夜、あなたは美鈴と組んでアイツを殺すのよ」

「わかりました、お嬢様」

今、最大最悪の異変が幻想郷に降りかかる

東方、妙なのが幻想入り初の異変

「誰も殺させはしない、死ぬのテメエだけだ。もし殺されるとしても、それは・・・私だけで十分だ！！！」

あなたには、守りたい大きなものがありますか？

熊狸「嘘予告だからな、信じるなよ」

霊夢が熊狸で熊狸が霊夢！？（前書き）

入れ替わりネタです

霊夢が熊狸で熊狸が霊夢！？

「死にたい、今すぐ死にたい」

「いきなりすぎるだろ、霊夢」

「当たり前でしょ、何が悲しくてこんな男と入れ替わらなきゃならないのよ」

「女！！女だから！！一応胸あるし付いてないから！！」

「無いに等しい胸を言われてもねえ」

酷い、酷すぎるぜ霊夢

皆さんこんにちは、熊狸です

会話の通り霊夢と入れ替わってます、とりあえず再現VTRをドウゾ

「暇だ、平和過ぎて暇だ」

「なら頭のナイフ抜いて下さい、怖いから」

「ほらよ、で何かないかバカ憂牙」

「あるわけないだろ!!」

はあ、やっぱ使えないな

最近魔理沙も霊夢も来ないから弄る相手なんていないし、レミリアはうー　うー　言ってるし

咲夜は相変わらず主人の我が儘に付き合ってるし、美鈴は庭の手入れしてるし

フランはレミリアのゲームデータを進めるという嫌がらせに夢中だし

「何か面白い事はないかね、フランがエロゲやってたりとかレミリアが妹萌えだったとか」

「グングニル!!」

「お姉さまにレーヴァティン!!」

本当、何か面白い事ないかねえ

何時もと同じようにナイフとグングニルの的になる以外に何かないかねえ

「いやいやいや、目の前で姉妹喧嘩起こってんじゃん!!しかもなんか咲夜さんと中国も交ざってるし」

平和だ、本当に平和だな

あまりに平和過ぎて刺激が欲しいよ、こうなんか事件が起こるみたいな

「いい加減止めろよ!!俺じゃ止めれないんだからさ!!」

「るせえな黙れよ、五人全員眼球抉り出して食わせるぞ」

「『『『『すいませんでした！！』『』『』（土下座）

「分かれば良い」

（何か何時も以上に機嫌悪いわね、咲夜なんかした？）↑うー

（私は何時もと変わらず仕事をしてました、中国あなたなんかしたんじゃないの？）↑メイド長

（私も何時も通りに門番の仕事をしてましたよ、妹様はなんか心当たりないんですか）↑サボリ魔1

（私はお姉さまのゲームデータを低レベルで進めるっていう遊びしてただけだよ？後ついでに装備も最弱にしてお金を復興に全額使ったり）↑熊狸の妹

「フランあなたのせいだったのね、妙にク。トスやロ。ドが弱かったのは」

「フランG」よくやった、後はテセ。ラ編まで進めてやれ

「案外酷い事考えるのね、でどうして機嫌が悪いのよ」

「同じ事の繰り返しに飽きた、とりあえずレミリアがエロゲを実況プレイしてくれば少しは変わるかも」

「『頼みましたよ、レミリアお嬢様』」

「めーさくはなに言ってるのかしらね、私はやらないわよ」

チツ、面白くない

仕方ないからフランと遊ぼうかな、たまには気持ち良い事してあげなきやな

「フラン、ちょっと部屋においで」。気持ち良い事してあげるよ」

「わーい」

フランを部屋に連れ込みその後は……

「わーい」

大変だわ、フランが私のフランが犯される

魔理沙は二日間ショックで外に出れなかった、とか言ってたわね
もし同じような事をフランにされたら、急いで救出しなければ

「中国！！フランが犯される前に救出しなさい！！」

「わかりました！！」

よし、これで何とかフランを助ける事が出来るわね

（五分後）

遅い、全くなにしてんのかしら

咲夜がナイフを研ぎ始めてるじゃない、ちょっと中の様子を聞いて
みましょ

「熊狸さん、そんなに強くされたら・・・ん！！」

「ユウリ・・・もう我慢でき・・・ああ！！」

・・・（＾o＾）ノオワタ、まさか美鈴とフランが既に開発さ
れたなんて

こうなったら最終手段、憂牙を使うしかないわね

「雑用係！！熊狸を止めて来なさい！！」

「わかりました！！熊狸ー！！俺も混ぜろー！！！！」

「黙れ変態！！消えろ！！」

「甘いわ！！身長差考える！！！！うりゃあ」

よし、成功したわね

これでフランを救出でき「レミリアお嬢様避けて下さい！！」う？
って熊狸が飛ばされてきてうわぁ！！

ふう、何とか避けきれたわね

でもこのままだと入り口まで飛んで行きそうね、というかそこまで
アイツに力あったかしら

「もう少しで開いてはいけない門が開かれるところでしたノノ」

美鈴も一緒に投げたのね、だからあんなによく飛んで

「レミリア、ご飯たかりに来たわよ」

霊夢と熊狸がぶつかったわね、頭から

大丈夫かしら、まさか入れ替わりなんて事には・・・

「という事でした」

「いらないところが多すぎるわよ、というか殆どあんたの責任じゃない」

「フランを気持ち良くさせれたから悔いはない、そして反省も後悔もしてない」

「少しはしなさいよ、元に戻る方法も全然見つかってないんだから」

全く、なんでよりによって熊狸なんかと・・・

別に意識してた訳じゃないけど、なんかドキドキするわね

こう、なんていうか変な意味じゃないけど興奮するっていうか

ってなに考えてんのよ、アイツはただの変態よ

毎日毎日「胸揉ませろ」だとか「やらないか」だとか、そんな事ばかり言ってるスケベよ

でもまあ、優しいところはあるけど

前だって私が人里で買い物してた時に荷物を重いのはつか持っていく

れたり、他には神社の掃除を手伝ってくれたりとか

でもそれは別の話で、決してアイツに好意を持ってるとかそんなんじゃない

あぁなに言ってるのよ、これじゃ私がアイツの事気に入ってるみたいじゃない

「大丈夫か？」

「ふえ・・・だ、大丈夫よ！ それより早く元に戻る方法を考える
が見付けるかするわよ」

「おう」

私の顔で男口調はちょっと止めてほしいわね、キャラが魔理沙と被るじゃない

さつき霊夢が顔を横に降ったり下を向いたりしてたけど、いったいなにしてたんだ？

全く分からん、それに俺の姿で女口調って……昔を思い出すよあれが原因なんだよな、今の熊狸があるのは

「全く、世の中どう転ぶか分かったもんじゃねえな」

「分かったらそれは神様よ、全ての能力を持つてるようなね」

全ての能力を持った存在か、レミリアの運命を操る能力に紫の境界を操る能力

この2つだけでも凄いと見えるだろうな……全てを持ってたのなら正しく神だよ

まあそれは誰にも分からないだろうな、例え紫だろうと

「見付からないな、もう諦めて霊夢として生きるか」

「夢想封印ver闇」

「悪魔だから闇ってか！！ しかもいつも以上に痛い辛いキツイ！！」

「よくこんな力普通に使えるわね、疲れが半端ないわ」

霊夢は博麗の巫女だけだけど、その前に人間だからな
一応俺も人間だったよな、最近自分でも忘れかけてるや

「まあ一応悪魔だからな、位は上級らしいし」

「あんたの大親友（笑）は中悪魔程度なのに、世の中理不尽ね」

そう思うなら（笑）はやめてやれ、せめて（馬）にしてやるんだ
酷くなってる気がするのはいのせいだな、というかアイツが悪魔だ
って事さえ忘れてた
紫の暇潰しに種族変えられたんだっただな

「ってか全然見つかんね、こうなったらやっぱ霊夢として」

「抜くわよ？」

「すいません、自分調子こいてますた」

短刀を手にかけられたら謝るしかないだろ、普段なら大丈夫さ
でも今は霊夢の身体です、つまり再生しません

「知らねえぜ」そんな魔術」思いは伝えなきゃ意味がないって」

魔理沙が現れた、しかもどこかで聞いた事あるようなテンポを口ず
さみながら

（どおすんのよ、魔理沙に知られたらなに言われるか分かったもん
じゃないわよ）

（俺が霊夢の真似するからお前は俺の真似をするんだ）

（分かったわ）

この間約一秒、アイコンタクトで

さて、何年も使っていない女口調使いますか

「お霊夢じゃないか、こんなところでなにしてんだ？」

「私の事はどうだって良いでしょ、あんたこそなにやってんのよ」

「私はいつものように本を借りにきたただけだぜ、後ついでに熊狸もな」

魔理沙がおかしな事言い出したな、熊狸をお持ち帰りすると言いな
がら熊狸（霊夢）に近付いていく
やっぱそういう趣味だったのか、とりあえずやめさせよう

「魔理沙、あんたそういう趣味だったのね。もう二度と神社には入れないようにしとくわ」

「違うぜ霊夢、私はただ見て愛でるだけだぜ。良く言うだろ、YE
S ロリータNO タッチって」

やれ、そう霊夢に目で伝える

OK、向こうからそう目で返事が帰ってきた
誰がロリータだ、確かに胸も背もちっこいさ

だからって面と向かってロリータとか言うかお前は

「魔理沙、誰がロリータだって？」

「熊狸、聞き間違いだ。私の耳にもしつかり残ってるわよ」せつかく人が上手く誤魔化そうとしてたところを邪魔するか……！」

「あんた、前に私の羊羹食べたでしょ？　しかも高いやつを2つも……！」

「ナンノコトヤラ」

目を反らすな、霊夢が準備体操初めてるぞ

まあ合図は送るけど

とりあえず押し倒せ、そしてその後はいつも俺がやってるような事をやれ

それ以上の事をやってやるわ、霊夢からそう言われました

「うりゃあ……！」

「ひゃっ／＼どこ触ってんだよ、そこは……あ／＼」

「同性同士の中で生まれる快楽を身を持って味わえ魔理沙、ほれほれ」

見る側としても興奮するなこりゃ、てか霊夢がノリノリになってきたぞ

まあなりきってるのか、それとも普段出来ない事が出来るから面白いのかのどっちかだろうな

……笑顔の自分を見るのってなんか変な感じだな

「ういーす、魔理沙が来るといふから来たぞ」と

「魔理沙なら今熊狸にレズとしての快樂を味わされてるわよ」

「魔理沙をそっちの道に引きずり込むなああ！！！！」

ユウガのとっしん

こうかはいまひとつのようだ

レイムのとびひざげり

こうかはばつぐんだ

ポ。モン風に表してみた、あまり意味はないけど

「さて、続きを」

「いい加減にしろ」

ピコハンで叩かれた、頭を押さえて上目遣いの霊夢

なんだあれ、物凄く抱っこしたい

自分がロリ化した時は分からなかったけど今なら分かる、ギャッ
ブ萌えの威力は最強です

「なにすんだよ、魔理沙」

「良いからその口調止めてくれ、気持ち悪さが半端ない」

「くたばりやがれ」

「ゴフツ！」

鳩尾に入れました、魔理沙が倒れてピクピク動いてる
まあ自業自得だろ

「自業自得ですむか・・・」

人の心を読むなよ、そこまで深い関係じゃないだろ

てか気付いてたのなら言えよ、こっちが恥ずかしいだろ

「で、なんでそうなってんだ？」

「実は（説明中）という事なのよ」

「ククク、アホだなw」

アホはお前だ、また食らう事になるぞ
ほら鳩尾に良いのを二発も、大丈夫か？

「霊夢と熊狸が入れ替わってるなんて・・・そんな・・・」

一人大ダメージ食らってるけど無視、空気にでもなってる
お前が苦しもうが知ったこっちゃない

「さてと、覚悟は良いな霊夢う？」

「なんの覚悟よ」

「それはもちろん、こういう事だ!!」

魔理沙が霊夢にのしかかり押し倒す、中身は霊夢でも身体は熊狸で
すよ魔理沙さん

そしてその後無理矢理服、を・・・破り・・・

「キヤアア！！！！ 止め、ホントに！！ 良く分からないけど怖い！！！！」

「何がだよ、よく分からないぞ」

「良いから退きなさい！！ 熊狸が固まってるのよ！！！！」

熊狸が？ まさかそんな事あるわけ、マジだ
マジで固まってやがる、なんだ？ 私はただ霊夢の服を無理矢理
脱がそうとしただけだぜ？

「魔理沙、ちょっと」

ん？ 憂牙が私の手を引っ張って図書館から出したんだけど、なん
なんだ

「熊狸が固まった原因なんだけどさ・・・」

「知ってるのか？」

「まあ、な」

歯切れ悪いな、なんか言えない事情でもあるのか？

「教えてくれよ」

「簡単に言えば、アイツが能力を作ってしまった原因かも知れない事なんだ」

確か熊狸のは感情を操る能力だったよな、しかも自分で無意識に作ってたって聞いたけど

「魔理沙だけに教えずに私達にも教えて欲しいわね、熊狸が能力を作ってしまったか原因をね」

「霊夢、どうやって戻ったんだよ」

「散らばってる本に躓いて熊狸の頭に頭をぶつけたら戻ったわ」

古典的すぎるだろ、それより私達ってどういう事だ？

「レミリア達も知りたがってたんのよ、熊狸がああなるなんて予想も出来ないから」

「んじゃレミリアの部屋で話すか、その方が集まりやすいしな」

憂牙の提案で私達はレミリアの部屋へ向かった
そこで私は、後悔する事になるとも知らずに

霊夢が熊狸で熊狸が霊夢！？（後書き）

次回、熊狸が能力を作ってしまった原因が明らかに！？

憂牙「魔理沙が変態染みてるのはなぜ・・・」

気のせい気のせい、魔理沙には悪いけどちょっとネガティブになってもらうよ

憂牙「魔理沙ファンに殺されるなよ、せめて半殺しぐらいで」

嫌な事言っなよ、で今回は過去のお話です

普通の女の子だった熊狸がなぜあんな事になってしまったのか、それが明らかになります

憂牙「感想や質問など待ってます、それではまた次回にお会いしましょう」

くオマケく

「もしも前回の後書きでやった嘘予告を本当にやるようになってしまったらどうなると思う?」

「作者が死ぬわね、それと文字数がとんでもない事になりそうね。後は・・・スペカが使われないわね」

「スペカに関しては仕方ないんじゃない? 使うとしても魔理沙や霊夢とかスカーレット姉妹ぐらいじゃない?」

「まあでも、作者が本当にやるとは限らないわね」

「反響があればやるでしょうね、完全シリアスな異変を」

駄文で描写が下手くそなんだぞ、僕は

過去と今を繋ぐ（前書き）

サブタイに深い意味はないと思います

過去と今を繋ぐ

「隣に引っ越してきた又薙です」

「これはこれは、ご丁寧にも。私は虎狼と申します、どうぞお見知りおきを」

私の名前は虎狼熊狸、家は一言で表せば危ない人だらけの家庭簡単に言えばヤクザ一家かな、でそれを知った上で挨拶をしにきた又薙さん

怖くないのかな？ 普通の人なら近よりもしないのに

「ほれ、熊狸。お前さんも挨拶せんか」

「虎狼熊狸です、よろしく」

「可愛い娘さんね、ウチの子と同じぐらいかしらね。憂牙、ちょっと来なさい」

向こうも子供に挨拶させるのかな、それ以外ないか

母親の後ろから顔をひょこっと出した男の子、顔はいい方かな

「ゆゆ憂牙です、よよよろしく」

あらま、緊張してるや

まあ仕方ないか、だって私達の後ろでは怖いお兄さん達が腕組んで仁王立ちしてるし

「あらあら、そんなに怯えなくても大丈夫よ。取って食われたりしないから」

「怖い事を言わないでよ、それより一つ疑問が・・・」

こつち見たという事はまたあの質問なわけ？　なんで私を初めてみた人は毎回同じ質問をするのかな

「なんで少女がこんなに冷静なの？」

「少女じゃない！！　こう見えて12だよ！！！」

「見えねえ！！　ロリコンホイホイにしか見えねえ！！！」

ぶっ飛ばすぞ！！　身長が130近くしかないのを悩んでるのを知ってるのかこいつは、それより兄さん達はなんで頷いてるのかな
もしかして納得してるの、私がロリコンホイホイにしか見えないうて事に納得してるの！！！！

『確かに駅に居たらホイホイされるわ』

「ロリコンヤクザでしたか！！！！？」

「熊狸、今更な事を言っでどうするんじゃ」

今更なの！！！！　お父さんの舎弟の殆どがロリコンだったの！！！！
確かにお母さんも平均より低かったけどさ、まさか家がロリコンの集まりだとは思わなかったよ

「スゲエ家族、YESロリータNOタッチをリアルにしてるんだな・

・・」

もう会いたくない、初めて会った時の印象がこれだよ
だつていきなり家の知りたくもない、出来れば永遠に隠して欲しか
った秘密をさらけ出されたんだから
でもまさかこれからずっと一番近くにいることになるとは思わなか
ったさ

「とまあ、これが出会いな訳よ」

「最初は普通の女の子だったのね」

「というか女口調の熊狸ってなんか・・・アレだな」

本人いないから言えるんだろうな、居たら無理矢理胸を揉まれた後
は十二されるか分からないからな

「続きOK?」

『OK』

あれから二、三年経ったある日の事

私は体育倉庫に呼ばれた、行かないや家の事をクソ真面目な教師にある事ない事言いふらすって言われたから仕方なく来たけどそれは間違いだったしデマだった

「本当に来るとはバカな女だよな」

「ホントホント、これから可哀想な目に合わされるのによ」

あゝ、つまりこれってアニメや漫画でよくあったりする

最近アイツ調子に乗ってそうだからやつちおうぜ、的なやつだよ
私は調子に乗ってもいないしただ普通にしていただけだよ、なのになんで狙われたのかな

「んじゃさっそく」

「うりゃー!!」

「って、まだ強気でいんのかよ。まあいいか、どうせもうすぐ俺らを求めるようになるんだからなあ」

誰があんたらなんか求めるものですか、そんな事になったら悪魔に

でも魂を売って殺すわ

「またこっちに視点が戻ったわよ、さっさと続きを言いなさいよ」

「楽しそうだな、原因でもない人の過去聞いて」

「そりゃあ、上手く行けば熊狸の弱味を握れ……ってなんでいるのよ！……！」

お前こそなんで楽しそうに聞いてんだよ

「たく、パチュリーが「意識が戻ったらレミイの部屋にでも行きなさい」なんて言うから来てみたら人の過去をべらべらを喋ってるアホはいるしょ

「固まってた原因は無理矢理犯しかけた事を思い出したんじゃないのかよ」

「その後そいつら病院送りにされただろ、それに俺が固まっていた原因は熱にやられたんだよ」

『は？』

「だから、あまりの暑さに頭がやられて気を失ってたの」

「立ったまま目を開けた状態で？」

信じてないなこりゃ、世の中にや死んでも立ってた人間がいるってのに

「ああそつだよ、それと能力の原因は他にあるし喋る気はない」

「ちえ、つまんね私は帰るぜ」

「私も帰るわね」

霊夢と魔理沙がログアウトしました

「あなたも所詮人間ね、熱に負けるなんて」

「日光浴させて欲しいなら最初からそう言えよ、うー」

「お姉さまじゃなくてうー 様も素直じゃないね」

「うー お嬢様も、少しは素直に喜べば良いのに」

「みんなして私をうー 呼ばわりしないで……！ 私はレミリアよ……！ それにフランは普通にお姉さまで良いじゃない……！！」

激しいツツコミだなあ、俺が倒れたと聞いて紅茶に砂糖と間違えて塩を入れるぐらい動揺してた癖に

（パチュリーから聞いた）

それにしてもさつきから咲夜の目が優しい、人が強姦されかけたの知ったからか？

もしそうだったらなんか嫌だな、いつもみたいに女の敵を見る目で居てくれた方が楽なんだけどな

「まあ何にせよ、熊狸が復活して良かったな！」

「そうね、復活しなかったらお嬢様方が泣いてたかも知れないわね」

「私は泣かないわよ、ただ嘲笑うだけね」

本当に嘲笑ったら化けて枕元に出てやるよ、それが枕をひっくり返して悪い現実を見せてやる

「熊狸が復活しなかったら、また地下に閉じ込められてたかも」

「………そんな事はないわよ」

考えてから言うなよ、フランもそこまで落ちてないからな

「そんなこんなで夜」

疲れた、あの後フランの相手してパチュリーの実験の手伝いして咲夜のナイフをひたすら避けたからな

というかいつもの倍ナイフ投げるのは勘弁してください、しかもそ

の理由が「無駄な心配をかけた罰よ」って酷すぎないか
まあ心配してくれてたなら嬉しいけどさ

「もう考えんのやめて寝よ、出ないと余計色々考えてしまうわ」

「みんな心配してたんだぞ、お前が倒れて。魔理沙なんか自分が悪いのか？ って問い詰めてくるし、フランは死んでないよねって泣きながら言うしよ」

「ったく、人が考えんのやめようとしたんだからそんな話を持ち出すなよ」

「で、実際の理由は何だ？ 熱に当てられただけじゃ瞳孔開いた状態で固まったりしないだろ」

気付いてたのかよ、変なところで勘が鋭いな

まあバレてるならさっさと白状するか、一応俺の事はわかってるしな

「お前が言ってたやつ以外にももう一回合ったんだよ、強姦がな」

「それじゃそれでか？」

「服はナイフで切られて肌を丸出しにされたし、無理矢理犯されそうにもなったさ。でもそんな時に枷が外れた気がしてな、気付いたら自分の周りは赤く血に染まってた……勿論自分もな」

「テレビにも流れてなかったぞ、そんな事」

「そりゃそうさ、場所は翌日には壊されるビルの奥だからな。それから家に帰っても時々衝動を抑えきれなくなっただけで誰かを短刀で傷付

けてた、多分それが原因で能力を作ったんだろうな」

「・・・・・・・・・・」

静かだな、こういう時コイツなら何か一言言っただけだな

「スー・・・・」

寝てやがったよ、まあ良いか

聞いて特する内容でもないしな、それに一番心配してたのは多分コイツだろうしな

互いに素直じゃないから息も合っし、同じ部屋で寝てても何も起きない

ある意味一番信用できるしな・・・・・・・・これって告白っぽい事になっ
てないよな

「まあ寝るか・・・・・・・・ZZZZ」

「熊狸、あなたは強いわね。他と深く接する事を止めれば、また鎖

で封じれば近寄る人は減る。でもそれは逃げでしかない、それはあなたも知ってるでしょ？」

「そうね、確かに私みたいに感情を表に出さなければそこまで近寄る人間は居なくなるわ。でも人間は脆い、誰かが支えてないとすぐに砕け散るわ」

「そう、人は孤独には生きれない。誰か支えが必要なのよ、彼女にとって彼がそう。私には藍がいるわ、あなたにもこの館の住人が今の支えじゃないの」

「そうね、人も妖怪も支えがなければ生きていけないわね。力が強ければ余計必要ね」

月の光に照らされた紅い洋館の中で賢者と吸血鬼の会話である

過去と今を繋ぐ（後書き）

熊狸の男口調は「舐められないように」という意味で使い始めたらいつの間にか癖になって今のような状態になりました、女好きの原因は本文を読んで分かるように男に強姦されかかったからです
何時の日か男嫌いの女好きになってしまったんです、憂牙や霖之助みたいに害のない男だとわかってたら普通だけどそれ以外だと睨んで余計口が悪くなります

それと最後のアレはそんなに気にしないで下さい、伏線とかじゃないから

ただ厨二病が発病しただけですから、作者は患者ですから

それではまた次回で会いましょう

ユニーク20000PV3000突破記念（前書き）

本編に全く関係のないお悩み相談です、熊狸が悩める人（？）達の
悩みを聞きます

毎回ながらグダグダです、それともう先に言っときます
ごめんなさい、ヤリタカッタダケーです

ユニーク20000PV3000突破記念

どうも、主人公の虎狼熊狸です

今回は悩みを抱える幻想郷の方々の相談を聞いていきたいと思ひます、まあ要するにお悩み相談です

挨拶はこころ辺にして初めましょうか、熊狸のお悩み相談室

一人目

「最初の方どうぞ」

「最近信仰が少なくなってきたて私の神社の家計が大変な事になります、どうしたらいいんでしょうか」

信仰ねえ、正直どうでもいいけど一応悩みだし案を出しとくか

「薄い本を一冊450円ぐらいで売ればどうにかなると思ひます、女性客を狙うなら薔薇とか」

「書けませんし恥ずかしいです」

「なら男の娘受け女性攻めとか、他には官能小説みたいにするとか」

「……やってみます、あんな酷い生活するぐらいならガチレス書いた方がマシです」

そう言つて出ていった類似、てか失礼だろ

目の前にリアルな百合女がいるのにガチレス書いた方がマシとか、少しは自重してフランクの頬をプニプニしところかな

気を取り直して次行くか

く二人目く

「次どうぞ」

「出番が待っても来ないんだけど、どうなってるのよ」

「ニートネタと喧嘩ネタぐらいしか作者が思い浮かばないからだ、後出たいなら後書きにでも顔を出せ」

口調が戻った事にはツツコミ入れなくてくれよ、自分で気持ち悪くなつて来たから戻しただけだ

「わかったわ、それと不老不死を殺すにはどうしたら・・・」

「お前の能力使え、または従者に頼め」

「なげやりな気もするけど、まあ作者を半殺しにする事は確定したわね」

メタ発言連発だな、というか半殺しにしたら余計出番減る可能性があるぞ

どこかの誰かは主人公その二なのに出番が少ない上に空気なんだからよ

く三人目く

「三番手出てこい」

「カリスマブレイクばかりで嫌になるわ」

シリアス苦手な作者だからな、カリスマタイムなんてなかなか出ないだろうな

「異変が起こるまで待て、それが嘘予告を本当にやれ」

「敵の能力が咲夜と被るわよ」

「時を止めたり進めたり戻したりするような敵を考えてたから大丈夫だ」

「厨二病乙、とりあえず異変が起きるまで待つてみるわ」

やるやる詐欺のハズが本当にやる事になってしまったという例があるからな、もしかしたらマジでやる羽目になるかもな
さて、類似に蓬萊二ートにうー か
次は誰が来るのか全く分からないな

く四人目く

「サモン」

「Aクラス戦で負けた敗因を教えて下さい」

「代表が復習してなかったからだ、悩みは終わったな帰れ」

「ボケただけなのにこの仕打ち!？」

ボケるなよ、今回は出来るだけ真面目にやりたいんだ

「で、悩みは？　ないとか言ったらEX化するからな」

「最近藍が私に冷たいのよ、ちよつと橙に保健体育の授業しただけなのに」

「それが原因だ、焼き土下座で謝ってこい」

酷いとか鬼とか罵倒してるが無視、娘に変な事されて怒らない親はいないからな

ある程度無視したら涙目になりながら帰っていった、ヤバい正直可愛く思えた

これがギャップか

「まともなの来い」

く五人目く（後にまた登場）

「彼女が出来ません、どうしたら良いでしょうか？」

「スペックが残念だからだ、顔は良いけど性格が残念。簡単に言えば劣化版キー君だからだ」

「チクシヨオオオ！！」

走って帰りやがった、実際お前よりこつちの方が色々残念なんだぞ身長低いし胸は無いし変態だし、って余計泣きたくなるわでも続けなきゃならないのがお悩み相談室です

く六人目く

「可愛い娘力モン」

「お金がない、円もドルも子供銀行券すらもない。神は私に試練を与えているの？ 守矢神社という新たな神社が現れて私の家計はより厳しくなった、そしてついに食べ物底を尽き雑草生活になった。揚げる事も出来ない、茹でる事も出来ない、生で食べるしか方法はない……」

「ストー……ップ！！！！ 金を作る方法なら教えてやるからネガティブオーラを噴出するな！！！！」

「本当！！ 今すぐ頼むわよ！！ でないとまた帰って食べれる雑草を探す作業に戻らないといけない」

三日以上続いてるなこりゃ、というかそんなに厳しいなら集りに行けよ

少しぐらいなら恵んでくれるよ、誰かみたいに死ぬまで借りまくってないんだからさ

「着れなくなった巫女服を売ったり、なんか珍しい物を見付けたら香霖堂で売り払うとかしたら良いんじゃないか？」

「そうか、その手があったわね。ありがとう、今からやってくるわ！！！！」

はやっ！！ 文屋も驚く速さで帰って行っただよ、まあマニアには高く売れるから良いかんじゃ次へゴー

く七人目く

「嫁」

「誰がだ、いつ誰が誰の嫁になったんだよ」

今日魔理沙が熊狸の嫁になりました

「で、悩みはなんだ？ 霊夢が襲いに来たのか？」

「んな訳あるか、最近フランが変態的な目で私を見るんだけど・・・」

「

「ゴメン、俺の調教の成果」

「マスタースパーク！！ マスタースパーク！！ マスタースパーク！！」

マスパ三連発は勘弁だぜ、それにしてもフランが魔理沙をそんな目で見てたなんてな
やり過ぎたか、てかなん事した覚えはないぞ
っー事は冗談かよ

「で、冗談は置いといて悩みは？」

「バレてたか、最近出番少なk」

お前、それパチュリーに言ってみろ
半殺しにされるぞ、後小悪魔にも

「主人公その二なんて出番が無いに近いぞ、シリアスもどきに入ったら全く無いんだぞ。それでも出番が無いとお前は言えるのか？」

「すまなかった、出番が少しでもあるという事は幸せなんだな」

そう言つて帰つた魔理沙、次で最後だしさつさと呼ぼ

く八人目く（五人目の人）

「没案」

「誰がじゃああああ！！！！！！！！」

五月蠅いのが出た、てか最後は憂牙かよ

三秒で終わらすか、とつと寝たい

「実は「はい解散く、お疲れ様く」いやく、お疲れお疲れ。この後
ミステアの屋台で……つて違つたろ！！！！ もう少しで帰り
そうになつただろ！！！！ 今までみたいに悩みを聞いてくれよ！！
！」

「んじゃ言え、三行で」

「デバン・スク・ナイツ」

ナイフを全力で避けとけアホ、そして出番ばかり言うんじゃねえよ
というか書かれてないだけで他にも大量に来たからな、その殆どが
「出番をくれ」だつただけだな

そついうのは主人公じゃなくて作者に言え

「聞き飽きた、他の悩みがあつたら言え」

「彼女が出来ない、フラグが立たない、アホキャラが定着してる」

「残念だからだ、以上」

「酷すぎやしませんかねその回答！！！！ もう少しオブライトに包んで言ってくれても良いだろ！！！！？」

五月蠅いな、仕方ないからオブライトに包んで言つてやるか

「全部作者が悪い、後野郎がいつの間にかフラグを立てる物より某生徒会副会長みたいな奴の方が良いらしい」

「つまり頑張れば出来ると、そういう事だな」

「まあな、んじゃ本当に終了だ。今日はお前の奢りで屋台な」

「ちょ、先に行くなよ！！」

今日はホントに疲れた、普段やらない事やったしな
まあアイツの金だし、大量に食って疲れを忘れさせるか

く屋台く

「金がなくなりそうだ……orz」

「気にすんなって、な？　今日は飲んで食おうや／＼」

この酔っ払いが、てかミスターも「良い飲みっぷりだねえ」とか言
ってないで止めてくれよ

マジで金欠になるって、明日ゆかりんに頼んで俺の貯金降ろすしか
ないじゃないか

「八目鰻三つと生おかわりー」

「ハイハイ、ちょっと待つてね」

「マジでやめろおおお！！　金がもう少ししかないんだよお！
！！　お願いだからこれ以上頼まないでくれよお」

これ以上頼まれたら本気でヤバいから、てか熊狸お前これで何杯目だ
確か五杯目だろ、明日二日酔いで物凄い事になるぞ

「もうそろそろ止めときな、明日動けなくなっちゃうよ」

「むう、良いもん。明日は一日寝とくから今日はたんと飲んで嫌
な事すっぱり忘れりゅんだあい」

駄目だ、完全に酔っ払ってやがる

呂律も回らなくなって来たし、ここら辺でお開きにするか

「勘定頼むわ」

「五万六千だよ」

「ぴったりにしかないや、畜生」

「まいどー」

取り敢えず幼児退行してる少女を連れて帰るか

「帰るぞ、美鈴が心配しだすから」

「ハ―イ……………ZZZZ」

「…………おぶるしかないわな、ったく飲んで酔っ払ったら幼児退行するくせに五杯も飲むから」

熊狸をおんぶして屋台を後にする、なんか兄妹みたいだな

普段はあれだけバカだの貧乳だの言っても結局二人一緒だもんな、
ってちよつと待て

よく考えたらカップルみたいじゃね？　口で喧嘩しようが結局は二人一緒にいるってさ、気のせいかな？

まあいいか、家で下着姿だっても何の文句言ってなかったし
というより口さえ開かなきゃレベルの高い女と一つ屋根の下に居ながら何もしてないんだよな、した事と言えばコイツの胸見てバカにしたのと俺の息子をバカにされたぐらいだもんな

そんな事を考えながら紅魔館に帰っていった

翌日、熊狸が二日酔いで苦しんだのは言うまでもない

ユニーク20000PV3000突破記念（後書き）

酔っ払い熊狸はただの少女です、酒にはそこそこ強いけど気分によつては一杯で酔う事もあります

輝夜「出番」

レミリア「カリスマ」

小悪魔「出番下さい」

美鈴「安。先生、出番が欲しいです」

無視）だいたい書かなかった部分は上の四人と同じ事を言ってたので省きました

今度はPVが5000越えたらやろうと思います、今度はアンケートでも取ってみようかな

普段攻めてる人が攻められると急に弱くなるよな・・・OTZ（前書き）

何時も以上にグダグダな上に内容が変態染みたものしかない・・・

普段攻めてる人が攻められると急に弱くなるよな・・・OTZ

「ユウリい・・・もうダメ・・・//」

「そんな、とこ・・・触るんじゃ・・・ない・・・//」

熊狸×スカーレット姉妹を望んでた皆さんこんにちは、虎狼熊狸です
今日はいきなりねちょシーンから始まったけどこれにはちゃんと理由があるからな、というわけでVTRスタート

「今日も紅茶が美味しいわね」

「そうだね、お姉さま」

ああ、スカーレット姉妹は今日も可愛いなあ
食べちゃいたいぐらいに、うへへ

「そうですか、隠し味を入れて正解でしたね」

「咲夜さん？ いったい何を入れたんですか？」

「熊狸の部屋の引き出しの奥に置いてあった瓶よ」

．．．．部屋の引き出しの奥に置いてあった瓶？ それってまさか
 と思うけど

「なあ、その瓶に『夜の薬』とか書いた紙貼られてなかったか？」

「ええ、貼られてたわよ」

「アホかあああ！！！！！！！！！」

「な、私はただ欲望に素直になっただけで他にはなにも……」

欲望に素直になるな、あんたの欲望は俺以上に危険なんだからな
こっちは能力使用して抑えてるから大丈夫だけど、それでも自分で
精一杯だからな

「熊狸が使う夜の薬って事は……」

「身体中が熱くなるあの……／＼」

「バレないように隠してたのに」

「まず所持するな」

スカーレット姉妹 + α に突っ込まれた、でも仕方ないだろ？
最近欲求不満なんだから、野郎にはあまり興味ないし
つかあつたら少しは女らしくしてると思う、ずーと前にＴシャツと
ロングスカート着てみたけどなんか違和感があったからやめたし

「で、あの二人どうするんだ？」

「私／俺が満足させます／てくる」

「じゃんけんで勝った方が満足させてこい」

「じゃんけんぼん！！！！」

パー
↑熊狸

グー
↑咲夜

「んじゃ行ってくるわ」

という事です、つと説明してる間に終わったな

「はあ・・・はあ・・・／／／」

半裸のロリが顔を赤らめている光景は最高だね、決して全裸にはしない

なぜなら、着てる方がエロイからだ！！！！

「貴女ねえ、もう少し手加減、しなさい」

「変なところで止めたらスイッチが入ったまんまになって余計危なくなるぞ」

「「なんで知ってんの……」」

「それは、秘密です」

人差し指を唇に近付けて某プリースト風に言ってみましたが、レミリアはなんか苛立っている様子で

「フラン、やられっぱなしって言うのはちょっとアレよね？」

「そうだね、という事で……」

え、ちょま、まさか攻めにくる気ですか……！

「「ここからはスカーレットのターンだ……」」

ギヤアース……！ フラン、スポンをレーヴァテインで切るな……！
レミリアは胸を、あ……触る……なあ／＼
首筋は弱いから、やめ……舐め、ちゃ……ダメエ……／＼／

（少々お待ち下さい）

「／／／」

乱された、まさかスカーレット姉妹が攻めに来るなんて予想外だった
しかも何気に人の弱いところを見付けて攻めるし／＼

「ふう、スッキリした」

「こっちはしてない・・・」

「お嬢様、もう薬の効果は切れまし・・・失礼しました」

確認しようと部屋に入ってきた咲夜の目に映ったのは、ズボンを引き裂かれて下着が丸見えで上は胸の上辺りまでＴシャツを巻かれてサラシを外されて胸が丸見えの熊狸

それに加えて人のサラシを手にとってりレミリアと、腰に乗っているフラン

そして三人共顔が微妙に赤い、真つ最中だと思っても仕方ないよな

「咲夜！！ 誤解よ、私達が熊狸に犯されてたのよ！！！」

「スカーレットのターン、あつたよな・・・？」

「お嬢様とイチャラブ・・・なんて裏山」

レミリアが後ろで暴れだしそうだし説明しようか

「実際はかくかくしかじかというわけで・・・」

「成る程、つまり仕返しをされたという訳ね・・・」

あれ、咲夜さん？ なんでそんな良い顔してるんですか？

頭の中で警報が鳴ってるんですけど逃げろ！！　今すぐ逃げろ！！
って鳴ってるんですけど

「レミリアお嬢様、熊狸の弱点は「首筋よ」「了解」

「ちょ、ま待つて！　今やられたら・・・ひゃん！／／」

「可愛い声で鳴くのね・・・ふふ」

「舐めちゃらめえ・・・／／／」

～五分後～

「はぁ・・・はぁ・・・」

「あなたが女の子だって良くわかったわ」

元から女だ、というかあんな声出させるなよ恥ずかしい・・・

「で、人を襲いに来ただけか？」

「お嬢様を魔の手から救いに来ました」

「咲夜も熊狸と変わらないような気がするのは気のせいよね、確か
瀟洒で完璧なパーフェクトメイドなんだから」

紳士的な意味でもパーフェクトだろ、ロリコンで夜の薬飲ませるし
とか思ってみる、口には絶対に出さない
出したら串刺しは確定だから

「紳士的な意味でもパーフェクトだよな」

フランちゃあああああん！！！！ お姉さんが口に出さなかった爆弾をなんで君が投下させるかな！？

しかも紳士の意味教えたのお姉さんだけど！！！ グングニルとナイフの雨に打たれると君は言っているのかなあ！！？

「熊狸、ちよつとこつちへ」

「イイイイヤあああ！！！！」

「グングニル出血大サービsver！！！！」

「今宵は余計に刺します！！！！」

威力の低いグングニルを三桁近く投げられナイフを四桁近く投げられ、それを死ぬ気で避ける

が結果的に串刺しにはなっちゃいました、時止められたら誰も避けられないよ

気が付いたら全身にナイフ刺さってるし痛みに耐えてたらグングニルは飛んでくるし
これってさ……

「拷問だよな？ 軽く猟奇的な事されてるよね？」

「なら能力使って殺意を下げれば良かったじゃない」

やったよ、でもすぐに膨れ上がったんだよ

お前らそこまで殺す気か！？ って叫びたいぐらいだったわ、というかなんでフランが自分で覚えたと思えないのよ

まあ確かにソツチ系の大半は俺だけださ・・・

「熊狸大丈夫？」

「大丈夫じゃない」

「喋る元気はまだあるみたいね・・・チツ（もう少し強くすれば良かったか」

「「おもいつきり、聞こえてんだけど・・・」」

「大丈夫よ、熊狸以外にはしないから」

大丈夫じゃぬええええ！！！！　なに考えてんだこの五百才児は！？
いい加減諦めろよ、フランが俺になついたのが未だに嫌なのか！
！！

「「当たり前じゃない、フランが女の子大好きなレズっ子になつたら困るじゃない」

「人の心読むな！！　それと俺はフランをそんな風にする気はない
！！！！」

「でも最近フランが中国を見ながら手をワキワキ動かしてるけど？」

マジで？　まさかフランがそこまで影響を受けてるなんてビックリ
だな、こりゃあ少しは自重しないとマズイかもな・・・

「さて、俺は自分の部屋に帰って寝るかな」

「逃げるな逃げるな、とりあえずフ란の教育から性教育だけ外しなさい」

「あいよ、んじゃサラバー」

「本当に帰りましたね」

「そうね、私も少し寝るわね。なんか疲れが酷いのよ」

「私も……zzz」

「わかりました、それでは良い夢を」

普段攻めてる人が攻められると急に弱くなるよな・・・OTZ（後書き）

燃え尽きた、燃え尽きたよ・・・真っ白にな

ユウリ「ならまずは今回の内容だけど・・・あまりにもやりすぎだろ」

妄想が止まらなかった、後悔はしてるが反省はしてない

レミイ「いやしなさいよ、あまりにも酷すぎるでしょ」

咲夜「私の扱いも納得がいきません、なぜお嬢様じゃなくて熊狸なんですか」

あえて言おう、僕は変態であると！！

「・・・知ってる」

酷い、でまあなんで今回こんな内容になったかというと

「あれ、熊狸つて女だっけ？ 男だっけ？」って読み直してる内に思ってた書いてたらこうなった

咲夜「つまり女らしさを出したかったと」

うん

レミイ「まあ憂牙がマジ告白したところで笑い話で終わりそうだしね」

ユウリ「確かにアイツがもし本気で告白してきても悪い冗談だと思っちゃうからな」

可哀想だな、まあ憂牙の一部はリアルの自分が元だから仕方ないけど

「・・・納得」

で、君達は最終的に何が言いたいんだい？

咲夜「R指定内容だけで」

レミイ「一話を」

ユウリ「作るなアホ」

仕方ないなあ、でももし「いいぞもつとやれ」という感想とか来た

ら書くから

しかも脳内妄想フル活用して

レミィ「これと呼んでるあなた、絶対にそんな感想書くんじゃないわよ！！！」 絶対によ！！！」

さて、今回はここまでと致しましょう

感想や意見、アドバイスをありましたら気軽に優しく言って下さい
では次回予告を少し

幼女見付けた

その幼女の種族は。。。だった

熊狸大喜び

はい、これだけです

それではまた次回で会いましょう

幼女発見とお持ち帰り、となにか（前書き）

次回予告通りなのは前半だけ、後半は全く違います
あと、視点切り替えがちょっと多いです

幼女発見とお持ち帰り、となにか

「気分転換に外をぶらついてただけなのに何故幼女に好かれてんだ？」

はい、皆さんこんにちは熊狸です

現在外をぶらついて何か幼女が大人に囲まれてたから助けたら何故か好かれました、決して主人公みたいに「お前らの相手は俺だ！」

！ その子から離れる」みたいな事は言ってません

ただ普通に「妖怪と子を作るのは良いけど出来たらちゃんと面倒みるよ、ロリコンども」と言っただけです

まあその後は向こうがリアルファイトを申し込んで来たから逆に倒した、そしたら妖怪幼女がベツタリと

「なんでこうなったマジで、てかお嬢ちゃん名前は？ 種族は、親は」

「名前はリルだよ、種族は・・・なんだっけ？ 親は知らない」

アホの子だ、というか種族忘れんなよ

仕方ない、妖怪に詳しそうな奴が集まる場所に行くか

少女移動中・・・

「という訳でリルの種族教えてちょ」

「嫌よ、帰りなさい」

「野口二枚出そ」ちよつと待つてなさい、今調べるから」

安いな霊夢、五百円二枚でもいけたかもな
そしてリルをじっくり見た後

「幻想郷には少ない種類だとは分かったけど、それ以外は分からなかったわ」

「仕方ないか、ほい報酬野口二枚」

「これで三ヶ月はまともなご飯が食べれるわ」

一ヶ月一万円生活とか無人島生活やらしてみたいな、金が尽きるか
あまりまくるか気になる

「ゆかりーん、＼ユツカリーンノ」

「呼ばれて飛び出て霊夢の胸へ」

「」「変態がいる……」「」

「熊狸にだけは言われたくないわよ、でその子の種族を教えれば良いのよね」

まだ何も言つてないけど、まあそうなんだけどさ
なんか物足りないのはなんでだ

「その子の種族は……淫魔よ」

「同類だったか、ならお持ち帰りして性欲の捌け口に・・・」

「半分冗談よ、本当はハーフよ」

ハーフ？ 妖夢や霖之助みたいな奴か、でもならなんで俺になついでんだ

「まあ多分だけど、貴女の力とか性欲とか性格に惹かれたんじゃないの？」

「お姉ちゃんと一緒」

「鼻血が出そうだ・・・それよりどうすんだよ、これじゃ帰れないぞ」

「大丈夫よ、淫魔は性的行為で力を得たり他の欲求を満足させたり出来るから貴女の相手には十分よ」

つまりレミリア達が被害に合う確率が減るからリルを住まわすのも許可してくれるっていう事か

「まあ、一応本人に聞いてみるわ。リル、行くぞ」

「はい、バイバーイお姉ちゃん達」

「癒しね」

「そうかしらね、実際は私みたいな奴かも知れないわよ」

「何か隠してるわね」

「一時間ぐらいしたら紅魔館に行きなさい、そしたら分かるわ」

そして帰って来ました紅魔館、はてさてレミリアお嬢様は何て言うか

「OK、私達への被害が減るのなら淫魔だろうが魔王だろうが許可するわよ」

あっさり許可されました、という事でまずは部屋に連れて行こう

「遅かったn・・・」

「誘拐じゃないからな、なつかれたから連れて帰ってきただけからな。本人の許可も得てるしな」

「まだ何も言っていないのに・・・」

お前が言いそうな事ぐらい予想つくわ、それからちよっとリルの事を説明して・・・

「悪魔に吸血鬼に魔女に中国妖怪、更には淫魔と来たか。いったいレミリアは何を目指したんだ・・・」

説明し終えた後にそんな事を呟いてた憂牙、それは俺も知りたい
まあ淫魔って事はサキュバスとかと同じって考えて良いんだよな、
うん幼女だけど18は越えてるから大丈夫だ

「さあて、リルの味を堪能しようかね」

「またか、まあ頑張れ少女よ」

憂牙がログアウトしました、
とそれではレッツプレイ♪

幼女にまで手を出すとは、流石熊狸
ある意味尊敬するわ、というかアイツは多分性別間違えて産まれた
だろ

「バカ面して何ぶつくさ言ってるの？」

「フランちゃんは最近とことん熊狸に似てきやがったなコノヤロー」

「そついやお姉様が呼んでたよ」

いきなり話題を変えるな、でもレミリアか

いったい何の用事だ？ 大抵雑用でしか呼ばれた事がないけど

「で、なにようで？」

「熊狸が連れて来た淫魔についてよ、アレとはあまりやらせない方が良くもしいのないのよ」

「時既に遅し、という言葉をご存知ですかあなたは・・・」

「今は反省してるわ、自分の身の安全を最優先したのが間違いだと気付かされたわ」

「いったい誰に気付かされたよ、まあ予想はつくけどさ」

「とりあえず簡単にあの淫魔について教えるわ、アレはそういった行為をする事で力を得るのは貴方でもわかってるでしょ？ でもやり過ぎると相手にも影響を与えてしまうらしいのよ」

「ちょい待ち、つまりあのリルちゃんと熊狸を一緒にしておくって危ないって事だよな」

「ええそうよ。それに前に熊狸がパチエに他に何か変化はないか調べてもらった結果、ルーミアと同じような物が眠ってる事がわかってるわ・・・」

ルーミアと同じって、まさかEX化か？ もしそれが本当ならマジでヤバくないか

確か強力過ぎるが故にリボンに見立てた札を頭に付けられたとかなんとかって設定だったよな、それが熊狸にもあるっちゅう事は・・・

「今すぐ止めて来ます!!」

「お嬢様、憂牙一人だともしもの場合対処出来ない可能性があるの
で私も行きます」

「ええ、頼んだわ」

「さあ、早く止めに行くわよ!」

「分かりました!!」

どうか神様仏様邪神様魔王様悪霊様、最悪の結果が待ってないよう
お願いします

「わざと、教えなかったわね。淫魔の事を知ってる事も、そして貴
女がアレに手を貸した事も」

「失礼な言い方ね、でも確かにその通りよ。私はリルという名の淫
魔に手を貸したわ、性欲と内に強い力を持つてる者を探してたから
見つけ方を教えたただけだね」

「どういつつもり？ 熊狸が幻想郷に来るように仕掛けたり、悪魔としての本能を目覚めさせようとしたり」

「私がミスを犯さなくても何れ彼女は来ることになってたわよ、それに私は別に本能を目覚めさせようとした覚えはないわ」

相変わらず胡散臭い奴、いきなり熊狸が連れて来た淫魔の説明をしに来たとか言って説明し始め話し終えた後に「さっき話した内容は熊狸には伝えていないわ」とかほざく

そして私が憂牙を呼び出し二人を引き離すよう命令し咲夜と一緒に止めに行かすのを影から覗いてた

「本当に何が目的なのよ、まさか紅魔館の破壊とか言っんじゃないでしょうね」

「ただ興味が沸いたのよ、EXと呼ばれる状態の熊狸がどれ程の者なのかね。それに危なくなったら私が相手をするから安心しなさい」

「そう、それじゃ貴女も早く向かった方が良くかもしれないわね・
・既に手遅れかも知れないけど」

なにも言わずにスキマを使って移動したわね、私もそろそろ動こうかしら

悪魔としての熊狸がどんなものか見物しにね

幼女発見とお持ち帰り、となにか（後書き）

新キャラ登場、淫魔のリルちゃん

憂牙が更に空気に、こりゃ空気同盟に入る日も近いか

ユウガ「やめろ、それと次回殆どの確率でEX化するだろ」
するよ、じゃなかったら紫とか出さないし

ユウガ「まあそうだよなって違う！！ 最後のあの会話はなんだ！
」

見たまんま、以上

ではまた次回にて会いましょう
アディオース

狂気のEX、狂い出した少女（前書き）

憂牙は真剣な時にはさん付けで人を呼びます

狂気のEX、狂い出した少女

あれ、どこだ此処

周りが暗いんですけど、リルの甘い吐息も聞こえないし
まさか紫か！！ また紫が絡んでるのか！！

——虎狼、また何かやらかしたそうだな——

・・・幻聴だよな、此処は幻想郷だぞ
なのになんであの教師の声が聞こえるんだよ

——カンニングしてないだろうな——

誰がするか、お前の下手な説明より専門書とか読んでる方が解りや
すくて頭に入るんだよ

「・・・チツ、誰がこんな悪趣味な嫌がらせしてんだよ。今すぐに
でも——してえ・・・」

「開けるわよ」

「はい」

今俺と咲夜さんは熊狸の部屋の前にいる、俺が扉を開けようとした

時に咲夜さんが「嫌な予感がするわ、変わりなさい。貴方じゃいきなり攻撃されたら対応出来ないでしょ」と言って扉から俺を離し咲夜さんが扉を開けようとしている
そして今部屋の扉が開かれた

「遅かったわねえ、もう終わっちゃったわよ」

「幼女が成人してるじゃねえか、そっちが本当の姿ってか？」

「ええそうよ、どう？　美しいでしょう」

確かにパツと見たら美人だ、長い黒髪に長身の女性しかもボンキュッポンだしな

だけどそれは淫魔が人を惑わす為の姿、所詮妖怪

「彼女を返さない、でないと生きては帰れないわよ」

「怖いわねえ、それに私は純粋な淫魔じゃなくてハーフよ？」

「人の血を持っていようと関係ないわ」

「なにか勘違いしてるようね、私の中に流れてるのは人じゃなく悪魔よ。メイドさんの主人と同じ悪魔と淫魔の血が流れてるのよ」

吸血鬼と淫魔のハーフかよ、良く出来たもんだ

だが両方共に悪魔である事には違いないんだよな、それだけでも産まれる可能性は僅かだが上がる

その僅かが当たったっていう事が

「私がそこで寝てる熊狸を返せと言ってるのが聞こえないのかしら」

「あなたはハエが何を喋ってるか理解出来る？ 出来ないでしょ、
そういう意味よ」

「だったら死になさい、時よ止まれ……………そして時は動き出
す」

ザ・ワールド、咲夜さんが能力を使つた
その証拠にリルちゃんにナイフが襲い掛かる

「ッ、面白い能力ね。でも、二度目は食らってあげないわよ」

「そう、少しは楽しめそうね」

……………俺って要らなくね？

——ヤクザの娘って言っても所詮は女だな、手を縛って吊るされり
やただの女の子だ——

「いい加減にしろよ、人が思い出したくもない過去を無理矢理見せ
やがって……………」

止めろ、それ以上見せないでくれ

俺が・・・私が壊れる、嫌だ壊れたくない

[illegible]

いつの間にかそんな言葉を言っていた気がする、意識が朦朧としてたからあまり覚えてない

そして、次の記憶で意識が途切れた・・・

——どうだ？ 知らねえ男にじつくりと視られる気分は、でもまだ
終わりじゃねえぞ。次からが本番だ、もう予想ぐらい出来てるだろ
う？ 俺達に犯されるんだよ、これからじつくりとなあ——

「イヤダ、イヤダイヤダイヤダイヤダイヤダコワイコワイコワイコワイコワイコワイコワイコワイ」

自分じゃないなにかが、自分だけと違う

そんなにかが来る、嫌だ怖い

拒絶されるのが怖い、知らない男に身体を見られるのが怖い、虎狼熊狸じゃなくてヤクザの娘として認識されるのが嫌だ、誰にも信じてもらえないのが嫌だ

モウコワシチャエ、コンナクダラナイジンセイナンテ・・・コワシチャエバイインダ・・・ゼンプ、シャベラナイニンギョウダケニシテシマエバイインダ・・・

「!? なに、この妖力!!」

「咲夜さん! 熊狸が!!」

「あれが、熊狸・・・なの?」

確かに誰かに答えを求めたい、だけれどアレが熊狸なんだあの場所には、熊狸以外誰もいなかったんだから

「これが、EX化・・・」

「殺意と狂気が入り交じった感じになってるわね、フランなんて軽く越えてるわ」

「レミリアお嬢様、なぜここに!!」

「私だけじゃないわ」

レミリアがそう言った途端に隙間が開いた、そこから現れたのは賢者と呼ばれる妖怪八雲紫

「凄い妖気ね、だけれどこのままじゃここにいる全員大ダメージを食らう事になるわ」

「それよりも紫、本当にアレは熊狸なの？ どう見ても魔性の者よ」

「たとえ、姿が違えど正しくアレは熊狸よ」

「それより先に止める事が先だろ、話しはそのあとだ」

「以外な人物が冷静になってるわね、けれどその通りよ。レミリア、一瞬だけで良いから動きを止めなさいその隙に私がこの部屋だけ別の境界に繋げた後スキマを開いて全員脱出させるわ」

「貴女に命令にされるとなんか苛つくわね、でも今はそれしかないならやるしかないわね・・・真槍「スピア・ザ・グングニル」！」

「動き、がっつと！！」

レミリアが起き上がってこっちに向かって来てる熊狸にグングニルを投げ動きを止め、その隙に紫さんがスキマを開いて全員移動させた

「ふう、なんとかうまくいったいわね。でも長くは持たないわ、最大で三十分が限界よ」

「いきなり紅魔館に行けとか言われて来てみれば、何よこの馬鹿げた妖気は？ レミリアの妹が四人に増えて暴れてるようなものじゃない」

なんで霊夢が紅魔館に、って紫さんが呼んだに決まってるか
多分分かってたんだろうな、こうなる事が

「で、貴女がお目にかかりたいと言ってたEXと呼ばれる熊狸が見
れた訳だけど。どうやって元に戻すのよ」

「簡単な事よ、負の感情に捕らわれてるなら悪霊や魔性の生物とい
った似たものの力を借りれば良いのよ」

「それと私がどう繋がってるのよ」

博麗神社に悪霊、そして紫さんぐらいしか覚えてないっていう事は
もしかして・・・

「霊夢の何代か前の巫女が悪霊を封じてるのよ、でそれを解除して
ほしいってわけ」

「なんで今なのよ、それに悪霊の話なんて聞かされてもないわ
よ」

「そりゃそうよ、次の代の巫女が忘れてそのままずっと眠ってるん
だから」

まさかの事実、というか先代巫女も忘れるなよ

「でも悪霊なんて解き放つたら私達が危ないんじゃない、特に咲夜なん
て人間なのよ」

「そこら辺は大丈夫よ、先代に相手をされていく内に邪気は消えて
今じゃ神のような状態になってるわ」

「・・・博麗神社に神っていたのね、でその元悪霊はどこにいるのよ？」

「床下よ、そして名前は・・・魅魔」

やっぱり魅魔様が、確か魔理沙の魔法の師でもあったよな
そして霊夢は魅魔様を起こす為に一度博麗神社に戻って行った、その間紫さんを除いたメンバーは霊夢が帰って来るまで熊狸の相手をして少しでもダメージを与える

「危なくなったら迷わず逃げなさい、今の熊狸の感情は殺意と狂気だけよ。フランドールよりも厄介な相手という事を理解しなさい、そして最後に一つだけ・・・絶対に死ぬんじゃないわよ」

「私を誰だと思ってるの？ レミリア・スカーレットよ、そう簡単に殺されはしないわ」

「レミリアお嬢様以外の生き物に命を奪われる気はないわ」

「俺だって二人と同じだ、そう簡単に殺されてたまるか」

「そうね、それじゃ行つてきなさい。・・・私の招いた事態だ
というのに情けないわね」

俺達が部屋を出る直前に紫さんが小さく呟いた

狂気のEX、狂い出した少女（後書き）

EXの描写を今ここでします

EX熊狸

異様に伸びた奥歯

身長+40?ぐらい

背中にルーミアと同じ様な翼

瞳孔開きっぱなし

血塗れた服を着てる

以上

どついう容姿か絵でよろしくとか言わないで下さい、画力なんて全くありません

逆に書いてほしいぐらいです

フラン「で、私の出番は何処へ？」

・・・ゴメン、三人が限界

フラン「まあいいか、それでお姉様と八雲紫について補足あるんじゃない？」

うん、レミリアの言ってた魔性の者っていうのは殺気や殺意といったものが人より吸血鬼とか並にあるっていう意味です

憂牙達が熊狸の部屋に向かった後紫は限界に達して熊狸の部屋の境界を元に戻しました

フラン「あと前回の手を貸す発言は霊夢を使っって意味だよ」

まあこれは前から考えてたからね、紫が霊夢を使っっていうのはフラン「これだけは、でしょ。他は全部勢いとノリと妄想」

うるさいうるさいうるさい！！

それよりやつとだよ、やつと魅魔様だよ

フラン「旧作だよね、でも口調とか分かるの？」

自分の中の魅魔様を書く、だから「あれ、なんか口調ちがくね？」とか思っても心の内に止めておいて下さい

フラン「今回はここまでだよ、またグダグダの説明不足でゴメンね？ 後で作者をゆっくり殺つとくから許してね、それじゃ感想や意見待ってます、バイバーイ」

リルは噛ませ犬的なポジションです

終わりをければ全てよし（前書き）

グダグダとかそんなもんじゃありません、もっと酷い何かです
後半はふざけが入ってます

終わりをければ全てよし

「不夜城レッド!!」

「殺人ドール!!」

「竜を討つもの!!」

「消え行く果てに」

さつきからずつとこの調子だ、俺達がスペルを放てば向こうが「消え行く果て」にを使い逃げ不発に終わる

まだ攻撃系のスペルを使つてないのが気になる、がんな事気にして
る暇なんて今はない

霊夢が来るまで時間を稼がなきゃ

「舐めてるの？　ずつと逃げてばかりじゃない」

「べつに、ただ蟻を苛める趣味はないだけだ」

蟻つて、しかもレミリアや咲夜さんまで蟻扱い
本当に熊狸か疑いたくなるな

「グングニル!!」

「.....壊しがいが出てきた」

つ、恐怖が一瞬部屋一帯を支配した

俺達が本気じゃなかったからまともに相手をしなかった、だが蟻扱
いされたレミリアが殺す気でグングニルを投げそれが刺さる・・・
が顔色一つ変えずに刺さったグングニルを引き抜きニタアっと笑う

「お嬢様、やはり手加減は」

「必要ないわ、スペルカードなんて使わずに本気で殺しにかかるわ
よ」

「わかりました」

二人そんな会話をした直後熊狸が刀を振ってきた、いきなりだった
から少し対応が遅れたが俺以外は無傷で避けた

「憂牙、貴方は防御魔法を使ってなさい」

「わかりました」

レミリアに指示された通りに二人に結界を張る、出来るだけ壊れに
くいのを

「はああ!!」

「フンッ!!」

「私の相手も忘れないで下さい!!」

レミリアが攻撃を仕掛け熊狸がそれを受け止める、そしてその隙に
咲夜さんがナイフでダメージを与える

人間である咲夜さんが影に回るのは仕方のないことだ、一度でも心

臓を狙われたらアウト
待ってるのは死だけだ

それから二時間、攻防戦が続いた
互いに避けては攻撃の繰り返し、正直描写しても地味だ

「ちょこまかと、うざいわね」

「だんだん大振りになってきたな、もう諦めたらどうだ？」

「貴女もね、だんだん動きが鈍くなってくるわよ？」

「いらない、こんな世界なんていらない
壊れる、壊れてしまえ」

全部、皆全て壊れて消えてしまえ

「本当にそれで良いの？」

「良いさ、こんな腐りきった人生や世の中なんて消えてしまえばいい
んだ」

壊して、破壊して、殺して、消して、消えてしまえば

「今まで彼と過ごした時間や家族と暮らしてきた思いでも全て消し
て、それで満足なの？」

それは・・・いらない、どうせ親がヤクザってだけで目の敵にされ
蔑まされるだけだ

「周りがどう見ようが、俺は俺の知ってる熊狸を信じるさ」

！？ あのアホの言葉……

「一番欲しかった言葉じゃないの？ 自分自身を信じてくれた彼を消して普通に生きれる？ どんなに馬鹿にしあってもそれは心からの言葉じゃないと互いに分かる人間が先の未来で出会えると思う？」

……じゃあ、どうしたら良い。私は……

「私は、じゃないでしょ。私は私で」

……俺は俺か、だったら……

だったら過去の自分も未来の自分も怒りも狂気も悲しみも全て背負ってバカみたいに長い人生進んでやるよ！！！！

「後はあの子次第さ、光は見せたからね」

「まさか魔法のエキスパートだったとは驚いたわ、でもありがとうこれでレミリア達のところへ向かわなくて済むわ」

「人を眠りから解放したと思ったらいきなり力を貸せなんて言うからどんな事かと思って貸してみたら、ただ友人に光を見せて欲しいってだけじゃないかい」

だけって、私や魔理沙でも人の精神に入り込むような力はないのよそれをこの魅魔ってヤツは簡単にやってのけた、それも顔色一つ変

えずに

いったい何者？　つと今は考えても仕方ないわね、さっさとレミリア達が熊狸を元に戻してくれるまでお茶でも飲みながら待ってところかしらね

「なぜ、なぜ戻ってる！！　私の中の私の口調がなぜ戻ってる！！」

さっきまで焦りも何も感じてなかったのにいきなり焦り始めた、いったい何がどうしたって言うんだ

「お嬢様、もしかして熊狸が意識を」

「多分霊夢が魅魔とかいうヤツを起こしてやったんだと思うわ、運命が変わり初めてるしね」

「壊す、全て赤と白に染め上げる！！」

暴走に近くねえかこれ、てかもうそろそろ結界の維持が持たないぞ

「さっさと決めるわよ咲夜」

「はい、お嬢様」

「馬鹿にするなよ、私に飲まれた弱い精神が這い上がってくるとでも！！」

「「そんなもの、やってみなきゃ分からないってねえ！！！」」

レミリアが前進して相手を掴み宙に投げ飛ばした、吸血鬼の素早さについて来れなかったらしい

そして次に咲夜さんのナイフが襲いかかる、空中で体勢を整えようとしていたところを時を止めてナイフを飛ばしたから避ける事は出来なかった
そして最後に

「神槍・・・」

「幻符・・・」

「竜符・・・」

「スピア・ザ・グングニル／殺人ドール／竜を撃つもの！！」

槍とナイフが赤く細いマスパに乗って飛んでいく、普通なら避けるが竜を撃つもののスピードが加わってるから通常の三倍速い

「これで終わった・・・？」

「多分」

流石にやり過ぎたっぽい、相手に直撃した時の煙が一向に晴れない

「もう飲まれないよう気を付けるわ、だから眠れ」

「嫌に決まってるだろ、私はもう少し暴れたりないんだぞ」

「あまり苛つかせるな、今すぐ泣かすぞ」

「やれるものならやって見せろ、ここは貴様の精神だぞここで暴れればどうなるかわかったもんじゃ・・・」

「つたく、元に戻れると思ったたら次は我が儘だよ」

「自分の一面なんだろうけど物凄く苛つく、マジで殴りたい」

「てか殴るよりもっと過激な事をしたい、例えば手足の爪を剥いだ後右手の親指からゆっくり切り落として指を全部切り落とした後縛り上げて血の滴る音が響く暗い部屋に閉じ込めたい」

「いや、ちょ言ったよね？　ここはあなたの精神だよ？　つまり強く思ったら実際に起きちゃうからああああ！！！！」

「本当に爪剥がられて指を切り落とされてるや、謝るまですつと見とこ」

目覚めない、姿はいつもの熊狸だけど全く目を覚ます気配がない

「指一つ動かさないわね・・・」

「そうですね、後ろで妹様がレーヴァティンを持ってなければ今すぐ逃げたしたいですね」

「そうだな、咲夜さんは見逃してもらえたけど俺とレミリアは見逃してもらえなかったからな」

「ブン！！　ブン！！」

素振りしてますよフランちゃん、やる気まんまんです

お願いだから目を覚ましてくれ熊狸！！　刺されなれてない俺は物凄く怖いんだよ！！！！

「すみませんでした私は調子に乗ってましたこれからあなた様の
いうことを聞きますだから今すぐこの部屋から出して下さい限界で
す」

仕方ない、許すか

一息で謝罪出来たしな

「やっと解放された、さてもういっちょ暴れに」

やっぱ許さないでおくか

「すみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみ
ませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみ
ませんすみませんすみません」

んじゃ俺は戻るからな、変な事しようとするなよ
まあ出来ないだろうけどな

「目が覚めたらそこはレミリアの泣き顔だった・・・」

「熊狸が目を覚まさなかったらレヴァ剣の錆にされるところだった

のよ！！！」

確かにフランがレーヴァティンを研いでるな、むっちゃいい笑顔でレミリアの泣き顔を脳内フォルダに焼き付けた後に後ろで涙目になってるバカに声をかけるか、ある意味このバカのおかげで助かったみたいなものだな

「おい、今にも泣きそうなバカ」

「なんだよ、人に心配かけやがってチクシヨウ」

「悪かったな、心配かけて。実際戻れたのお前のおかげみたいなんだ……ってなんだよその顔」

「いや、あまりに素直だから」

「……、コイツは」

人が素直に礼を言ったのにこれかよ、絶対にもう謝らねえコイツにだけは未来永劫謝ったりしねえ、絶対にだ

「でもまあ、反省してるなら罰は受けてもらわないとなあ」

「そうね、罰は大事よね？」

レミリアとバカがニヤニヤしながらこっちに向かってくるんだけど、って前にもこんな展開あったようななかったような

「さて何を来てもらおうかな」

「このメイド服なんてどう？」

「いえ、熊狸ならこの服も似合います」

参加者が増えてやる！？ てか咲夜の持つてる服は透け透けのワンピースじゃねえか！！

「なによコレ、終わったから様子を見に来たら思いっきり何時もの風景じゃない」

「ヘルプ！！ 霊夢ヘルプ！！」

「いやよ、それよりあんたに話したい人物がいるそうよ」

俺と話したい人物？ 誰だそりゃ、霊夢と一緒に来る人物なんて魔理沙ぐらいしか知らないぞ

「アレはまだ生きてるみたいだね」

「だれ？」

「私は魅魔っていう者さ、よろしく頼むよ感情を操る悪魔さん」

向こうはこっち知ってんだな、でも俺は知らないぞ

「あんたが私を当たり前さ、直接会ったのは初めてなんだからねえ」

「前に一度も会った事ないんですけど・・・」

「あんたねえ、自分の精神内で他にも声が聞こえたでしょ」

他にも？ 聞こえたのは前の自分の声がつてまさか！？

「あれ、あんたがやったのか？」

「そうさ、あんたを導いてやったのさ」

なんてこつた確かに変だとは思ってたけど、まさか紫以外の人物がやってたなんて

「ちょっと待ちなさい、生きてるってどういう事よ！！ アレは私達が倒したはずよ」

「あゝ、確かにアイツまだ生きてるぞ。俺の中で」

つて言った瞬間咲夜の目が充血しました、怖いからマジで怖いからやめて

「でどういふことなの、なぜ熊狸はまだアレを生かしてるのよ」

「アイツが出てきたのは俺がまだ振り切れてなかったせいでもあるだろ、だからちょっと利用させてもらおうってわけよ」

「自分まで利用しようとするなんて、というよりどうやって言つてと聞くようにしたのよ」

「手足の爪を剥いだ後右手の親指からゆっくり切り落として指を全部切り落とした後縛り上げて血の滴る音が響く暗い部屋に閉じ込めた」

『鬼！！ 悪魔！！ 化け物！！ 人でなし！！』

吸血鬼と悪魔と人間離れた人間と霊と妖怪に言われたくない、お前らの方が悪魔だし化け物だし人でなしだろ

「ついでに交代も出来るぞ」

『どこまで人外になる気だ！！』

ヒデエ、確かにEXと交代出来るとかまず出来ないよなあ
でもまだアイツ完全に言うこと聞いてくれないから困るんだよな

「まあとりあえず眠いから俺は寝るわ、おやすみ」

「ちょ、つてもう寝てるわね。仕方ないから私達も帰るわ、それじゃ」

「また来るよ」

「どつと疲れたわね、咲夜お茶」

「はい」

「……結局何時もと変わらないのかよ！！！！」

終わりよければ全てよし（後書き）

ユウリ「リルが憂牙以上の空気、忘れてたな」

リル「酷い！！ 噛ませな上に空気！？」

ごめん、書き終わって気付いた

次回には多分出られるよ、大丈夫大丈夫

ユウリ「で、結果的に何がしたかったんだよ」

異変みたいな事と憂牙を目立たせたかった、正直後悔してる

ユウリ「相変わらずか、もうほのぼの書いとけよ」

うん、そうしとく

リル「ツツコミとか待ってるよ」

待たせた結果がこんな出来ですいません、スライディング土下座で許して下さい

それでは感想や意見等待ってます、さようなら

魅魔「あたしゃここにいるよ、で良いのかい？ とりあえず言っとけって言われたから言つといたよ」

パーティー開催その1（前書き）

ただの思い付きです

パーティー開催その1

「あれから、アレの様子はどうだい？」

「時々夜中に勝手に出ようとして咲夜や美鈴に確保されてる」

「頑張りなよ、あんたが気をしっかり持っていないとまた前みたいに奪われるかも知れないからね」

魅魔様それ冗談になりませんよ、あの後咲夜とレミリアが1日中ナイフとグングニル投げてきたんだから
まあその後アイツをしっかりとお仕置きしといたけど

「今度あんな事になってももう手を貸さないわよ」

「大丈夫、常に檻の中だから」

ホントね、可哀想だと思うよ

毎日血の滴る音がする檻の中に閉じ込められてるんだから、一応言
つとくけど自分だからな

例えるならもう一人のボクみたいな感じだから

「で、家に来た用件はそれだけ？」

「あゝ、レミリアがパーティーするから来いってさ」

「わかったわ、美味しいものが食べれるなら行くわ」

「OK、それじゃ」

という風なワケで今夜パーティーをします、なぜかって？　いつものきまぐれに決まってるだろで、それを伝えに回ってるワケ

霊夢と魔理沙は終わったから次は白玉楼へ向かわなきゃなんのだな、面倒臭い

でもやらなきゃ紅魔館に帰れない、美鈴が仕事してるからな知ってるか？　最近美鈴が気で身体強化とか出来るようになったんだぜ、しかもその状態で門の前に立ってるから威圧感が半端ないなんか仕事せずに帰ったらぶっ飛ばされそうなんだよ、多分ないとは思っけど

「つとそうだ、来るときはいつもと違う服装で来ってさ。なんか仮装パーティーらしいから」

「わかったから早く出ていきなさい、変態ガチレズ女」

「酷い、白玉楼行ったらこの妖殺し飲も」

「ちょっとそれ私のよ！！　待ちなさいってもう逃げやがった、今夜覚えてなさいよ・・・」

ふいゝ危ない危ない、霊夢が作った酒があったから拝借してきたぜさてさつさと白玉楼行って幽々子さんと一緒に飲むか、妖夢に手合わせ要求されそうだけど

く少女移動中く

「という訳で今夜紅魔館で仮装パーティーするから来てちょ」

「分かったわ、という訳だから妖夢あなたはセーラー服を着て行きなさい」

「なら幽々子様はポニーテールでミニスカニーソのセーラー服で行って下さい」

最近妖夢が強く出てるなあ、

というか何気に凄い要求してないか

ミニスカニーソのポニテ幽々子様なんて見たら死ねるぞ

「妖夢にそんな趣味があつたなんて、これも熊狸の影響ねえ」

「押し倒されないように気を付けて下さいね」

「しませんよそんなこと、というか熊狸さんが一番しそっじゃないですか」

「妖夢、今の彼女じゃそこまで出来ないわよ。他のことに神経使わなくちゃいけないから」

ウツハもう知ってらっしゃるよ、まあ幻想郷で長生きしてる人物にだいたい嘘は見抜けないってことか

「そうですか、パーティーの最中酔っ払って押し倒されないか心配してたけどその心配はなさそうですね」

「もう幻想郷中に変態だって伝わってるのね・・・」

「なにをいまさら」

ですよねー、どこぞの烏天狗の新聞に毎掲載ってるから当たり前で
すよねー

しかも本当にあつた事しか書かれてないから余計にたちが悪いし

「まあいいや、とりあえず伝える事は伝えたんで俺はこれで」

「また夜に会いましょう」

「はいよつと」

ああー疲れた、妖殺し飲めたから良いけどあの人の前だと少し警戒
しちゃうから変に緊張しちゃうんだよな

まあある程度伝えたし大丈夫だろ、というわけで紅魔館へゴー

く少女移動中く

「という事で帰ってきましたた、そして手にフリフリのドレスを持っ
て近付くな」

「仮想パーティーなんだから貴女にもそれらしい格好をしてもらっ
わよ・・・フフツ」

帰ってきたらいきなり部屋に連れ込まれて着せ替え人形になれとか、
処刑に近いぞ

しかも用意されてる服がフリフリドレスとかコスプレってどういう
事だよ

「てかスカーレット姉妹の格好はどうなんだよ・・・」

「良いじゃない、普段しないような格好よ」

確かに普段しないような格好だけどさ、でもなんで人の服を着るかなあ

しかもお下がりってどうなのよ、服装は今は言わないけどさ

「それで、熊狸はどれにするか決めたのかしら？」

「一応ちゃんとしたパーティーなんだろう？　だったらそれ相応の服を選ぶわ」

「ええ、期待してるわね」

さてと、ドレスか着物かどっちを選ぶかな

まあ着物ってか和服だけど、とりあえず部屋に帰ろう
レミリアの部屋で考えても仕方ないしな

「確か前に探して見付けたハズなんだけど・・・とあったあつた、
だいたい集会か祝杯をあげる時ぐらいにしか着なかったやつ」

それにしても・・・少し鉄臭いな、やっぱり血とか当たらない場所にいりや良かったなあ

毎回いつも集まったら殴り合いとか他の組が攻めてきて流血沙汰になつたりしたから仕方ないか、それに俺も参加してたし・・・

「まあ今さらだけどな、んじゃちよつくら着てみつか」

く少女試着中く

「うゝん、妙に赤い部分が多々あるなあ。特に胸の辺りとか袖とか」

「熊狸はなに着るか決まったか？」

「一応これで行くつもりだけど？」

「久々に見たな、お前のちゃんとした格好」

るせえ黙つてろ、てかちゃんとしたってなんだちゃんとしたってそれじゃまるで普段はまともな格好してないみたいじゃないか確かに女らしい格好はしてないけどさ、それでも今の世の中には女装男子があるんだから逆もあつて良いだら

「どうでもいい思考は良いから早く出てってくれよ、着替えられないだら」

「大丈夫だ、お前の裸を見てもなんとおもわん」

「こつちが恥ずかしいわ！！ 女子に見られながら着替えれる程立派な男じゃないんだよ！！」

「はいはい、出りゃあ良いんだろ出りゃあ」

「最初っからそう言っただらう・・・ったく」

憂牙に追い出されちまったな、仕方ないからリルにでも会いに行くかあれからまあレミリアがお仕置きと称してストレス発散してたから大分大人しくなったんだよな、俺が求めない限り襲うなっていう契約の元で紅魔館にいるからな

「リルちゃん、悪戯しに来たよー」

「・・・どなたで？」

それはボケか、それとも本気か？
この服装が悪いのか？

「どなたって、俺以外にリルちゃんって呼びに来る奴いるか？」

「変態悪魔だったのね、見た目が違うからわからなかったわ」

「服装しか変わらないだろ」「はいこれ手鏡、自分の顔を見てみなさい」
・・・」

セリフキャンセルされた、で顔？ そんなに変わらないだろ・・・
・変わってました、睨み面な上にツリ目になってます
確実に組の話し合い状態だな、よく憂牙のヤツ普通に話せたな
流石にもう慣れたのか、yesロリータnoタッチを直に行ってる
ヤクザに囲まれてたしな

「で、何のようよ。パーティーなんて私は出ないわよ」

「あつそ、それじゃ意味ねえやんしゃ」

参加しないのか、残念だ
せつかく胸を強調した衣装を見付けたから着させようと思ったのに、
本当に残念だ

くそれから時間が経ちく

「もうすぐね、もうすぐ霊夢とか霊夢とか霊夢の仮想が見れるのね」

霊夢しかないじゃないかよ、他にもあるだろ
魔理沙とか妖夢とか紫とか

「パーティー開始です！！！」

お、始まったみたいだな

ここでレミリア達の服装を紹介しとこうか、まずはレミリアの服装
から

黒と白の縞模様のニーソックスにねずみ色のスカートで上が白のワ
イシャツだ、一応俺のだからな

まだ普通の女の子だった時のだし、今だったら絶対に着ない
んじゃないフラン

上着が黒のワイシャツなだけでそれ以外はレミリアと同じ、まあ姉
妹だしな

咲夜はパーフェクトメイドならぬパーフェクト執事、美鈴はどこで
見付けたか知らないけどメイド服だ

しかもポニテ、これは萌えざるをえない
で、憂牙は普通にスーッ

地味に似合ってるから苛つく、最後に俺の服を詳しく描写すると
薄い黒の和服、胸の辺りと袖の辺りに赤が混じってる
といった具合だ

「さて、私達も参加するわよ」

『やっほー』

そう言つて用意された食事や集まって来た参加者、ワイン等のアル
コールに向かうのは憂牙とフランと美鈴……っとレミリア

「カリスマも何もないな、その方が楽で良いけど」

さてと、俺もこのパーティーを楽しみますか

先ずは久々に飲むか、今は疲れてないしそれどころか絶好調だから
そう簡単には酔わないだろ

「あら、あんたワインもいける口なのね」

「まあな、ってなんだよその服装」

「紫が用意してくれたのよ、「霊夢ならこれが似合うわよ」って」

紫、お前絶対霊夢にコスプレさせたかっただけだろ

そうじゃなきゃアッ。ユフォー。学園の制服なんて着せないよな、
そして霊夢も何の躊躇いなく着てるし

「人の服装のことならあんたも言えないでしょ、何よその服装」

「虎狼組の頭領ヶ娘、熊狸です。以後よろしくお願いします」

「よろしく、ってそれ一家の集まりとかで着る服装？」

「そうだけど、なんか変か？」

「何時ものが嘘のように似合ってるわよ、悔しいけど」

素直に嬉しいわ、ちゃんとした服装なんてこれしかなかったから
後はフリフリドレスかコスプレだったな、本当にあって良かったと思っ
うわ

「それじゃ私は行くわよ、次の料理を食べに行かなくちゃいけない
から」

「はいよ、んじゃ後で」

それじゃ俺も次の参加者に声をかけてくるか

パーティー開催その1（後書き）

仮想パーティーという名のコスプレパーティーです

熊狸「霊夢以外は普通だな、いきなりギ○スネタが出たから後が怖いな」

大丈夫だ、問題ない

熊狸「で、魅魔様の服装もあったりするのか？」

一応考えてるよ、んじゃ喋る事もないから締め頼んだ

「感想や意見等待ってます、では次回にて」

パーティー開催その2、コスプレのターン終了

やっぴー熊狸です、これから参加者を捕まえてどんな服を着てくるか見に行ってくるぜ

「って言っても既に見付けてただけだな」

「誰に言ってたんだ？」

「一人言一人言、で魔理沙その格好は俺か？」

ネックレスはさすがにしていけないけど、Ｔシャツにダメージジーンズなんて俺をイメージしなきゃ絶対に着ないだろうな

「私に似た人物をイメージしてみたぜ」

「男っぽいからなあ、でそのタツパーはなんだ？」

「勿体ないから詰めとけてって霊夢に言われて・・・」

なるほど、そりや仕方ない

んじゃ俺は邪魔になるから次の獲物を探るか、てかさっきから視界にちよろちよると魔女が入る

多分コスプレだろうけど、一応行くか

「なんつー格好してんだよ」

「妾は黄金の魔女ベアト」やめろ」仕方ないわね、せつくなりきろうとしたのに」

「だから言っただでしょ紫？ なりきりまでしたら止められるって」

うわあ、二代無限の魔女が揃ってるよ

ワ。ギリアが幽々子さんでべ。トが紫、いったいなにやってんだよこの二人は

「むきゅ、まさか同じような考えをしてたなんて・・・」

「お前は奇跡の魔女か、パチュリー」

なにこれ、なんでうみ。この魔女コスしようなんて思ったのコイツらマジで理解出来ない

「幽々子様、ここに居ましたか」

「あら妖夢、私の事は放つといて楽しんでたら良かったのに」

「そういう訳には・・・」

妖夢は・・・誰か頭痛薬プリーズ、緋村抜刀斎のコスプレした少女が見える

剣士だからか？ 他にもいっぱいいるだろ、トマトが嫌いな四英雄の一人とかルート次第では死ぬ神子とか

「それにしても、熊狸がまともな格好してるなんて驚いたわ・・・」

「私もよく、またなんかのコスプレしてると思ったのに」

「正直予想の斜め上をいきましたね」

俺に常識がないと思ってるのか、残念だが常識ぐらいあるぞ
殺す気のない相手は殺すとかテメエで作ったルールは死んでも貫
き通せとか、あれこれって常識じゃなくね？

「紫様、あまりうるちよろしないで下さい。探すのが大変です」

「そうですよ、藍様の身にもなって下さい」

「なあ、なんで羽衣狐とネコ娘なんだ？」

「「紫様に無理矢理」」

可哀想に、藍なんて髪の毛染められてるし
というか紫はなんで式にまでコスプレさせたよ、しかもキャラに合
わせてるし

「良いじゃない、二人とも今日は私に構わなくて良いのよ」

「「紫様の呪縛から解放されたキャッホーイ」」

泣くな紫、お前は強い女だろ
例え普段見せないような笑顔をしながら式二人が行ったとしても泣
くな

「そつえば熊狸、レミイが呼んでたわよ？　なんかやるから来い
って」

「ん、マジでか面倒臭いけど行くしかないわな」

「つたく、人がせっかくゆつくり飲みながらコスプレで参加した人物と話してたのに」

「で、相変わらず優雅に料理を食べてるレミリア」

「服に食いかスが少々落ちてるのは見なかった事にしよう」

「それで、人を呼び出しておいて自分は優雅にお食事か？」

「これからゲームを始めるわ、あなたにはそのゲームに参加してもらうわよ」

「いきなりだなあ、てかパーティーの次はゲームかよ」

「どんだけ遊びたいんだコイツは」

「まあでも暇だし付き合うか」

「で？ そのゲームってのはいつ始めんだ？」

「今からよ、パチン」

「レミリアが指を鳴らすとなんか意識が遠退いて・・・」

「っ、こっは・・・」

「全く、いきなりなによ」

「なんですかいったい」

霊夢と妖夢も飛ばされたか、それにしてもここはいったいどこだよ
『ハローハロー、聞こえる？　これからあなたたち三人には駒にな
つてもらうわ、そしてこのゲームは誰でも知ってる人生ゲームよ。
これからパートナーを紹介するから良く聞きなさい、まず霊夢は八
雲紫よ、次に妖夢は西行寺幽々子、熊狸は憂牙よ。それじゃ私達が
ディスプレイで観とくから』

「っ「ふざけんなー！！！！」」」

三人の心が1つになりました、いきなり人生ゲームの駒にされたら
誰でも怒るわな

しかも霊夢と妖夢は時前の連絡も無し、レミリアの思い付きには呆
れを通り越して感心するわ

「人生ゲームつて事は上がれば終わるわけよね？　それならさっさ
とゴールに向かわせなさい紫」

「頼みましたよ幽々子様」

「妙なマスに止めるなよ」

『任せなさい／任せて妖夢／りよーかい』

三人いっぺんに喋るな、聞き取りづらいだろ

まあこうして、パーティーの出し物として人生ゲームをやらされる
羽目になった俺と妖夢と霊夢であつた

パーティー開催その2、コスプレのターン終了（後書き）

パチュリーは梨花ちゃんとどっちにしようか迷いました

熊狸「コスプレの次はゲームか、しかも駒」

コスプレだけで終わらす気はない、それとキャラが少ないのは完全招待制だからです

熊狸「魅魔様はどうした？ 確か出すと言ってたよな」

書いてる内に忘れてきて気付いたら後書きの内容考えてた

熊狸「仕方ないからここで言っとくか、魅魔様の衣装はメイド服だ。しかもヒラヒラの付いた、霊夢が無理矢理着せたらしい」

ところで話し変わるけどさ、もうすぐPVが40000ユニークが5000いきそうなんだ

熊狸「で、記念に作る話の内容をリクエストして欲しいと？」

うん、無茶な内容じゃなけりやある程度は出来ると思うし

熊狸「兆が一コラボとか来たらどうすんだ？」

どうしようね？ 多分やると思うよ、ただ変態率の高い作品だから他所のキャラにまで変な事しそうだからなあ・・・

熊狸「まあ、希望があつたら感想にでも書いといてくれ」

記念はパーティー終わった頃ぐらいに書くと思います、それではまた次回にてお会いしましょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2602s/>

東方、妙なのが幻想入り

2011年11月20日17時45分発行